

## 大統合自然史（仮称）

### 第八回 大統合自然史授業開発研究会

開催日時：平成29年5月30日（火）13:30-17:00

開催場所：AP品川アネックス

#### 【概要】

平成29年5月30日（火）に、AP品川アネックスにおいて、第8回大統合自然史授業開発研究会が行われました。第8回研究会では、「大統合自然史II 生命・人類編」の実質的な講義内容について議論が行われました。特に、各授業担当者の間で、講義内容に関する分担・擦り合わせが行われました。また、課題図書や事前・事後課題についても、案が提示されました。

#### 【「大統合自然史II」の授業スケジュールについて】

最初に、鎌田先生から今回の研究会の趣旨説明があり、簡単な参加者自己紹介の後、七田先生から授業スケジュールについての説明がありました。

概要は以下の通りです。

9月13日 場所：JT生命誌研究館

0講：対面授業のガイダンス

1講：大統合自然史生命人類編の時間軸について（伊村智先生）

2講：生命誌研究館見学（中村桂子先生）

3講：遺伝子と神経系・脳の発達について（岩里琢治先生）

9月14日 場所：国立民族学博物館

1講：民博の展示哲学について（吉田憲司先生）

2講：人類の移動について（関雄二先生）

3・4講：民博展示から学ぶ人類のあり方（久保正敏先生・藤井龍彦先生）

9月15日 場所：スペースアルファ（富士ゼロックスの外部向け研修施設）

1講：進化について（長谷川真理子先生）

2講：環境と人類について（阿部健一先生）

3講：ディスカッション

\*) 7月25日に総研大の遠隔授業システム「テラス」を用いて鎌田先生がガイダンスの講義を行う。

#### 【「大統合自然史II」の各講義内容について】

続いて、各講義内容について授業担当者から説明がありました。

極域科学専攻の伊村先生からは、最初に年表を用いて講義で登場するイベントを時間軸上に位置付け、「全球凍結」「生命の陸上化」「気候変動と人類史」といったテーマを扱うという説明がありました。大石先生から「生命の始まり」、広海先生から「海洋形成」「隕石衝突」を取り上げる必要性について指摘がありましたが、鎌田先生から時間的な制約から全てを扱うのは困難であり、課題図書で対応するつもりであることが説明されました。

遺伝学専攻の岩里先生からは、行動を生み出す脳の基本的な構造・働きについて説明するとともに、モデル生物の重要性やゲノム編集などの新しい技術、アレン脳地図のようなビッグデータについても扱う予定であることが説明されました。阿部先生から「報酬系」、広海先生・長谷川先生から「ミラーニューロン」について取り上げて欲しいとの要望がありました。

質疑の中で、本講義の目的をビッグピクチャーの中で自分の研究を位置づけることができるようにすることとすべきだとか、研究をするにまで至る知的活動を可能とする一方、欲望をコントロールすることができないという、ヒトの特性の生物学的基盤を抽出して講義すべきだとの意見が出ました。さらに、本講義は自然科学なのか倫理学なのかといった議論にまで及びました。

地域文化学専攻の久保先生からは、梅棹忠夫の考えた民博のコンセプトについての話題が提供されました。露出展示を原則とすることについて、展示しているのは上流階級のものではない「ガラクタ」であり、実際に触れることで現地の人を感じることが目的とされていることが説明されました。当初は、知的好奇心が高い人が来ることを想定して説明を少なくし、来館者自身が文化の背景にある構造を把握することが求められる構造展示の形を取っていたが、最近では、展示は現地から切り取られたものであり、その展示を通して展示する側・される側・見る側の3者が話し合うという、フォーラム型展示の形を取っているという、展示理念の変遷についても説明されました。また、学生が広い敷地を有する民博の展示を廻り意義のある理解を得るためには、「水の器」「宗教」といったテーマを設定することが有効ではないかとの提案がありました。説明を受けて、予習の必要性、自然科学との関連、大統合自然史の中での位置付け・意義付けなどについて議

論がなされました。

総合地球環境学研究所の阿部先生からは、地球環境問題から見てくる人類の未来をテーマにすることが説明されました。西洋では、適者生存のような機械論的な進化論を超えつつ、道徳臭さを無くした倫理学が始まっていることが紹介されました。気候変動枠組条約のような、地球環境問題に関わる世界的な動きを紹介された後、人類が地球の気候・生態系に大きな影響を及ぼしていることを表した人新世という概念を紹介されました。また、企業活動に頻繁に登場する単語はproject、profit、・・・のように「pro」が接頭辞として付くものが多く、近代の特徴は前のめりの姿勢であるという鷲田清一の指摘が紹介されました。最後に、フォアキャスト思考かバックキャスト思考かという切り口で、地球の限界・人類の限界について学生に考えてもらいたいとの説明がありました。

#### 【課題図書と事前課題・事後課題について】

最後に鎌田先生から、ガイダンス講義の概要について説明がされた後、課題図書と事前課題・事後課題について説明がありました。課題図書の候補として「ビッグヒストリー」「サピエンス全史」「銃・病原菌・鉄」「進化の教科書」「アメリカ版大学生物学の教科書」「人類と気候の10万年史」「生命誕生」「Homo Deus」が挙げられましたが、もっと適切な本があれば紹介して欲しいとの話がありました。大石先生から課題図書として「宇宙生命論」の推薦がありました。

#### 【まとめ】

以上のように、各講義の実質的な内容が紹介され、全体としての方向性を一致させるべく、擦り合わせの議論が活発に行われた、有意義な研究会でした。各講義の位置付けが明確となったため、今後、各授業担当者が講義の準備をする上でも非常に重要な意見が得られたと考えられます。

#### 【会の様子】







## フレッシュマンセミナー

2014年に始まった新入生を主たる対象とした総合教育科目です。他の研究科、専攻の学生、教員との交流を深める絶好の機会ですので、ぜひご参加ください。



フレッシュマンセミナー 7 October 2014



フレッシュマンコース 8 April 2014

[過去の学生セミナーはこちら](#)

## フレッシュマンコース 8-10 April 2014

入学式、学生セミナーを終えて、4月8日の午後から本年度初めての試みであるフレッシュマンコースが開催されました。



新入生間の横のつながりを促進するプログラムであることを説明する平田学融合推進センター長



「学長との懇談会」 学長のみならず、長谷川副学長、永山理事のお二人にも加わっていただき、学生からの研究者としての生き方に関するさまざまな質問に答えてもらいました。



翌日の4月9日第1限は、長谷川眞理子副学長による「科学と社会1：科学と科学観の変遷」。科学の発展の歴史を文化や社会の観点から時代区分し、各時代での科学のあり方、捉え方の違いについて語られました。



第2限はこの3月末に総研大を退職された池内了前理事による「科学と社会2－科学倫理」。社会的にも研究の不正に対する注意が集まっているなかでの研究者の持つべき倫理の基本について話していただきました。



第3限は「科学と社会3：科学を取り巻く世界」という日本の科学を支えている社会の仕組みについての講義を長谷川眞理子副学長に語っていただきました。



第4限は桂 勲遺伝学専攻長に、「研究者となる心構えとは」など、新入生にとって最も身近な課題について話していただきました。



第5限は「ITリテラシー概論」。コンピューターで扱われる情報とはという基礎から、オンラインのセキュリティに関する実践的な話題まで話していただきました。



最終日の4月10日には、各研究科にわかれて研究科オリエンテーション行われ、今季のフレッシュマンコースは修了となりました。閉講式で、「学生セミナー・フレッシュマンコースで築いた学生間のつながりを今後ももち続けてもらいたい」と挨拶をする桑島邦博特任教授。



## フレッシュマンセミナー 7-10 October 2014

2014年10月7日に入学式とともに葉山でフレッシュマンセミナーが開催されました。



入学式の様子



学生セミナー、今年のテーマは「ODYSSEY」



明石先生による講演「International research in SOKENDAI」



Social gameを通じて知り合う新入生



先輩達から新入生へのメッセージ



懇親会も盛り上がってます



大須賀先生のJapanese cultureに関するご講演



みんなで融合的なプロジェクトを考えるワークショップ





集合写真



桂先生による「研究者入門」

総研大ガイダンス



科学・技術と社会のワークショップ



今年の学長懇談会は各テーブルに分かれて



長谷川副学長との懇談、どのテーブルも楽しい雰囲気でした



テーブルごとに記念写真をパチリ



最終日は科学と社会史の講義から始まりました

## 学生セミナー

全専攻の新入生、在校生並びに教員が一同に介してディスカッション・意見交換等を行う、専攻横断的な学術交流の機会を設け、幅広い視野を持った研究者育成への礎とすることを目的に開講しています。本セミナーは、在学生から構成する学生セミナー実行委員会が主体的に企画・運営を行い、招聘講師による講演や、グループディスカッション・ワークショップ等のセッションを企画しています。



学生セミナー 7 April 2014



学生セミナー 7 October 2013



学生セミナー 8-9 April 2013



学生セミナー 11 October 2012



学生セミナー 12 April 2012



学生セミナー 13 October 2011



学生セミナー 7 April 2011



学生セミナー 7 October 2010





学生セミナー 8 April 2010



学生セミナー 8 October 2009



学生セミナー 9 April 2009



学生セミナー 9 October 2008



学生セミナー 8 April 2008



学生セミナー 11 October 2007



学生セミナー 5 April 2007



学生セミナー 12 October 2006



学生セミナー実行委員  
委員会活動

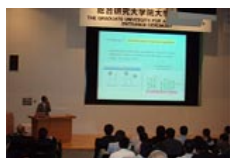
## 学生セミナー 12-13 October 2006

平成18年度（後学期）学生セミナー「挑戦」開催

<日時>2006年（平成18年）10月12（木）～10月13日（金）

<会場>総合研究大学院大学（葉山キャンパス） 神奈川県三浦郡葉山町（湘南国際村）

<参加人数>76名



平成18年度後学期学生セミナーが、『挑戦 -Challenge-』というテーマで開催されました。毎年恒例の1泊2日の合宿型の学生セミナーは、総研大学生である実行委員が主体となり企画・運営されています。特に後学期学生セミナーでは、他国からの留学生が多いために全て英語で進行される国際色豊かな催しとなっています。

セミナー初日は異なる研究分野の先生方や総研大学生の画期的な講演が行われ、先生はじめ新生を含む学生から多くの質疑応答があり好調に進行しました。夕食時には、先生方と学生との垣根のない歓談が行なわれ楽しいひとときとなりました。夕食後は各部屋にわかれ、ディスカッションリーダーの先生方を中心にフリーディスカッションが行われました。和やかな雰囲気の中にも刺激的な論議が繰り広げられ、各自の考えや思いを英語で伝える良い機会となりました。



夕食での歓談風景



夕食での歓談風景



フリーディスカッションの風景

2日目は宇宙研の方々の多大なご協力を得て、学生セミナー初企画のペットボトルで作る水ロケットアクティビティを葉山キャンパス近くの空き地で行いました。最初に宇宙研の方によるレクチャーが行われました。次に5人1組で構成される先生2チームと学生8チームを作り、その中で協力し合い1人1機オリジナルロケットを作成し、テスト飛行を行いました。その後、各チームそれぞれ1機を選び、目標地点の近くに着地させることができるかという点を競いました。

協力し合いながらロケットを作製して飛ばすというアクティビティでは、『チャレンジ』『クリエイティビティ』『コミュニケーション』『ディスカッション』という私達の研究生生活において重要な4つのキーワードを認識することができ、ただ単に水ロケットの打ち上げを楽しむだけでなく学生同士や教員との交流を深める大変有意義な時間となりました。



水ロケット作成のレクチャー 水ロケットアクティビティ風景 優勝された先生チーム

今回の学生セミナーを通して、各専攻の先生と学生が快活な議論を交わしながら親睦を深める良い機会となったものと思います。そして何より私自身実行委員としてこの学生セミナーに関わり、積極的にコミュニケーションを取ることで、新生や他専攻の学生と楽しく交流を深めることができ、清々しい気持ちでセミナーを終えることができました。

ご多用の中、参加していただいた先生、学生、ご協力いただいた多くの方々に深く感謝申し上げますと共に総研大の皆さまの益々のご発展、ご活躍を心よりお祈り申し上げます。

（生理科学専攻 間野 陽子）



2006 2nd Semester Student Seminarのパンフレット(PDF)は、[こちら](#)からダウンロードできます。



## 学生セミナー 5-6 April 2007

平成19年度（前学期）学生セミナー「2007年 研究者への旅」開催

<日時>2007年（平成19年）4月5（木）～4月6日（金）

<会場>本学葉山キャンパス及び湘南国際村センター

<参加人数>182名

緊張感に包まれた入学式の後、会場が暗くなり、前方のスクリーンにムービーが流れ始めました。タイトルは『2007年 研究者への旅-A Researcher's Odyssey-』。2日間にわたって開催される平成19年度前学期学生セミナーの幕開けでした。今回の学生セミナーの主旨は、研究者なら誰もが通過するであろう道程、すなわち「発心」「挫折」「希望」を新入生に体験してもらうことでした。まず「発心」セッションでは、第一線で活躍されている先生をお招きし、ご自身の研究生活や新入生へのアドバイス等を語って頂きました。紆余曲折した研究生活の中で信念を曲げず自らを貫く姿勢に、誰もが研究意欲を触発された事と思います。その後、新入生、先生方、セミナー実行委員を交えての夕食会が、和やかな談笑のうちに進められました。夕食後は「挫折」セッションです。班に分かれてアイディアを出し合い「挫折」をシミュレーションするという共同作業を通して、新入生同士の距離が縮まったのではないのでしょうか。各班から様々な挫折のあり方とそれを克服する方法が発表され、大いに盛り上がりました。特に、総研大の先生だけで構成された班のシミュレーションでは、現実感が漂いながらもささやかな願望が見え隠れし、会場が爆笑に包まれました。この高揚感はその後のフリーディスカッションへと続き、専門分野を越えての意見交換や研究を熱く語る姿が多く見られました。2日目は、「希望」セッションです。まず、人類進化の過程を追求する研究者の講演から始まりました。人類化石の分析には科学技術が駆使されますが、その化石は汗と埃にまみれた発掘調査によって獲得されるのです。このような地味な作業の積み重ねが新発見へと導くことを再認識しました。このご講演を踏まえて、新入生は事前に選択した「希望」に関連するキーワード別に分かれて、グループ討論を行いました。他専攻の学生との活発な議論に、多いに刺激を受け、また共感を覚えたとの感想が聞かれました。



ところで実行委員にとっても、大きな収穫が得られたセミナーとなりました。企画・準備段階から当日の運営まで難儀もありましたが、セミナー成功に向け、全員が一丸となって取り組みました。その結果、自ずと専攻の枠を越えた絆が生まれ、総研大生としての誇りを共有することができたのです。

学生セミナーの終幕には、新入生とスタッフ全員の氏名がエンドロールでスクリーンに映し出されました。各々の「研究者への旅」は、始まったばかりです。素晴らしい出会いと研究への情熱を原動力に、前進あるのみ。もし、旅の途中で大きな壁にぶつかったら、この仲間たちに支えてもらえば良いのです。最後にそう実感した学生セミナーでした。

（比較文化学専攻 浅見恵理）



平成19年度（前学期）学生セミナーのパンフレット(PDF)は、[こちら](#)からダウンロードできます。

## 学生セミナー 11-12 October 2007

### 平成19年度後学期学生セミナー "Big things start small" 開催

平成19年度後学期学生セミナーが10月11日から12日にかけて開催されました。今回の学生セミナーのテーマは "Big things start small"。 「小さなことを積み上げていくことが想像できないほどの大きなことにつながるに違いない」、これを希望に満ちあふれている新入生に対するメッセージとしました。学生セミナーは、総研大の色々な学科の在校生がセミナー委員となり計画、実行します。例年、後期の入学生は留学生が多いことから、日本を理解してもらうこと、また、お互いに多くのコミュニケーションがとれるように心がけてセミナーを進行しました。

1日目は、国立遺伝学研究所の太田朋子博士による講演とフリーディスカッション、夕食後のアクティビティーが行われました。太田先生には遺伝子とゲノム進化の偶然性と必然性に関して最近の動向を交えた興味深い講演をしていただきました。

フリーディスカッションでは5つのテーマごとに各部屋に分かれ、教員の方々と交えた熱いディスカッションが繰り広げられました。他分野の方たちとディスカッションすることで、お互いの分野や考え方を分かち合う大変有意義な時間となりました。

夕食時には、コミュニケーションが円滑に進むように工夫されたゲームが開催されました。教員の方々にも参加していただき楽しい一時となりました。



太田朋子博士による講演 フリーディスカッション 夕食でのコミュニケーション

夕食後は、日本文化を知ってもらうために用意されたカルチャーオリンピックを開催しました。まず、用意した世界地図に、新入生の各々の出身地を記してもらい、その後各グループに分かれて、お箸での豆つかみ、けん玉、紙飛行機の競技を行いました。初めての箸使いやけん玉に戸惑っていた新入生がいたり、出身地によっていろいろな形の紙飛行機の折り方があったりと文化を再認識する良い機会となりました。グループごとに競い合うという形式が、その場を大変盛り上げ一体感のある活動となりとても楽しい時間でした。



カルチャーオリンピック カルチャーオリンピック カルチャーオリンピック カルチャーオリンピック



D.D.Bhawalkar博士による講演 ラジオの製作

二日目は、D.D.Bhawalkar博士による講演とラジオ作成が行われました。D.D.Bhawalkar博士は、私たちの日常でも多用されているレーザー技術のすばらしさに関して講演してくださいました。

その後、天文科学専攻のセミナー委員の指導のもとで、鉱石ラジオの製作を各グループに分かれて行いました。葉山は電波状態があまり良くないこともあり、はじめは独自のトランスミッターを用いて音楽プレーヤーからの音を受信することを最終目標にしていたましたが、外にのびされた長いアンテナでAMラジオの電波受信にも成功したグループもありました。厚紙、アルミホイル、コイル、コンデンサーなど単純なパーツを元にした簡単な回路でAMラジオが受信できたことは、新入生だけでなく私たち実行員にとってもとてもエキサイティングなことでした。



今回の学生セミナーは計画時には想像していなかったほどの大成功を収めることができました。学生セミナーのパンフレットの表紙には「Big things start small」も意味するバタフライ効果にちなんだイラストがありますが、本セミナーの成功は新入生だけでなくこのセミナーに関わってくださった教員の方や学生、ご協力をいただいたたくさんの方々の羽の効果があったからだと感じています。参加してくださった先生や学生、実行委員会を暖かく見守ってくださった教員の方々に深くお礼を申し上げます。また、新入生、総研大生の方々のこれからの研究の大きな成果につながりますよう心よりお祈り申し上げます。

(遺伝学専攻 石井亜矢子)

## 学生セミナー 8-9 April 2008

平成20年度（前学期）学生セミナー「Wa 我・話・和 We talk together」開催

今年の春に第23回を迎え、総研大恒例行事となっている前期学生セミナーは、平成20年度のテーマとして「Wa -我、話、和-」を据えて、1泊2日の合宿形式で催されました。学生セミナーは、その名のとおり、総研大でこれから学ぶ新入生、及び在学生の自己研鑽を目的として、学生主体で企画運営されるセミナーです。今回は総研大新入生72名と在学生38名及び教員20名が参加しました。

学生セミナーは異なる専攻に所属する学生が交流しお互いに刺激をうけ、成長することを目的としていますが、今回、特にこのセミナーを1つの機会として総研大生にコミュニケーションについて考えてもらえるよう企画が構成されました。私たちが研究者として成長して行くうえで自分を表現すること、お互いの意見を理解する事、お互いの考えを融合させて新しいアイデアを創り出す事が不可欠であると考えられます。そこで、この3つを各セクションのテーマとし、参加者にグループワークを通じて対話の難しさ、面白さを体験してもらうこととしました。

1日目にはまず、国立科学博物館の小川義和先生からサイエンスコミュニケーションについてご講演いただいた後、全員で少し変わった自己紹介ゲームを行いました。参加した学生のみならず先生方も、お互い自分の研究分野をわかりやすく伝えるのにはどうしたらよいか頭を悩ませつつ、取り組んでいました。また、実行委員が作製した各専攻の紹介ビデオも合わせて上映されました。自己紹介の後であるせいか、その後の夕食の懇親会でも、先生方や学生の歓談が多いに盛り上がった様子でした。



夜の部のセクションでは、美容整形などの特定のテーマについてグループでディスカッションを行い、その内容を4コマ漫画で表現してもらいました。ユニークな絵が出そろい、グループごとに沢山の意見が交わされた事が伺えました。夜の部終了後も、遅くまで談笑する場面が多々見受けられ、初対面の新入生同士にとっては1泊2日と短く限られた時間ではありましたが凝縮した時間を過ごす事ができたのではないかと思います。



2日目の最後のセクションでは言語脳科学の酒井邦嘉先生から御自身の経歴をもとに研究における異分野への進出についてご講演いただきました。さらに、グループワークの最終課題として、一つの目標に向けてメンバーの専門分野の考えを結集させた分野融合プロジェクトの創造に取り組みしました。テクノロジーを結集させた宇宙科学や、文化学・情報学などの観点からみた新しい伝達様式など、学問の枠にとらわれない自由な発想がみられ、異分野の多数集まる総研大ならではの企画になったと思います。



私たちの視野やアイデアは常に他者との対話によって触発され、広がり、生まれ変わります。今年度の学生セミナーが私たち実行委員にとって約半年に及ぶ対話の場であったのと同じく、参加者全員にとっても今後の一歩となる対話の場となったものと思います。ご多用の中、参加していただいた先生、学生、ご協力いただいた多くの方々に深く感謝申し上げますと共に総研大の皆さまの益々のご発展、ご活躍を心よりお祈り申し上げます。

（基礎生物学専攻 菊池直香）





## 学生セミナー 9-10 October 2008

平成20年度（後学期）学生セミナー開催 [2008年10月]

Together in Harmony; Communication, Dedication and Motivation

<日時>2008年(平成20年)10月9日(木)、10月10日(金)

<会場>総研大葉山キャンパスおよび湘南国際村センター

<参加人数>58名(学生 35名、教員 23名)



### 平成20年度学生セミナー実行委員長からのメッセージ

入学式後、2日間にわたって行われる学生セミナーでは、講演やグループディスカッションなどのさまざまな活動を通じ、「実りある研究活動」とは何か、総研大生にとって「楽しい学生生活」とはどのようなものか、ということ学びます。本年度の学生セミナーを企画するにあたり、実行委員会では、総研大での研究生生活におけるいくつかの重要なキーワードに焦点を当てました。それがCommunication, Dedication, Motivationです。これらのキーワードをTogether in Harmonyというテーマのもとに結び付け、本セミナー中の講演やさまざまなグループ活動に盛り込みました。

バングラデシュの農学研究者であるAbdus Samad先生および情報工学者である総研大の稲邑哲也先生によるレクチャーでは、研究プロジェクトの成功にとってチームワークの良さと強い動機付けが重要であることをお話いただきます。

インタラクティブ・アクティビティ、ナイト・アクティビティ、そして「宝探し」は、研究分野や言語が異なる参加者同士がお互いを知るためのきっかけになるでしょう。こうした活動を通じて、あらゆる科学分野のあらゆる研究者に必要とされる多様なコミュニケーションスキルを学び、身に付けていきます。インタラクティブ・アクティビティでは、古病理学の研究でギリシャから総研大に来ているParthenia Giannakopoulouさんのお話もあります。総研大生であることの意義や、国際的なプロジェクトに参加し、文化的な背景が異なる研究者とのコミュニケーションを求められたときの豊富な経験についてお話いただきます。

学生セミナーは、皆さんにとって忘れられないイベントとなるでしょう。ここで得られた関係が末永い交流に発展していくことを切に願っています。学生セミナーでの出会いから交流の輪が広がり、総研大で実りある研究活動や楽しい学生生活を送られることをお祈りいたします。

(加速器科学専攻 Abhay Deshpande)

以下は、本セミナーの参加学生から寄せられたコメントです。

### 特別レクチャーについて

コンピューター科学者として、**稲邑先生**の講演に強い関心を持ちました。講演の内容は、**知能ロボット工学**の紹介と先生が現在取り組んでいらっしゃる研究についてのお話でした。

最近のロボットは複雑な動きが可能で、障害物を跳び越したり、ボールで遊んだりすることができます。さまざまな物体を認識し、記憶することもできます。また、音声認識により、与えられた文中のキーワードを判別することができます。しかし、現在のところ、二つの行動を組み合わせることはできません。例えば、文章を理解し、そのなかで与えられた指示に従うということはできません。稲邑先生は、こうした二つの機能（聞き取り／学習と行動）を結び付けることに取り組んでいらっしゃいます。稲邑先生は、脳と人類史の研究に基づくアプローチを提唱されています。通常、人間は観察したことを繰り返すものであり、そのプロセスが人類の進化をもたらした、という点に注目されたということです。また、このプロセスによって刺激される脳の部位も紹介されました。

稲邑先生のお話のなかで、ロボットが人間の行動を視覚的に認識し、それを再現するための方法について簡単な説明がありました。その方法の優れた点は、ロボットが多くの人の行動を学習でき、プログラマーを必要としないことです。従来のロボットでもさまざまな行動が可能でしたが、それはプログラマーによって実装されたものであり、行動が限られていました。他の行動を追加するには、専門家がそれに応じた機能を実装する必要がありました。稲邑先生の方法では、誰でもロボットに新しい行動を学習させることができます。ロボットの前でその行動をするだけでよいのです。さらに、この方法はリアルタイムで実行することができ、事前に（高コストの）計算を行う必要はありません。

いくつかのアプローチがすでに確立しているものの、それを組み合わせて最適に応用する技術が見つかっていない点において、この研究テーマはすばらしい模範となります。また、この目標を達成するには、他の科学分野（コンピューター科学、生物学、機械学など）が必要であると感じました。

(情報学専攻 Romain FONTUGNE)



**Abdus Samad**先生のレクチャーは、ポスト**緑の革命**（伝統的な植物育種を通じた食糧生産）に関するものでした。とりわけ開発途上国では人口が増加し続け、十分な食糧供給が困難であり、食糧不足が大きな問題となっています。緑の革命は、望ましい特長を持つ品種を導入することにより、小麦や穀物といった主食の生産を拡大する手段として1950年代に構想されました。

当初は、従来どおり植物の異種交配が行われました。その後、高い収穫率、病害に対する抵抗力、準最適条件での成長といった望ましい特長を持つ世代が選択され、大量生産が行われました。近年では、遺伝子工学や異種交配品種の膨大な配列を保存する遺伝子バンクの設置など、植物育種技術が大きく進展しました。

植物育種実験から生まれた品種の大量生産が成功し、食糧供給不足の解消に貢献しています。例えば、バングラデシュでは新しい小麦品種が導入され、わずか数年で食糧生産が倍増しました。しかし、優れていると思われる品種を選択しても、新たに発生する植物病害の影響を受けないとは限りません。そうした場合、新品種を継続的に開発・作り出し、問題のある品種と切り替えることが重要となります。

結果として、植物育種の取り組みは、伝統的・非伝統的を問わず、食糧不足に直面する国々に多くの恩恵をもたらし、世界的な飢餓への対策として貢献しています。しかし、依然として賛否両論の声があります。例えば、在来植物への組換え品種の影響や、そうした組換え品種の長期的な摂取が人間に与える悪影響の可能性などです。緑の革命に関わる取り組みは評価されるべきであり、優れた活動が続けられていくためにも、さらなるサポートが必要であると思われます。

（遺伝学専攻 Joseph Jinam Timothy Adrian Anak）



#### インタラクティブ・アクティビティ

**インタラクティブ・アクティビティ**に先立ち、総研大4年生の方からお話がありました。彼女は、個人的な経験に基づき、総研大生としての活動についてのヒントや深い見識を教えてくださいました。それに続いてインタラクティブ・アクティビティが行われ、新入生が複数のグループに分けられました。グループ内では、学生同士で「研究者として成功するために必要なものは？」というテーマで議論しました。私が入ったグループ内の議論は、まさにインタラクティブで刺激的なものでした。多様な背景を持つ学生同士のあいだで活発な実りある議論が交わされ、さまざまな意見が出ました。こうした多様性から、議論を通じて一体感が生まれ、視点は異なっているものの、出された意見には調和がありました。コミュニケーション、献身、意欲、創造性、そして喜びが研究者として成功するための鍵ということで一致しました。他のグループは別の重要な要素も挙げていました。それは運です。成功には少しの運が必要となることがあります。私たちのグループのリーダーは、成功とはその人その人の考え方によるものである、ということを確認に述べました。成功とは、No. 1になることや、有名なジャーナルに掲載されてノーベル賞を受賞することでしょうか。それとも、大小にかかわらず、喜びと努力をもって世界や人類に大きな貢献をすれば、たとえ公には認められなくとも、成功したということなののでしょうか。これは考えるべき問題です。ちなみに、私たちは全員後者で一致しました。

（生理学研究所 Timotheus Budisantoso）



葉山キャンパスで多くの国々の友人と会えることは素晴らしいことです。総研大ならびに学生セミナー実行委員会に感謝したいと思います。異なる科学分野および文化を背景とした情報や思考を共有するための、素晴らしい機会となりました。今回の学生セミナーで最も印象的だったのは、**インタラクティブ・アクティビティ**です。

こうした活動により、非常に大切なことを真剣に考えるようになりました。今後のキャリアで成功するにはどうすべきか、ということです。各自がそれぞれの意見を挙げました。全員に共通する意見は、科学研究の活動には時間がかかり、時として退屈であるということでした。私たちのグループでは、真剣にメンバーの意見を理解するように心掛けました。対話は効果的で、私たちはすぐに共通の意見にたどり着きました。

雑談をしたり、チームワークが試されるゲームに参加したりして楽しみました。日常と同じように、自由にそれぞれの気持ちや意見、さらには趣味についても話しました。言語は全く気になりませんでした。英語で十分でないときは、ジェスチャーや淡い表情、笑顔が共通の言語になります。日本語、中国語、インドネシア語などの多くの言語で「こんにちは。元気ですか？」という言葉学びました。リラックスした雰囲気の中で交流を深めることができました。各グループ名にも使われていたように、私たちには未来への夢、希望、愛があります。将来的に成功し、明るく活気に満ちた人生を送るため、意欲と展望を持って進んでいきたいと思っています。

（加速器科学専攻 Demin ZHOU）

#### 20年度後学期学生セミナーパンフレット

**時刻**  
15:30 - 16:45  
16:45 - 17:00  
17:00 - 18:30  
18:30 - 19:00  
19:00 - 20:15  
20:15 - 20:45  
20:50 - 22:45  
**時刻**  
07:30 - 08:30  
08:30 - 09:00  
09:00 - 10:15  
10:15 - 10:30  
10:30 - 10:45  
10:45 - 12:15  
12:15 - 13:15  
13:30 -

**10月9日 (木)**  
レクチャー 1: Dr. Samad  
休憩  
インタラクティブ・アクティビティ  
チェックイン  
夕食  
天体観測  
ナイトアクティビティ  
**10月10日 (金)**  
朝食  
チェックアウト  
レクチャー 2: 稲邑 哲也准教授  
休憩  
写真撮影  
宝探し  
昼食 (弁当)  
チャーターバスで国立天文台NAOJ (三鷹) へ

**場所**  
総研大葉山キャンパス 2F 講義室  
  
総研大葉山キャンパス  
湘南国際センター  
湘南国際センター  
総研大葉山キャンパス  
総研大葉山キャンパス  
**場所**  
湘南国際センター カフェテリア オーク  
湘南国際センター  
総研大葉山キャンパス 2F 講義室  
  
総研大葉山キャンパス 正面玄関  
屋外  
総研大葉山キャンパス 1F セミナー室

## 学生セミナー 9-10 April 2009

平成21年度（前学期）学生セミナー「研究者の三原色」開催 [2009年4月]

<日時>2009年(平成21年)4月9日（木）～4月10日（金）

<会場>本学葉山キャンパス及びロフォス湘南

<参加人数>学生107名、教員37名、計144名

本年度学生セミナーは「研究者の三原色」というタイトルで、これから研究者になるうという強い意志を持って入学された新入生のみなさんに研究者として必要な要素、「研究能力」「コミュニケーション」「夢」について改めて深く考えてもらおうと企画されました。

セミナーは3つのセッションに分かれています。1つめは「Ability～研究者に必要な能力とは」です。理系・文系・学際分野の最前線でご活躍されている先生方をお招きし、現在研究者となるまでに歩んで来たバックグラウンドについて講演していただきました。各先生方、歩んでこられた研究者人生は三者三様で、とても興味深く、おもしろくお話を伺いました。また、学生を交えたパネルディスカッションも白熱し、新入生の考える「これからの研究者に必要な能力」にツッコミを入れつつもしていただいたアドバイスは、新入生はもちろん、参加していた我々セミナー実行委員にも非常に有益なものでした。



懇親会でお酒の力も加わり、だいぶ和やかとなった雰囲気の中、2つめのセッション「Communication～専門を越えた相互理解」が行われました。総研大は他分野の研究科・専攻からなり、お互いの研究について知らないことが多いです。お互いの垣根を越えた相互理解を目指し、自分の研究分野の意外な常識をグループ内の他分野の人に披露しあいました。さすが他分野の学生が一堂に会するだけあって、話題の幅も広く、笑い・驚きに満ちた会場は非常に盛り上がりしました。



2日目は3つめのセッション「Dream～自分の夢を再認識しよう」です。研究生生活を続ける中で行き詰ったり、目標を見失いそうになることもあります。そんなときに支えとなる自分の夢を書き出し、みんなの前で語ることでその夢を自分の中でより確かなものにしよう、という企画です。自分の夢を書き出し発表するのは恥ずかしいものですが、新入生のみなさんは堂々と自分の夢をグループのメンバーに語っていました。自分の夢・目標に対する新入生のみなさんの熱い思いを聞き、入学2年目の自分も気持ち新たに頑張らなくては、と思わずにはいられないくらいでした。



本年度学生セミナーは盛況のうちに終了しました。3つのセッションを通じて、新入生の皆様が今後の研究生生活を進めて行くうえで必要となる「三原色」の重要性を認識していただけたら幸いです。

今回、セミナーを企画・運営するにあたって、多くの方々にご支援いただいたことに改めて感謝申し上げます。また、約1年に渡ってセミナーの企画を議論してきたセミナー実行委員のみなさんとは、この実行委員をしなければ出会えなかった良き仲間だと思っています。セミナー成功の達成感には本当に素晴らしいものです。またみなさんに会えることを心より願っております。本当にありがとうございました。



(宇宙科学専攻 松田桂子)

時間	内容	場所
<b>4月9日 (木)</b>		
	入学式	
入学式/学生セミナー 受付		総研大 葉山キャンパス
12:50-13:00	入学式ガイダンス	
13:00-13:30	楽器演奏	総研大共通棟 2階 講堂
13:30-14:10	入学式	
14:10-14:40	メンタルヘルス講演会	
14:55-15:20		
学生セミナー		
学生セミナーのみの参加者受付		ロフォス湘南 1F
15:20-15:30	開会式	
15:30-18:35	Ability Session	
	「研究者に必要な能力とは」	
15:30 -16:35	講演	
講演① 岡ノ谷一夫先生		
(理化学研究所 脳科学研究センター 生物言語研究チーム チームリーダー)		ロフォス湘南 1F 太宰ホール
講演② 村山斉先生		
(東京大学 数物連携宇宙研究機構<IPMU> 機構長)		
講演③ 田中洋子先生		
(筑波大学大学院 人文社会科学研究科 准教授)		
16:40 -17:20	学生ディスカッション	
17:30 -18:35	パネルディスカッション	
18:35-18:45	会場移動	
18:45-20:05	夕食 (懇親会)	ロフォス湘南 1F 研修室大楠
20:05-20:15	会場移動	
20:15-22:00		
	「専門を越えた相互理解」	
20:15-20:50	説明・発表①	ロフォス湘南 1F 太宰ホール
20:55-21:20	ディスカッション	
21:30-22:00	発表②	
22:00-22:15	正面玄関 移動	
22:15-23:00	バスでの移動 (ホテルへ)	
23:00	チェックイン	ホテルハーバー 横須賀
<b>4月10日 (金)</b>		
9:00-12:00	Dream Session	
	「自分の夢を再認識しよう」	
9:00 -10:45	説明・発表①	ロフォス湘南 1F 太宰ホール
10:55 -11:25	ディスカッション	
11:30 -12:00	発表②	
12:00-12:20	閉会式	
12:20-12:30	記念撮影	
12:30-13:00	総研大へ移動 (徒歩 10分)	
13:00-14:00	昼食 (学生セミナー実行委員選出)	総研大 セミナー室103・104
14:00	解散	



## 学生セミナー 8-9 October 2009

平成21年度（後学期）学生セミナー「UNITY と IDENTITY」 [2009年10月]

<日時>2009年(平成21年)10月8日（木）～10月9日（金）

<会場>本学葉山キャンパス及び湘南国際村センター

<参加人数>学生35名、教員17名、計52名



### 平成21年度学生セミナー実行委員長からのメッセージ

総研大へようこそ

学生セミナー実行委員会より、総研大に入学されました皆様に心よりお慶び申し上げます。皆様が研究者として 無事に最終目標を達成されますように、心から願っております。

総研大は、日本国内のみならず海外（南極とハワイ）にも拠点を持つ優れた研究機関から成る、世界でも珍しいコンセプトで設立された大学です。皆様はそれぞれの多様な研究分野を探究しながら、このユニークな学術環境を 体験することになるでしょう。

今回の学生セミナーのために、私たちは“Unity と Identity”というテーマを選びました。この言葉は私たちの研究機関の本質を表しているように思います。まず、「Unity」は、文化的多様性および研究分野の面での学生たちの多様な背景を意識して決定しました。私たちはみな、社会に対して重要な貢献者でありたいという願いと知を 探究したいという情熱によって結びついています。この目標は、総研大で研究分野を越えて、協同していくことで達成できるかもしれません。

次に、「Identity」というコンセプトは、世界中の多様な地域からやって来た学生たちの国家・文化のアイデンティティと関係しています。学生たちの多様なアイデンティティは、総研大内の社会的・学術的環境をととても豊かなものにしています。

私たちはこの二つのコンセプトを結びつけることで、研究分野と個人的特質の融和、個人のアイデンティティを昇華させて総研大のアイデンティティへと向かわせること、総研大という大きな家族の一員となることを望む気持ちを表しました。私たち研究者を志した者が、生来もっている探求的な性質が、学生間の共同努力とうまく結びつくことで、最終的に社会への大きな貢献となるように願っています。あなたは、総研大の学生となることで、その最初の一步を踏み出したのです。総研大へようこそ！！

情報学専攻 ラウル エルネスト メネンデス モーラ

以下は、本セミナーの参加学生から寄せられたコメントです。

### 特別講義について



講演タイトル: 「科学者になること、科学者であること」

オックスフォード大学薬理学科医学研究局 解剖学的神経薬理學局長 Peter Somogyi（ピーター・ソモギ）博士

「良い科学者になり、良い科学者であるためには」というトピックで行われた、ピーター・ソモギ教授の講義には大変感銘を受けました。良い科学者であるためには、研究者は、卓越した思考力と創造的な精神力をもっていなければなりません。創造的な仮説を立てることなしには、社会問題や現在の環境問題を解決することはできません。そこで、科学者の脳は極めて重要な役割を果たします。並外れた好奇心と自信は、並外れた研究者になるための一番重要な要素です。人間の知的能力は非常に優れていますが、だれもが自分の脳を適切に使っているとは、言えません。かなり好奇心の優れた人でも科学の分野での経験に恵まれない場合には、科学的な潜在能力を発現できずじまいになるでしょう。一方で、能力にふさわしい偉大な科学者になった人は、創造的な芸術とか人事管理業務などの異分野を選ぶよりも、新しい見識や科学的疑問を追究する方が、むしろ、はるかに創造的な活動であると思ったのです。

今日、人間は宇宙旅行まで出来るようになりました。アインシュタインやボーアのような偉大な科学者の並外れた思考力のお陰で、しだいに進歩してきたからです。彼らは創造的な精神を持ち、現実生活に使う脳を利用して、化学と物理学の分野で偉大な理論を展開させることができたのです。要するに、私たちの脳を適切に利用することなしに、現代の地球規模の問題を解決することは出来ないということです。



講演タイトル: 「世界におけるスペイン語」

上智大学外国語学部イスパニア学科教授 Antonio Ruiz Tinoco (アントニオ・ルイズ・ティノコ) 博士

スペイン出身のアントニオ・ルイズ・ティノコ教授は言語学の研究者です。スペイン語は欧州のスペインから南米のアルゼンチンにいたるまで世界中の様々な国々で使われているので、スペイン語と一口で言っても、非常に異なっています。先生は多くの事例をあげて説明してくれました。印象に残っているのは、マドリッドでふつう教養のある人々の間で使われている言葉はコロンビアのボゴタでは無作法な言葉であったり、若者に広範囲に使われている用法が年配者には理解されなかったり、その逆もまた然りです。その後、先生がたずさわっている、スペイン語圏の語彙バリエーションを網羅する試みである「VARILEX プロジェクト」を紹介してくれました。このプロジェクトでは、都市部に住む中流階級の高等教育を受けた男女の語彙に調査の焦点を合わせています。このプロジェクトで集められたデータベースから、オンデマンドの自動言語地図システムが作成されています。この講義を通じて、スペイン語とある種の研究方法について、理解することができました。

この講義に参加したお陰で、研究のやり方のヒントを貰いました。私にとって多くを学ぶことが出来た意味のある講義でした。

情報学専攻 リュウ ジ

### フリー・ディスカッション・テーマ: 「UNITY と IDENTITY」 について

今回の学生セミナーのテーマとして取り上げられた「Unity & Identity」について取り上げて論じたい。「Unity」は「統一」「結束」「団結」などと訳される。総研大において「Unity」は本当に様々な局面で出会う概念だろう。学生間(留学生×日本人、日本人×日本人等)、専攻間、施設間、地域間というように、私は入学してまだ3週間に満たないがそれでもこれだけ思いつく。加えて私にとっては、研究領域に関する「Unity」も考えていかなくてはならない。私は情報学専攻に入学したが、修士課程までは臨床心理学を専攻し、現在もその領域で仕事をしている。そのため私にとっては情報学と臨床心理学という研究領域間、平たく言えば理系文系間の「Unity」についても今後考えていく必要がある。

一方「Identity」は、心理学領域の用語にもなっているが、「同一性」などと訳される。自分の社会的または精神的な基盤について、成長していくにつれて確固たるものになっていくこと、という説明が心理学においてはなされる。ここで私の社会的基盤についてふれると、入学前は「臨床心理士であること」だけだった。しかし入学後は、「情報学専攻博士後期課程の学生」という基盤が増え、またそのことによって「臨床心理士であること」もより明確に、目立つものになった。同時期にもう一つ明確になったものがある。それは「日本人であること」だ。私はこれまで外国人と接する機会がほとんどなかった。それが今回、入学生の半数以上が留学生で、英語でのやり取りが当然のような環境になった。カタコトの英語で何とか言いたいことが半分くらい伝わったかな、と感じながらの生活は、これまでほとんど考えたことがなかった「ナショナルリティ」について考える機会を与えてくれ、また「話せるようにならなければ!」という向上心を植え付けてくれた。

ある「Identity」が増えることで他の「Identity」が明確になることを先に述べた。そのような差異を際立たせるような作業を繰り返していくことで「Identity」が確立されていくのだろう。今後様々な「Unity」の方法を考えていくためには、まずは既存の「Identity」を確固たる柱とすることが必要となってくるのであろう。

情報学専攻 末崎 裕康

### ナイト・アクティビティ



### インタラクティブ・アクティビティ



まず、このような素晴らしいセミナーを企画して下さった皆さんにお礼を言いたいと思います。隅々まで良く考えられたプログラム構成

で、とても楽しかったです。セミナーでは新しい友達に会い、知り合い、沢山の友達と一緒に交流することが出来て、とても嬉しかったです。どの企画も興味深く、目的がわかりやすかったです。 お互いの肖像画を描き合い、それが誰か推測して当て合うゲームは、親しくなる助けになりました。 班別の討論と発表では、研究について深く考えることになりました。質疑応答ゲームでは総研大の各専攻について、馴染みや くなりました。このような色とりどりの2日間の素晴らしいイベントを準備して下さい、ありがとう。

生理科学専攻 ウエイ フェイ

(写真提供：遺伝学専攻 ティム ジナム)

平成21年度後学期学生セミナーパンフレット

薬理学科医学研究局 解剖学的神経薬理学部 オックスフォード大学ニュース  
MRC Anatomical Neuropharmacology Unit- News from University of Oxford

平成21年度後学期学生セミナープログラム		
時刻	プログラム	場所
<b>10月8日</b>		
15:30 - 15:40	学生委員会の紹介	総研大2階レクチャールーム
	講演1 「科学者になること、科学者であること」	
15:30 - 15:40	オックスフォード大学薬理学科医学研究局解剖学的神経薬理学局長	総研大2階レクチャールーム
	Peter Somogyi (ピーター・ソモギ) 博士	
16:55 - 17:10	休憩	
17:10 - 18:30	フリー・ディスカッション「UNITYとIDENTITY」	総研大2階レクチャールーム
18:30 - 19:00	チェックイン	湘南国際村センター
19:00 - 20:15	ディナーレセプション	湘南国際村センター
20:15 - 22:00	ナイト・アクティビティ 「折り紙」 「肖像画」	湘南国際村センター
<b>10月9日</b>		
07:30 - 08:30	朝食	湘南国際村センター
08:30 - 09:00	チェックアウト	カフェテリア オーク
	講演2 「世界におけるスペイン語」	湘南国際村センター
09:00 - 10:15	上智大学外国語学部イスパニア学科教授	
	Antonio Ruiz Tinoco (アントニオ・ルイズ・ティノコ) 博士	総研大2階レクチャールーム
10:15 - 10:30	休憩	
10:30 - 10:45	集合写真	総研大正面玄関
10:45 - 12:00	インタラクティブ・アクティビティ 「宝探し」	総研大
12:00 - 13:00	昼食	総研大1階セミナールーム



## 学生セミナー 8-9 April 2010

平成22年度（前学期）学生セミナー「Re:」開催 [2010年4月]

<日時>2010年(平成22年)4月8日（木）～4月9日（金）

<会場>本学葉山キャンパス及び湘南国際村センター

<参加人数>学生110名、教員44名、計154名

関東は、四月に入っても寒い日が続き、セミナー前日もあいにくの雨でした。しかし、当日になると前日の風雨が嘘のようで、若干雲があるもののきれいな晴れ間が見え、外は穏やかな風が吹いていました。

セミナー会場で準備を進めていると、委員に促され、新入生の皆さんが会場へと入場してきました。どなたを見ても新入生らしく目を輝かせ、これから始まる新しい学生生活への希望がみえてとれたと同時に、我々もきっと同じようにしてセミナーに臨んでいたのだろうと、昨년이思い起



こされました。

本年度セミナーのテーマは、「Re:」です。よくメールの題名に使われるように、「返信」や「応答」という意味が込められている他、「Relationship」・「Realization」・「Researcher」という三つのメッセージが、同時に込められています。セミナーでは新入生をグループ分けし、それぞれのメッセージを表すセッションがここに始まりました。

第一日目、最初のセッションは「他分野との交流」を目的として、各グループメンバーによる他己紹介を経て、実際に自己紹介を行いました。このセッションでは、他分野同士の相違点と、意外な共通点を互いに見出すことが出来、イメージという枠組みを超えて、相互理解の第一歩となったのではないのでしょうか。セッションを通し、短い時間の中で作業を行い、緊張した面持ちから笑顔や笑い声が出始め、新入生の皆さんの緊張もうまくほぐれたところで懇親会となりました。

新入生同士だけではなく、諸先生方や委員も交えた懇親会を経て、次の第二セッションが始まりました。「我を知る」と題されたセッションでは、自分自身を「もの」に譬え、各々がグループメンバーに対し、アピールを行うという内容です。新入生の皆さんが作業をし、互いに発表し合う姿を、セミナーに参加された先生方も興味深く御覧になっていました。自分をアピールするという作業は、自身の研究成果を発表しなければならぬ今後の研究生活においても、大きく役立つ経験となったと思います。

第二日目の朝、前日の疲れを感じさせない軽い足取りで、新入生の皆さんは再び会場へ入ってきました。「研究者として重要なこと」とは何か。この質問に答えることは、簡単なようでそうではありません。そこで、全員で研究者として重要なこととは何かを模索することとなりました。まずグループでディスカッションを行い、その後三人の講師の方々が皆さんのために提示した「重要なこと」について、講師と参加者と一緒にパネルディスカッションを行いました。これらのアクティビティを通して、何が重要であるかを一生懸命考える新入生の姿は熱意にあふれ、見ているこちらも熱くなりました。セッションも終わりに近づいた時、今回の参加者それぞれが思う大切なことをハチマキに書き、頭に巻いてお互いの熱意とともに発表を行いました。



研究生活でつまづいた時や苦しい時には、ぜひこのハチマキを頭にまいて頂きたいです。このセミナーを思い出し初心に立ち返り、また前へと進む力になれば、これほど嬉しいことはありません。

すべてのセッション終了後、新入生とセミナー委員で写真撮影を行いました。出来あがった写真をみると全員すがすがしい笑顔で、新入生の皆さんにとってもセミナー委員にとっても、充実したセッションとなったことがわかりました。

総研大は他大学に比べ、まだまだ歴史の浅い大学院大学です。このセミナーが毎年度続き、総研大生同士の絆を深める機会となる良い伝統として続いていきますよう、心よりお祈りいたします。

（文責：日本文学研究専攻 D4 吉田小百合）



## 平成22年度前学期学生セミナーパンフレット

### 平成22年度前学期学生セミナープログラム

#### 時刻

#### 1日目 (4月8日) 入学式終了後

15:10 - 15:30  
15:30 - 15:40  
15:40 - 18:10  
18:10 - 18:30  
18:30 - 19:50  
19:50 - 20:00  
20:00 - 22:30

#### 2日目 (4月9日)

07:30 - 09:00  
09:00 - 12:30  
12:30 - 12:45  
12:45 - 12:55  
12:55 - 14:00

#### プログラム

移動  
開会式  
Session 1, Relationship ～他分野との交流  
休憩、チェックイン  
夕食 (懇親会)  
休憩  
Session 2, Realization ～我を知る  
朝食、チェックアウト、移動  
Session 3, Researchers ～研究者にとって大切なこと  
閉会式、記念撮影  
移動  
昼食、来年度実行委員選出

## 学生セミナー 日本文化を学ぶコース 7-11 October 2010

総研大後学期セミナー・日本文化を学ぶコース・日本語講座 開催

<日程>2010年(平成22年)10月7日(木)～11日(月)

<開催場所>葉山キャンパス、立川キャンパス

<参加者数>

\*後学期学生セミナー53名：学生(在学生12名、新入生26名)38名、教員13名、講演者2名

\*日本文化を学ぶコース48名：学生(在学生8名、新入生21名)29名、学生スタッフ4名、教員3名、その他3名、講演者9名

\*日本語講座22名：学生(在学生2名、新入生12名：受講者計14名)、教員3名、学生スタッフ5名

平成22年10月7日の入学式の後、“Knowledge and Imagination”をテーマに実行委員が1年間かけて準備をしてきた学生セミナーが開催されました。

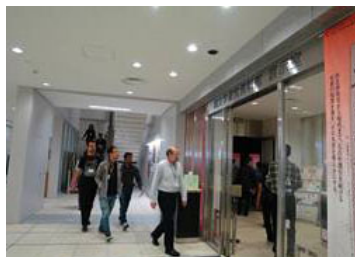


まず南アフリカから招聘した哲学者、Paul Cilliers先生の“Knowledge, Imagination and Ethics: Dealing with a Complex Future”というタイトルの講義があり、それを受けた質疑応答やグループディスカッションが行われました。このセッションでは、参加者たちが創造と知識について深く考え、研究者としての姿勢を自分自身に問い直すきっかけになったようでした。また、翌日の北川源四郎統計数理研究所所長の講義においては、現在出されている膨大なデータから真実を選び出すためのヒントになる貴重な提案がありました。この講義を聞き、深く頷いたり、自分の考えを確かめるように質問したりする参加者たちから今後の研究に役立てようという熱意が伝わってきました。



総研大に入学するために世界各地から来日した新入生は、それぞれ天文学、分子科学、文化人類学と研究分野も様々です。そこで、実行委員たちは、参加者がお互いに自然に話し合うことができるように、グループになって行う連想ゲームや“Knowledge and Imagination”をテーマとしたコラージュの共同制作など、企画に工夫を凝らしました。その甲斐あって「ディナーセッション」や「ナイトアクティビティ」「グループワーク」といった活動と一緒にすることで、参加者たちの表情も次第に柔らかくなり、笑い声も大きくなっていました。

10月8日の午後、「日本文化を学ぶコース」の参加者は立川キャンパスに移動しました。国文学資料館の特別展示「鉄心斎文庫 短冊優品展」の見学や百人一首の講義のあと、チームに分かれて百人一首を使ったゲームが行なわれました。展示では短冊に書かれている意味や短冊を送り合う習慣や後世になってそれをコレクションするようになったといった日本文学研究専攻の先生方の解説を参加者たちは熱心に聞いていましたし、その後の「坊主めくり」ゲームでは、コンピュータソフトを使った説明がわかりやすかったせいか、「札」のやり取りに一喜一憂し、初めてとは思えないほど盛り上がっていました。



翌10月9日は「能」「文楽」「歌舞伎」といった伝統的な舞踊から「山海塾」のような前衛的な舞踏まで、日本独特な「踊り」について講義していただきました。その講義を聞いた参加者から「能」の面が怖いのは何故か、「歌舞伎」で一番に人気のある役者はだれか、日本の前衛的な舞踏にパントマイムの影響はないのかといった質問がいくつも出され、時間が足りなくなるほどでした。

その日の午後は、第51次南極観測隊長でもあった極域科学専攻の本吉洋一教授からの「日本の南極観測」といった南極研究を概観する解説や総研大修士生の研究員の方からの「オーロラ観察」や「ペンギンの行動観察」といった実際のデータを用いた研究成果の発表を聞くことがで



きました。その内容は異分野であっても、研究者の卵である参加者たちの興味を惹きつけ、講義の後に口ぐちに質問をしていました。また、南極の氷柱を保存している低温室では「-50℃」を体感し、「南極・北極科学館」ではオーロラシアターで星座やオーロラを眺め、雪上車に乗り、極域で集めた生物や鉱物の展示に触れることができたことも、参加者にとって、とても貴重な体験でした。



10月10・11日は統計数理研究所のセミナー室を借りて、日本語講座が開かれました。なれない発音に悪戦苦闘する場面も見受けられましたが、後半には新入生同士で日本語を使って話し始めていましたし、夕食時には日本語でオーダーする学生もいました。今後の日本での生活に、日本語講座が役に立つものと思われました。



全体では4泊5日の行程となるかなりハードなプログラムですが、立川キャンパスの教員・職員・学生の方々の協力を得て、無事終わることができました。この場を借りてお礼を言わせていただきます。また、参加者たちがそれぞれの基盤に帰る際に、メールや携帯番号を交換している様子を見ることができたことは、今後さらに交流を深め総研大ネットワークとして発展させてくれることを期待させてくれました。

(文責 学融合推進センター 講師 岩瀬峰代)

## 22年度後学期学生セミナーパンフレット

プログラム  
平成22年10月7日(木)

### Student seminar

Time	Agenda	Location
1530- 1540	Opening 開講式	Lecture Room 2F, SOKENDAI 総研大2階レクチャールーム
1540 - 1655	Lecture1 by Prof. Friedrich Paul Cilliers Department of Philosophy University of Stellenbosch, South Africa 講演1	Lecture Room 2F, SOKENDAI 総研大2階レクチャールーム
1655 - 1710	Break休憩	
1710 - 1830	Free discussion フリーディスカッション	Lecture Room 2F, SOKENDAI 総研大2階レクチャールーム
1830 - 1900	Check-in チェックイン	Shonan Village Center 湘南国際村センター
1900 - 2015	Dinner reception ディナーレセプション	Lumier 1F, Shonan Village Center 湘南国際村センター
2015 - 2200	Night activity ナイトアクティビティ	Conference room 6, Shonan Village Center 湘南国際村センター

平成22年10月8日(金)

07:30 - 08:30	Breakfast 朝食	OAK, Shonan Village Center 湘南国際村センター カフェテリア オーク
08:30 - 09:00	Check-out チェックアウト	Shonan Village Center 湘南国際村センター
09:00 - 10:15	Lecture 2 by Prof. Genshiro Kitagawa Institute of Statistical Mathematics, Japan 講演2	Lecture Room 2F, SOKENDAI 総研大2階レクチャールーム
10:15 - 10:30	Break 休憩	
10:30 - 10:45	Group photo 集合写真	Main Entrance, SOKENDAI 総研大正面玄関
10:45 - 11:50	Interactive activity インタラクティブアクティビティ	SOKENDAI 総研大
11:50 - 12:40	Lunch, and Recruit Session 昼食	Seminar Room 1F, SOKENDAI 総研大1階セミナールーム
12:45~	Assemble & depart for Tachikawa チャーターバスで立川へ。	Main Entrance, SOKENDAI 総研大正面玄関前
15:15	Arrival at National Institute of Japanese Literature 国文学資料館に到着	Tachikawa General Research Building 立川

### Japanese Culture Course

15:30-18:00	Lecture on Japanese culture (1) (Department of Japanese Literature) Museum Tour with guides : Special exhibit "Tesshinsai Bunko Tanzaku Yuuhin Ten" (Tesshinsai Collection: Tanzaku Poem Cards)/ Activity: Receiving an explanation of Hyakunin-issu (one hundred waka poems) and playing the bozu-mekuri game
18:30	Arrival at Tachikawa Washington Hotel
19:00～	Free time for dinner (buy your own)
平成22年10月9日 (土)	
7:00 -	Breakfast
9:20	Assembly at the lobby of the Hotel
10:00-12:00	Lecture on Japanese Culture (2) (Department of Japanese Literature)
12:00-13:00	Lecture & video: "Japanese Theater in a Worldwide Context" by Professor Kyoze Takei Lunch (buy your own)
	Japanese Culture 3 National Institute of Polar Research (Department of Polar Science)
	13:00 - 14:00: Lecture by Professor Yoichi Motoyoshi, leader of the 51st Japanese Antarctic Research Expedition
13:00-16:30	14:00 - 14:30: Lecture & video: "Japan's Antarctic Observation Activities" 14:40 - 15:00: Results of Antarctic observation introduced by the Graduates (1): Hidehiko Suzuki 15:00 - 15:20: Results of Antarctic observation introduced by the Graduates (2): Nobuo Kokubun 15:30 - 16:30: Tour of the low-temperature laboratory at the Polar Science Museum
16:30	The end of Japanese Culture course. Students not participating in the Japanese language classes depart for Tachikawa station and return to their respective department.
17:30	The others return to Tachikawa Washington Hotel
18:00～	Free time for dinner (buy your own)

平成22年10月10日 (日)

#### Japanese Language Classes

7:00 -	Breakfast
8:20 -	Assembly at the lobby of the Hotel, leave for the venue of the class
9:00 -12:00	Japanese language classes
12:00 -13:00	Lunch (buy your own)
13:00 -7:00	Japanese language classes
18:00	Arrival at Hotel
18:00～	Free time for dinner (buy your own)
平成22年10月11日 (月)	
7:00 -	Breakfast
8:20 -	Assembly at the lobby of the Hotel, leave for the venue of the class
9:00-12:00	Japanese language classes
12:00-13:00	Lunch (buy your own)
13:00-15:00	Japanese language classes
15:00～	The End – return to own department

## 学生セミナー 7-8 April 2011

平成23年度(前学期)学生セミナー「DNA (Discover Network Announce)」開催

<日程>2011年(平成23年) 4月7日(木)～8日(金)

<開催場所>葉山キャンパス

<参加者数>学生84名、教員34名、講演者2名 計118名

未曾有の大震災の後、一時平成23年度前学期学生セミナーの開催中止も検討されましたが、学生セミナー実行委員会メンバーの熱意と、学生セミナー抜きに総研大生としてのスタートを切らせるわけにはいかない、という大学側の強い意志で、開催することになりました。

本年度はDNA (Discover, Network, Announce) をテーマに、3つのセッションを実施しました。

最初に学生セミナーのオープニングを飾ったのは、Discoverセッションです。専攻を超えて、学生同士知り合いを作ってもらおうという趣旨の下、「面白い人Discover」というワークショップを行いました。ランダムに配置された席に着くと、ゼッケンが渡されます。そこに、「研究者となることに決めたターニングポイント」と「これから先どんな研究者になりたいか」を記入していきます。その後、班員同士でそのゼッケンに記入されたことを手掛かりに、研究の話や、入学のきっかけを話し合っていきます。席替えを繰り返し、多くの学生と知り合いになっていきます。このセッションは、まず学生同士が互いに知り合う、きっかけになったようです。



次に、Networkのセッションでは、自分の夢につなげるためのネットワークについて考えるセッションです。まず、自分の夢につながるネットワーク図を描かせ、その後、ものづくり大学の土居浩先生と東京大学の横山広美先生にキャリアにつながるネットワークについて、話していただきました。夢実現のために、多くの人と出会い、学び、つながっていった過程を、時にユーモラスに話していただきました。その後、自分たちのネットワーク図を見返しながら、総研大の全学教育担当の先生方とフリーディスカッションを行いました。



2日目のセッションは、Announce。自分たちの研究を他者にどう伝えるか、まず各班にお題が与えられます(例：家族を説得するための研究紹介、サイエンスカフェでのつかみの5分間など)。それぞれが、自分たちのお題にあったターゲットに対しての説明の仕方を考えます。班員の中で、一人の研究をピックアップし、その研究を伝える工夫を班員全員で考えていきます。その後、班ごとに自分たちの研究プレゼンを発表していきます。コント形式で発表する班や図を使ってプレゼンをする班など、様々です。会場は大いに盛り上がり、平成23年度前期学生セミナーは盛況のうちに終了しました。

1泊2日の短い期間ですが、新入生は多くの総研大の仲間を見つけ、研究者になるためのヒントを見つけることができたのではないのでしょうか。大きな災害に見舞われた日本、それを復興させていくのは未来の研究者である君たちだ、と講演者の一人の横山先生は語っておられました。その言葉を胸に、今後総研大で未来に羽ばたく羽を育ててほしいと思いました。



(文責 学融合推進センター 助教 奥本素子)



## 平成23年度前学期学生セミナーパンフレット

### 平成23年度前学期学生セミナープログラム

時間	プログラム
<b>1日目 (4月8日)</b> 入学式終了後	
15:15 - 15:25	オープニング
15:25 - 17:05	セッション1 ～Discover～ アクティビティ
17:05 - 17:15	休憩
	セッション2 ～Network～
17:15 - 19:00	グループワーク
	講演①土居浩先生 (ものづくり大学 建設学科 准教授)
	講演②横山広美先生 (東京大学大学院 理学系研究科 准教授)
19:05 - 20:30	夕食 (意見交換会)
20:30 -	フリーディスカッション (コミュニケーション実践)
<b>2日目 (4月9日)</b>	
9:00 - 11:30	セッション3 ～Announce～ グループワーク
11:30 - 11:50	全学教育事業の紹介
11:50 - 12:00	クロージング
12:00 - 12:20	記念撮影
12:20 - 12:40	総研大へ移動
12:40 - 14:00	昼食 (次年度学生セミナー実行委員選出)
14:00	終了

## 学生セミナー 日本文化紹介コース 13-14 October 2011

平成23年度（後学期）学生セミナー「Dream to Discovery」及び日本文化紹介コース開催

<日程>2011年(平成23年) 10月13日（木）～14日（金）

<開催場所>葉山キャンパス

<参加者数>学生27名、教員16名 計43名



さわやかな秋晴れの中、今年も留学生が主体となって作り上げる、後期学生セミナーが実施されました。本年度はDream to Discoveryをテーマに、3つの講演と、ワークショップが開催されました。最初に先端科学研究科の標葉隆馬先生が、社会と科学についてのお話がありました。標葉先生の講演の中には東日本大震災の被害状況に関する社会学的考察が話され、フロアーの学生、教員を交え、活発な討議が行われました。次に、ワークショップでは、複数の専攻でグループを組み、違う専攻同士の新入生がお互いの研究の共通点を見出し、ネットワーク図を描くという活動を行いました。意外に共通点がいくつも見つかり、将来は共同研究でノーベル賞を目指そうと団結したチームもありました。



2日目は、総研大修士であり、現在ドイツの研究所で活躍する杉田圭さんに、科学者を目指したきっかけから、現在の研究職に至るまでの過程を、ユーモアたっぷりに語っていただきました。その後、国立民族学博物館の寺田吉孝先生に、音楽とそこから生まれる地域コミュニティの交流について、大阪のなにわ地区の太鼓パフォーマンスチームの事例を元に、お話いただきました。



その後、鎌倉をボランティアガイドと巡り、日本文化を堪能して、セミナーを修了しました。1泊2日の短い期間ですが、新入生は多くの総研大の仲間を見つけ、研究者になるためのヒントを見つけることができたのではないのでしょうか。今年は専門的な講演というよりも、社会とつながる研究の話が多かったように思います。専門知識だけでなく、広い視野を持った研究者を目指す、総研大らしさにあふれたセミナーだったように思えます。

（文責 学融合推進センター 助教 奥本素子）

## 学生セミナー 12-13 April 2012

平成24年(前学期)学生セミナー「つながる」開催

<日程>2012年(平成24年)4月12日(木)～13日(金)

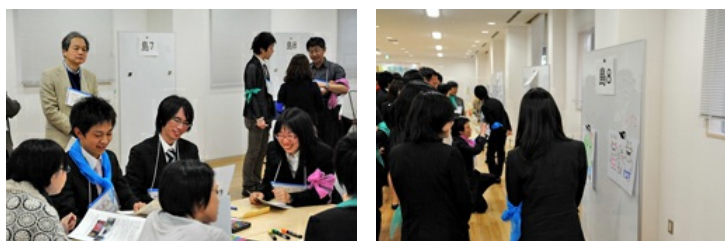
<開催場所>葉山キャンパス

<参加者数>参加者 新入生61名、在校生2名、協力学生スタッフ6名、実行委員14名、教員18名(役員3名、葉山以外4名、先導研2名、センタ－9名)、講師2名

今年の学生セミナー実行委員は、自分たちで学際交流、地域交流、社会発信をテーマに、プロジェクトを企画し、その経験を学生セミナー企画に反映しました。

学生セミナーのテーマは「つながる」です。プロジェクトごとに3つのセッションを企画し、セミナーを実施しました。

最初に学生セミナーのオープニングを飾ったのは、地域交流をテーマに活動していた地域プロジェクト班の「地域を学ぶ、地域に学ぶ」セッションです。地域を学び、学ぶを知るとい趣旨の下、地域の情報を班ごとに分担して読みあい、ゆるキャラを話し合いで作りあげる「ゆるキャラグランプリ」というワークショップを行いました。始めは戸惑っていた学生たちも、ゆるキャラを作る過程で、徐々に打ち解け、最後には個性豊かなゆるキャラが出そろいました。最後に、地域プロジェクト班が1年間の活動を振り返り、ワークショップをまとめました。



次に、研究者同士の分野を超えた交流を企画した学際チームは「あなたColor,私Color」というワークショップを実施しました。このセッションでは、持続可能な農村のあり方について、分野を超えて皆が知恵を出し合いました。懇親会を間にはさみながら、熱い議論が交わされました。「農村をドラえもん工場にする」や、「農業をスポーツ化する」、などユニークなアイデアがたくさん出てきて、会場は熱気に包まれました。



2日目のセッションは、社会発信をテーマに活動していたチームセーガンが企画した、「To Spread Yours」です。研究を社会に発信する活動の重要性について、共栄大学の平井宏典先生からは経営学の観点から、ただ価値あるものを生み出すだけでなくその価値を活用しなければならないという、Value CreationとValue Captureの差についてのお話がありました。また国立天文台の縣秀彦先生からはサイエンスコミュニケーションの観点からご講演いただき、日本の成人の 科学離れと我が国の科学技術政策についてのお話がありました。会場からは熱心に質問が飛び交い、身近にできる社会発信についてなどの議論で盛り上がりしました。

様々なプログラムを経て、平成24年度前期学生セミナーは盛況のうちに終了しました。



1泊2日の短い期間ですが、新入生は多くの総研大の仲間を見つけ、研究者になるためのヒントを見つけることができたのではないのでしょうか。今年は、学生セミナー実行委員は単に企画を考えるだけでなく、実際に経験を通して学んだことを新入生に伝えるために、本セミナーを企画しました。地域連携、学際交流、社会発信、聞こえのいい言葉の裏には、目に見えない課題、難しさ、そしてそれを乗り越えた時のつながる喜びがあります。ぜひ、新入生にも、考えるだけでなく、実行できる研究者に、語るだけでなく、解決する研究者になってほしい、と思います。





(文責 学融合推進センター 助教 奥本素子)

## 学生セミナー 20 April 2012

平成24年(後学期)学生セミナー 岡崎交流会報告

<日程>2012年(平成24年)4月20日 (金)

<開催場所>岡崎キャンパス

<参加者数>参加者 在校生11名、当日参加学生3名、協力学生スタッフ1名、教員8名、講師3名 (総研大修士生)



4月20日に岡崎コンファレンスセンターにて、平成24年度後学期学生セミナー交流会が開催されました。この交流会は、10月に実施される後期学生セミナーの準備のためのミーティングの一つですが、「Tell us about your career!」をテーマに、外国籍学生を中心に議論が行われました。講師に比較文化学専攻2011年修了で民族博物館研究員のMaria Yotovaさん、基礎生物学専攻2003年修了で東京学芸大学の助教として研究活動を行っているAli FERJANIさん、生理科学専攻修了で生理研 研究員のKEÇELİBatuさんを招請し、「自身のキャリア」について語ってもらいました。

Maria Yotovaさんは外国籍の学生が学位を取得した後、60%は日本で就職したいと思っているが、「情報が届かない」「会社と学生の希望とのミスマッチ」「博士学位を持つ学生の就職先の少なさ」などの理由で就職できないということを指摘しました。そして、その解決のためには先輩、先生、友達を中心にネットワークを作ること、ビジネス日本語・ビジネスマナーをしっかり学ぶことをアドバイスしてくれました。そして、Ali FERJANIさんは日本では夜遅くまで、あるいは休日を返上して働かなければならない文化があることを指摘しながらも自由に研究ができるというメリットがあることを示してくれました。KEÇELİBatuさんは日本での研究生生活・文化を家族とともに日本文化を楽しんでいること、将来的には母国に帰って研究を続けたいと語ってくれました。



参加学生は自分の将来を考える良い機会となったようで熱心に質問をしていました。

また、講演後のグループディスカッションでは、日本と海外では研究に費やす時間に対する考え方が違うことによる戸惑いがあることやワーク・ライフ・バランスをどのように考えるかなど留学生にとってさまざまな課題があることを忌憚なく言い合える場になりました。

10月には、ここに出された課題のいくつかに焦点をあて、解決するための学生セミナーをつくっていきたいと考えています。

-----  
The 1st exchange meeting of FY 2012 2nd Semester SOKENDAI Student Seminar in OKAZAKI

We plan to host an assembly to promote exchange between foreign exchange students, Japanese students, and the teachers at the Graduate University for Advanced Studies. The first meeting will gather foreign graduates working in Japan and have talks, with the theme, "Tell us about your career!" We look forward to seeing you there.

1.Date: 20th (Fri) April, 2012

2.Venue: Okazaki Conference Center (OCC)

3.Theme: "Tell us about your career!"

4.Lecturers: 3 graduates of SOKENDAI

Maria Yotova 比較文化学専攻修了 民族博物館 研究員

Ferjani Ali 基礎生物学専攻修了 東京学芸大学 自然科学系助教

KEÇELİBatu 生理科学専攻修了 生理研 研究員

5.Eligible participants: SOKENDAI new and current students, and faculty members

[Program Time Table]

20th (Fri) April, 2012

Time slot	Program
13:30-14:00	Introduction
14:00-14:50	Career for students in humanities — Maria Yotova san
14:50-15:15	Break
15:15-16:05	Career for students in sciences — Ali FERJANI san
16:05-16:55	Career for students in sciences — KEÇELİ, Batu san
16:55-17:30	Discussion about student seminar
17:45-18:00	Break time (check-in)
18:00-20:00	Dinner session "Faculty ~ Alumni ~ New & Current students"

(文責 学融合推進センター 講師 岩瀬峰代)

## 学生セミナー 日本文化を学ぶコース 11-14 October 2012

平成24年度（後学期）学生セミナー「Follow your rainbow」及び日本文化紹介コース開催

<日程>2012年(平成24年)10月11日（木）～14日（日）

<開催場所>葉山キャンパス

<参加者>

\* 後学期学生セミナー40名：学生33名、教員5名、講演者2名

\* 日本文化を学ぶコース36名：学生33名、教員1名、その他2名

\* 日本語講座21名：学生(受講者計16名)、教員1名、講師4名



平成24年10月11日の入学式の後、“Follow your rainbow”をテーマに平成24年度の後学期学生セミナーが開催されました。

<第1日目（平成24年10月11日木曜日）>



学生委員の方からの挨拶の後、まず、国立情報学研究所のTim Byrnes先生から“Quantum technology, life in Japan, and surviving academia en route the ultimate guest for knowledge”と題して、ご自身の紹介とこれまでの研究生活でお考えになったことについてのお話がありました。

コーヒブレークの後、國學院大學のScott Spears先生の講義では日本の和歌を研究するようになった経緯を、ご自身の研究テーマの話も交えてお話いただきました。

10月入学の学生は前学期に比べ人数も少なく、日本の大学にもかかわらず日本人割合が少ないという国際色豊かなメンバーです。筆者が周りを見回したときには、新入生たちは、少し緊張した面持ちで先生のお話に聞き入っていました。特に外国人学生は、日本で、今後どのように研究生活を送ればよいのかを考えている様子が見てとれました。



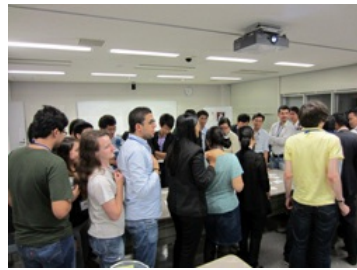
講義の後のディナーセッションでは、新入生一人一人の自己紹介から始まりました。その後、講演者、教員、先輩である学生セミナー実行員、そして新入生それぞれに会話に花が咲き、食事をとるのを忘れるほどでした。

学生セミナーに参加した新入生の研究分野は実に様々です。そのようなメンバーでは、専門について話し合うということは困難です。実行委員の先輩方は新入生がスムーズなディスカッションができるように様々なワークショップのプログラムを組んでくださいました。

参加者がお互いに自然に話し合うことができるように、ワークショップ毎にグループメンバーをシャッフルし、それぞれ異なるメンバーで行われました。より多くの人と知り合えることができ、テーマやゲームでコミュニケーションを楽しめるという寸法です。

5人から6人のグループでディスカッションやゲームをしていくうちに会話が弾むようになってきました。日本の伝統的な「かるた」を作る頃には、お互いに打ち解けた様子でした。第一日目の最後には、この自分たちで作ったかるたで「かるたとり」をしました。ここでエキサイトする人が続出！大いに盛り上がりました。





かるたの後はお開きとなりましたが、その後も意気投合したメンバーが集まり、夜遅くまでにぎやかだった所もあったようです。（でも次の機会には、周囲に配慮して「ほどほど」にしましょうね！）

## <第2日目（平成24年10月12日金曜日）>



二日目はワークショップと日本文化に関する講義がありました。ワークショップではリラックスした雰囲気の中で話し合いが行われました。

日本の文化に関する講義では八巻恵子先生により、ご自身の経験から、日本人だけのコミュニティと多国籍な文化を持つコミュニティの違いについてお話をいただきました。

総研大は違った文化的背景を持った人たちが学び、研究する場です。多くの学生、とくに多くの日本人学生にとっては、この文化的多様性をもつ環境で学ぶことは新鮮です。そうであると同時に、ちょっとした無理解が摩擦や困難の元となりうることは常に頭においておかねばなりません。このような環境の中では何にどう気をつければよいかを考える良いきっかけとなりました。

講義の後は、みんなバスの中で食事をとりながら、神奈川県立近代美術館葉山分館へ向かいました。ここでは「ビーズ イン アフリカ」という特別展示を見学しました。想像以上に細かいビーズ細工に見学に来た新入生全員が興味津々で学芸員の方の説明に聞き入っていました。また、美術館の裏庭からは相模湾を目前に望む絶景ポイントがあり、そこにある作品の周りで、自分たちの感想を和気藹々と語っている姿が見られました。



次に向かった所は、山口蓬春記念館です。神奈川近代美術館葉山分館の道をはさんで向かい側の山の中腹にある美術館は、日本画家山口蓬春の晩年のアトリエをそのまま美術館として残してあるそうです。そこで日本庭園や画家のアトリエ、コレクションなどを見学しました。アトリエは当時としてはモダンであったであろう作りと日本家屋の融合に、興味深げな新入生たちでした。

当日は山口蓬春のコレクションから吉祥天の絵が飾られていたのですが、筆者が隣にいたインドから来た学生に「あれはラクシュミーだよ」と言ったら「まあ！そうなの？」と嬉しそうな反応が返ってきました。日本とインドの文化的なつながりを実感したひとときでした。



この後、新入生たちはバスで鎌倉へ向かい、鎌倉大仏と浄妙寺、鶴岡八幡宮へ行き、お茶会を体験する予定でした。ところが、ここでアクシデントが…。鎌倉の道は一本道で幅も狭く、大変混雑します。鎌倉の大仏拝観時間に間に合わないことが判明し、行く時間がなくなってしまいました。結局お茶会の後、鶴岡八幡宮に行くことになり、鎌倉の大仏はキャンセルとなってしまいました。残念でしたが、まずは浄妙寺へ向かいました。

浄妙寺のお茶会では海外から来た学生たちにとってはなんとなく落ち着かない様子。畳の部屋に正座でお抹茶（薄茶）とお茶菓子をいただきました。古民家を移設した茶室から庭を眺めたり、洋菓子の甘さになれた口には甘くない和菓子や苦くて甘くないお茶に驚いたり、庭の水琴窟から聞こえてくる、澄んだ美しい音に耳を傾けたりして日本の伝統的な空間を楽しみました。



鎌倉観光の最後は参道を歩いて鶴岡八幡宮へ。若宮大路の参道は道を長く広く見せる工夫がしてあり、それをガイドの方から説明を受けながら歩いて行きました。（どういう工夫だったか、みなさん覚えていますか？）

入り口にある源平池の由来や、手水舎での作法、毎年行われる流鏝馬の話、舞殿で源義経の妻である静御前と源頼朝の話などを聞きながら、広い境内を一周しました。

鎌倉で別れて帰る人達を駅近くで降ろした後、最後は、海沿いにバスを走らせ、江ノ島の夜景を横目でみながら、食事をする場所へ向かいました。ベジタリアンの人でも食べられるようなbuffet形式のお店で楽しく食事をとった後、宿舎の湘南国際村センターに向かいました。さすがに一同疲れたのか、おとなしめな車内の様子でした。しかし、宿に着くと、ホテルで水着を借りて泳ぎに行くグループもいて、なかなかタフな新入生たちでした。

### <第3日目（平成24年10月13日土曜日）>



最終日は日本語講座です。私は日本人なので受講する必要はありませんが、残った人達に挨拶をして帰ろうと湘南国際村センターの向かいにある総研大の葉山キャンパスへ行ってみました。ちょうどセミナーが始まる所で、参加した人全員にお別れを言うことができました。日本語講座の参加者はレベル別にいくつかのグループに分かれて、日本での生活に必要な言葉を学んだようです。

ここで、ほかの学生からも感想が寄せられていますので紹介したいと思います。

#### One day excursion to Kamakura

Yousef Yari Kamrani  
October 2012

Visiting Kamakura was an unforgettable tour for me. Kamakura perched between green mountains and beautiful ocean beaches accompanied with historical monuments make it an incredible place for visiting. Our excursion included visiting the museum of modern art focused on bead works in ancient Africa. Visiting this kind of museum was a quick tour from Japan to Africa for me. The next step which fascinated me a lot was visiting the house of Hoshun Yamaguchi – Japanese artist, painter- 1893-1971. Beside of his unique woodblock printed artworks, which was a soul combination of old and modern art in my view; his house architect and self designed painting room and how he had inspiration in such beautiful environment and the breathtaking scenery in front of his house was incredibly interesting. Afterwards, we had a very nice green tea break in Japanese traditional style. At the end of our excursion we visited Tokusan Jomyoji temple which is consistently ranking among the five big zen temple in Japan. Actually it was my first time to visit such a huge historical temple and I learned a lot about living style and traditions of old Japan. However, the architect of temple is stunning. Finally, after passing a huge traffic jam, we had been invited by SOKENDAI to have a Japanese dinner. Our tour leaders were so nice and patient to answer our questions about Japanese culture and living style and everything despite of a tied schedule, organized smoothly and I hope to have this chance again to get more experience about Japanese culture.

この学生セミナーを通じて、新入生それぞれが、総研大生として、また研究者の卵としての一歩を踏み出す心構えができたのではないのでしょうか。大変楽しく充実した学生セミナーであったと思います。

5年一貫制と博士後期課程の人達では卒業する時期は違う上、全国各地に散らばったキャンパスという総研大の事情のため、次はいつ会えるかわかりません。筆者は「それではちょっと寂しいな」と思い、いつでも全員とコンタクトをとれるように、平成24年度後学期の新入生メーリングリストを作成しました。普段は研究活動で忙しいかもしれませんが、時々近況を聞かせてくださいね！

最後になりましたが、神奈川県立近代美術館葉山分館・山口蓬春記念館の学芸員の方々、鎌倉をガイドしていただいたボランティアガイドの方々、そしてこの学生セミナーを企画して下さった先輩方、講義をしていただいた先生、学生セミナーを支援していただいた総研大の先生・スタッフの方々すべてにこの場をお借りして感謝の意を表したいと思います。次に学生セミナーが開催される時には、この体験を次の総研大生につなげていきたいと思っています。

本当にありがとうございました。

(複合科学研究科情報学専攻 岡本里夏 記)

## 24年度後学期学生セミナーパンフレット



## 学生セミナー 8-9 April 2013

平成25年（前学期）学生セミナー「総研大生という生き物 Let's find the diversity」開催 [2013年4月]口

<日程>2013 年（平成25年）4月8日（月）～9日（火）

<開催場所>葉山キャンパス

<参加者数>学生：71名 実行委員：15名 教員：31名 講演者：2名

入学式の朝、雲ひとつない青空で葉山キャンパスは包まれていました。

本年度学生セミナーは「総研大生という生き物 Let's find the diversity」をテーマに、コミュニティを多くかつ広く持つことの意義について、L新入生のみなさんと一緒に考えていきました。

一日目、最初は「研究を知る、研究者を知る」セッションです。グループごとに先生の研究分野の魅力を聞き出し、発表しました。このセッションでは、各専攻の研究視点の違いが感じ取れ、HPや要覧ではわからない先生たちの研究の最前線を知る良い機会になったと思います。



次のセッションは「おいでよ、研究者の森」です。まず、アイスブレイクとして「アカデミックバスケット」を行ないました。これは椅子取りゲームの一種で、知らない者同士が仲良くなるために企画されました。ここでは、先生方にもアカデミックバスケットに挑戦して頂き、「科研費の通った人！」などのコールで椅子を取り合うなど、普段ではなかなか見ることのできない先生のお茶目な一面を知ることができました。懇親会を挟んだ後は、グループごとに他専攻の人と協力しなければ解けないクロスワードパズルを解きました。ヒントとして渡された冊子は持ち帰ったあとも読んで楽しめるものであったと思います。クロスワードパズルを解いたメンバーでそのまま「1円玉ワークショップ」を行いました。専攻による価値観の違いに驚いている場面が多く見られました。このワークショップでは先生にも各グループに交じっていただき、他専攻を知る意義について、学生と共に議論を交わしていただきました。話し合いの内容をパズル形式で書いていくグループや先生がドラえもんを書いて話し合いを盛り上げているグループなどあり、会場は白熱していました。



二日目のセッションのテーマは「伝える難しさに気づく、伝える楽しさに出会う」です。まず、ペアで地図課題というワークショップに臨み、バックグラウンドの違いによるコミュニケーションの難しさを肌で感じました。それを踏まえて、京都大学の水町衣里先生から科学コミュニケーションのトレーニングプログラムのお話をいただきました。水町先生からはサイエンスカフェ等での、相手に自分のことを伝える際の工夫や相手の話を促す動作など実用的な内容を教えていただき、伝えることは言葉だけではないことを理解することができました。また、未来工学研究所の田原敬一郎先生からは「社会が求める研究とは？」というテーマでご講演いただき、研究を行う上でどのような評価が関わってくるかについてお話がありました。新入生からは鋭い質問が出され、科学コミュニケーションのあり方や研究の意義について真剣に考えていることが伝わってきました。

最後は「関心の翻訳ワークショップ」セッションです。様々な立場の意見をもとに実際に自分たちで博物館の企画を行いました。この課題はかなり難しく、その意義の説明がありました。この2日間のいくつかのセッションで得た経験を振り返り、改めてこの学生セミナーの意味を理解する機会となったのではないのでしょうか。



全てのセッション終了後、新入生と学生セミナー委員で記念撮影を行いました。よろけるほどの強風のなかでしたが、皆さん弾けんばかりの

笑顔で写真に写っています。この笑顔から、新入生、学生セミナー委員ともに満足できるセッションになったことがわかりました。これからの研究生生活では、今回の強風よりも強い風に見舞われることもあると思いますが、新入生の皆さんが学生セミナーで得たことを糧にこのままの笑顔で歩まれていかれますことを心よりお祈りいたします。

今年度学生セミナーを企画、運営するにあたって、先生、事務の方など多くの方々にご支援いただいたことに改めて感謝申し上げます。そして、この一年間、学生セミナーをより良いものにしようと共に闘ってきたセミナー実行委員のみなさんにも感謝です。みなさんのような本音でぶつかり合える仲間に出会えて、よかったと心の底から思っております。本当にありがとうございました。

次の学生セミナーが成功いたしますよう、心よりお祈りいたします。

(文責 極域科学専攻 丸尾文乃)



平成25年度前学期学生セミナーパンフレット

時間	内容
4月8日 (木)	
15:25-15:40	オープニング
15:40-17:20	セッション1～専攻紹介ワークショップ～「研究を知る、研究者を知る」
17:20-17:30	休憩
17:30-18:00	セッション2～他分野を知る～「おいでよ、研究者の森」
18:00-19:00	夕食 (意見交換会)
4月9日 (金)	
8:30-11:30	セッション3 ～相互理解～「伝える難しさに気づく、伝える楽しさに出会う」
	ワークショップ「地図課題」
	講演1：水町衣里 (京都大学 物質－細胞統合システム拠点 科学コミュニケーショングループ 研究員)
11:30-12:20	講演2：田原敬一郎 (未来工学研究所 主任研究員)
	昼食
	セッション4 ～研究者と社会との対話～「1億円ワークショップ」
12:20-14:20	全体総括 クロージング
14:20-14:50	全学プログラム紹介

## 後学期学生セミナー 7-8 October 2013

2013年10月7日、8日にかけて、留学生が主体となって作り上げる、後学期学生セミナーが実施されました。本年度は「Your journey」をテーマに、3つの講演と、ワークショップが開催されました。



一日目は遺伝研でサイエンティフィックイングリッシュを教えておられるTodd Gorman先生が、「Reducing the coefficient of intercultural friction for expats in Japan」ドクをされているDIEGO Thomas先生より「My Journey to research: deep down into computer Vision」というタイトルで、外国人から見た日本での生活や文化というタイトルで、日本での研究生生活の体験談が話された。違いなどの講演がありました。



2日目は、地域文化学研究専攻の久保正敏先生が、「The unexpected journey of a researcher」というタイトルで、理系と文系それぞれの研究をまたいだ先生の研究人生を語ってくださいました。その後、参加者は社会的課題をチームで話し合うワークショップを体験し、総研大ならではの学際的視点というものを体験しました。



その後、参加者は葉山・鎌倉で日本の文化を学ぶ日本文化紹介コースに参加しました。葉山では、葉山しおさい博物館で日本の豊かな海洋生物の話を学芸員からレクチャーを受けたのち、博物館に隣接する日本庭園を散策しました。その後、鎌倉に行き、鎌倉大仏や八幡宮を通して日本の伝統文化に触れました。



## 前学期学生セミナー 7-8 April 2014

議論バトルしたり、寸劇したり、ラブレター書いたり、今年も楽しい学生セミナーでした！

今年度の学生セミナーのテーマは「知らねば」です。自分の専攻と異なる人たちのものの考え方を学ぶことで、お互いの研究を知ってもらえたらという願いを込めました。



最初は「崖の上の研究者」。このセッションを担当したチームは、このセッションを通して、自身の研究への「議論を『神隠し』のように迷い込ませるトンネルを、価値観という『崖』を超えるチャンスをつかんでもらいたい」と話していました。夕食を挟んで、「日常と研究の神隠し」のセッション。「議論を『神隠し』のように迷い込ませるトンネルを、抜け出る方法を一緒に探したかった」というこのチームの意図は、参加者にも伝わったようです。



2日目の最初のセッションのタイトルは、「ラボの宅Q 最後のセッションは「平成総研大合戦ぼんぼこ」お互い便」。自分自身の研究対象を「恋人」だと思って、ラブに異なる専攻の研究者になったつもりで、考えてもらいました。

学生セミナーに参加して、コミュニケーションの大切さと他の分野への興味が広がったようです。

## 学生セミナー全体会議 24 January 2015



## 学生セミナー全体会議 22 February 2015





## 学生セミナー実行委員 委員会活動



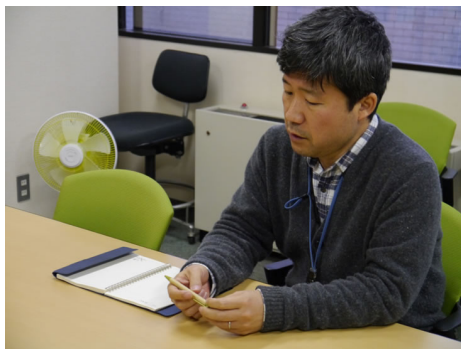
2013 年 前学期学生セミナー実行委員活動



2013 年 後学期学生セミナー実行委員活動

## 2013年度 前学期学生セミナー実行委員

今年度の学生セミナーは研究者同士のコミュニケーションをテーマに活動を行った「研究者チーム」は各専攻の教員の方々にインタビューを行いました。



日本歴史研究専攻の小瀬戸恵美先生にインタビューをする情報学専攻の学生の孫さん。古瀬戸先生から新入生へ年代測定をキーワードに考古学や歴史学の様々な事象に時間軸をつけていく研究されている坂本稔先生は、研究のメッセージは理系、文系にこだわらず、自分の研究の周囲の研究に関心を広げた方が良いのではということで基本的なスタイルとのこと。



歴博内を見学させていただきました。



縄で編まれた龍は迫力がありました。

## 2013年度 後学期学生セミナー実行委員

2012年度は下記のような日程で学生セミナー実行委員会を開催し、日本各地の文化に触れるとともに、日本で留学生が研究するために必要な情報を考えていった。

### <実行委員会スケジュール>

全体会議出張（計4回） 2012年12月6日@東京／2013年2月16・17日@名古屋／2013年6月1・2日@民博／2013年 8月12・13・14日@葉山

前日準備 2013年10月5・6日

### <学生セミナー>

2013年度 後学期学生セミナー 2013年10月7・8日'Our Journey'

日本文化紹介コース 葉山しおさい博物館 鎌倉



国立民族学博物館の久保正敏先生に民族学の話聞き、当日のセッションについて話し合う。  
博物館内を案内してもらう。



## 生命科学リトリート Life Science Retreat

現役の大学院生が企画する生命科学リトリートは、総合研究大学院大学(総研大)による次世代研究者育成プログラムです。毎年、総研大の4専攻(生命科学研究科の基生研、遺伝研、生理研、そして先端科学研究科の1専攻)が合同でこのイベントを開催しています。

こちらの[リトリートウェブサイト](#)もご覧ください。

Life Science Retreat is a program of SOKENDAI University to raise the next generation researchers, organized by graduate students. Three departments in the School of Life Science (NIBB, NIG, NIPS) and one department in the School of Advanced Sciences (ESB) jointly organize this annual event.

[Life Science Retreat Website](#)



生命科学リトリート 25 January 2016



生命科学リトリート 16 October 2014



生命科学リトリート 30 October 2013

PR↓

※学生が応募できる学融合推進センターの助成金です



## 生命科学リトリート

### Life Science Retreat 2013 (10th)

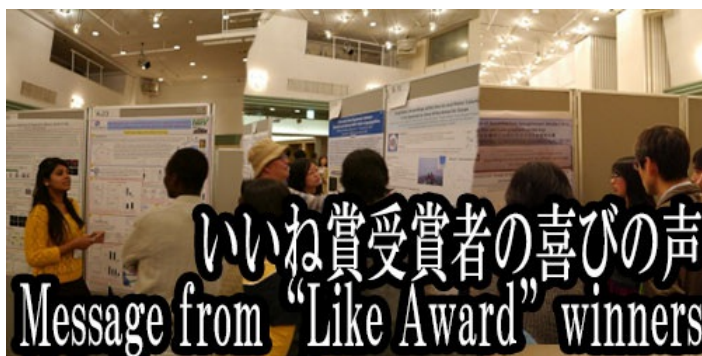
Date: 30th-31st October, 2013

Location: YAMAHA Resort TSUMAGOI, Shizuoka

Main organizers: NIBB

Number of participants: 147

[Final report PDFs of the retreat \(in Japanese\)](#)



### Committee

#### NIBB (Organizer)

Academics: Masayoshi Kawaguchi, Nobuyuki Shiina, Kiyoshi Naruse

Students: Emiko Yoro (General Chair), Takuma Shinozuka, Yuko Shinozuka, Kenji Toyota, Chiharu Kamida

#### NIPS

Academics: Norihiro Sadato

Students: Naoya Aoki, Hideaki Yamazaki, Yuki Hamano

#### NIG

Academics: Ituro Inoue

Students: Masakazu Ishikawa, Eri Unozawa

#### ESB

Academics: Jun Gojobori

Students: Maisa Sekizawa, Kohei Takeda, Masahito Morita, Mina Yoshida

### Program

#### Oct 30

12:00 Reception/Poster setup

13:00 Opening ceremony

13:10 Pre-poster A

13:50 Poster A

14:30 Coffee break

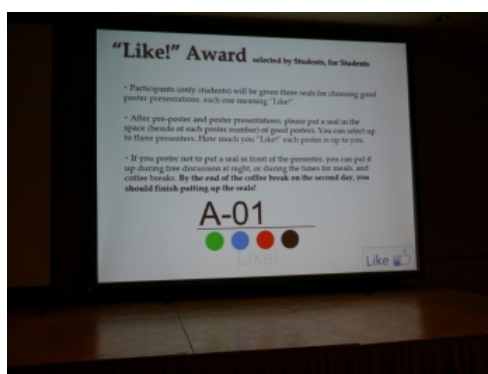
14:40 Pre-poster B

15:20 Poster B  
 16:00 Coffee break  
 16:10 Pre-poster C  
 16:50 Poster C  
 17:30 Check in Hotel North Wing  
 18:00 Dinner  
 19:30 Invited lecture I(Assoc. Prof. Sato)  
 20:30 Free discussion

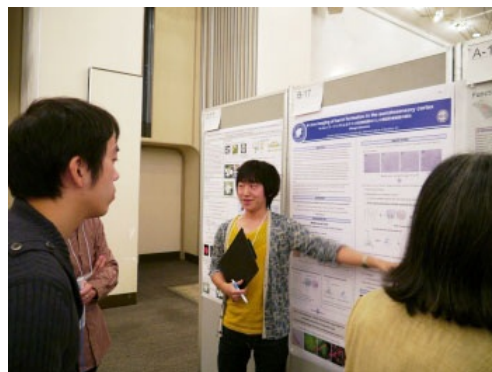
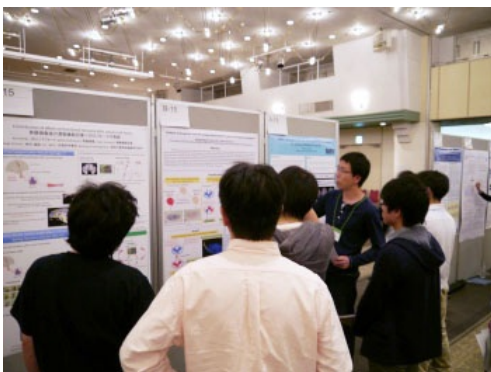
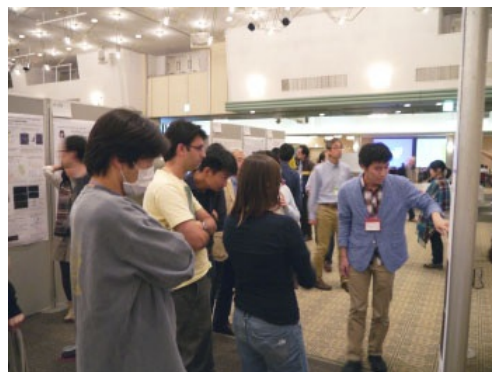
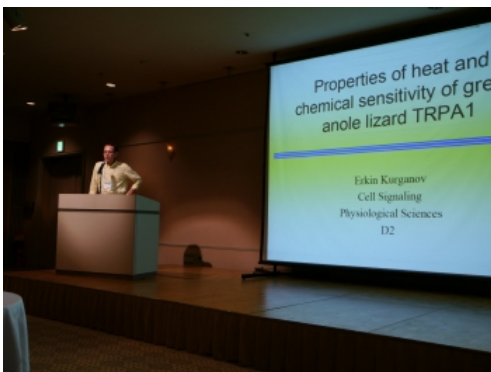
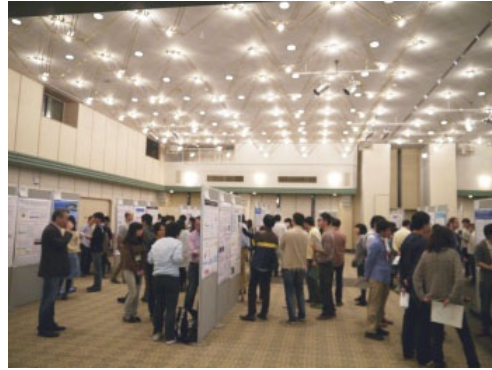
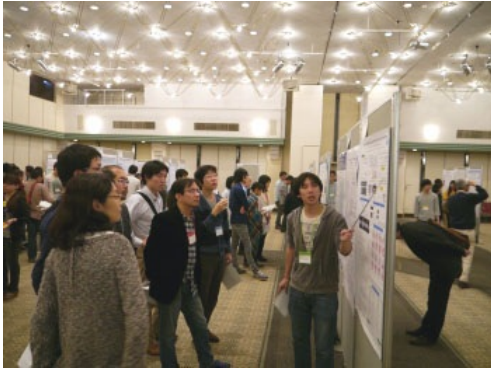
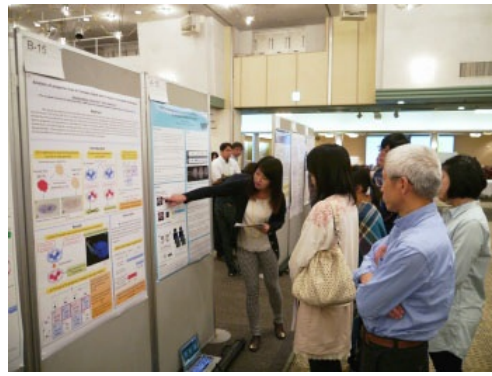
## Oct 31

7:00 Breakfast/ Check out  
 9:00 Invited lecture II(Prof. Sakamoto)  
 10:00 Coffee break  
 10:10 Invited lecture III(Assoc. Prof. Hosoda)  
 11:10 Group photo  
 11:30 Lunch  
 12:30 Free discussion/Poster removal  
 14:00 Closing ceremony  
 14:30 Departure

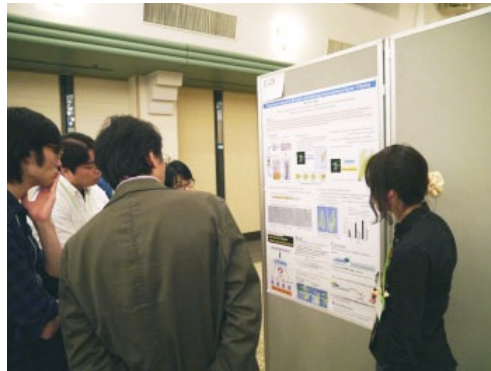
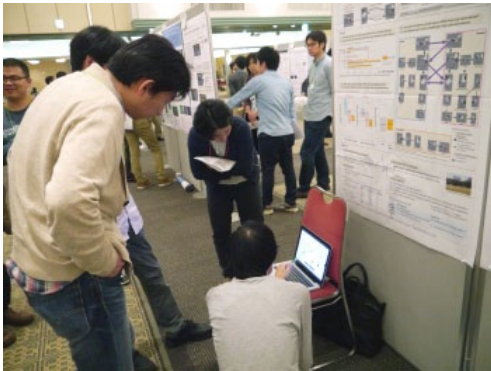
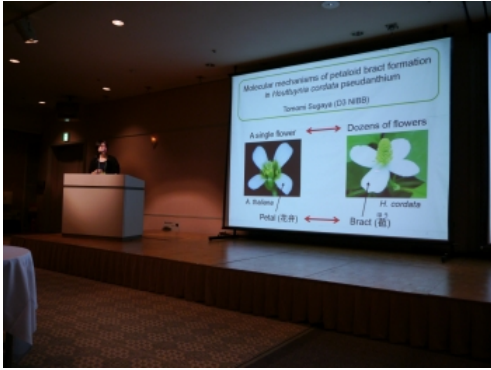
## Photos

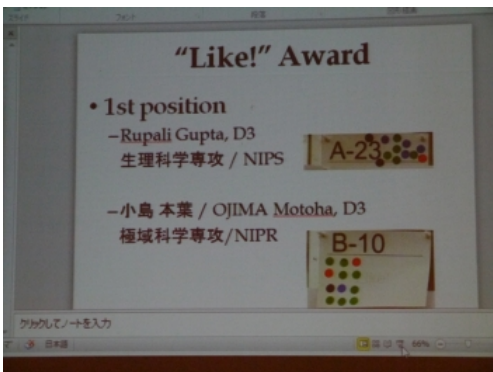
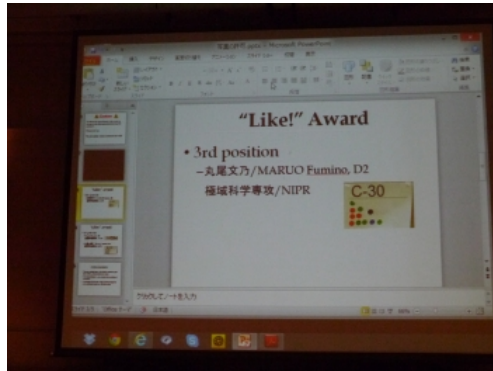
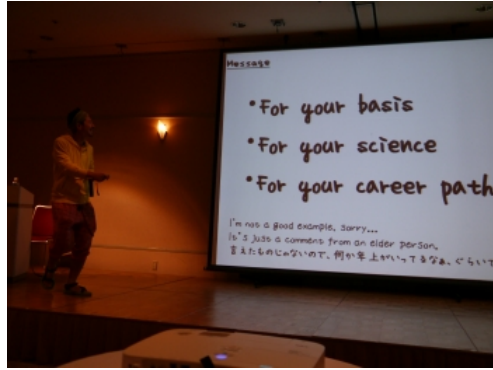












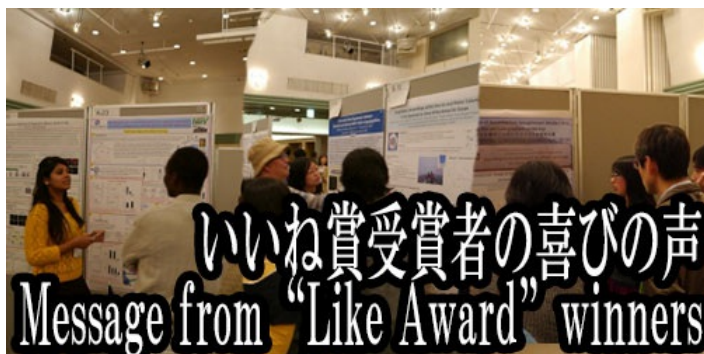


PR↓

※学生が応募できる学融合推進センターの助成金です



## 生命科学リトリート



Ms. Rupali Gupta (D3, Department of Physiological Sciences)



Hello everyone,

I am Rupali Gupta, D3 student from department of Physiological Sciences, division of Cell-Signaling.

### Brief introduction of my research:

I am working on “Identification of amino acid residues involved in the TRPA1 inhibition by utilizing species specific differences”. Transient receptor potential ankyrin A1 (TRPA1) receptor is a member of TRP superfamily and act as nociceptive receptor for various chemicals and physical stimuli. I am trying to find particular amino acid that will block TRPA1 antagonist activity which will provide novel insights in the search for new analgesic medicines targeted for TRPA1.

### Life Science Retreat:

The mission of the “Life Science Retreat” is to bring together faculty and students from diverse departments working towards the understanding of biological processes. This type of conference gives you the chance to see your project from various sphere of research. One cannot be specialized in everything so this event provides you golden platform to introduce your research and ideas and get exceptional comments from the philosophers of different fields. □

It was certainly a nice experience for me to present poster in this meeting and along with this got a chance to meet students from multidisciplinary background. I have been attending “Life Science Retreat” from the past 3 years.

Sometimes question asked during my poster presentation bewildered me and gave rise to different hypothesis at the same time but I feel this is the beauty of this retreat which provides you new vision of the area of your greatest interest.

Every year to make “Life Science retreat” more interesting, committee members try to add new activities. In 2012, they added 1 minute “Pre-poster Presentation” to advertise your poster and gather more audience. That was really thoughtful activity which made students to explore their imaginations and come up with best and easiest ideas to explain their research in merely 1 minute.

**Interdisciplinary research grant** is also one such event introduced in Life Science Retreat 2012. It provided grants for students to start their own project with the help of collaborations. Moreover it's a best opportunity for naive students to practice project/grant writing and getting comments from experts.

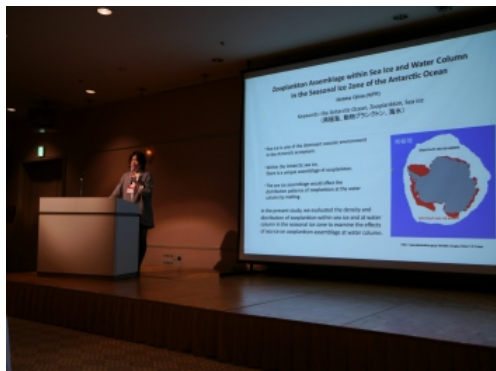
In 2013, to make Retreat even more interesting they added one more event called “Like Award”. Every student got 3 stickers to put onto 3 best posters they liked so to get the more “Likes” you need to work harder. This year I received “Like Award” (●\_●). I was happy and

surprised because I was still on initial step of my project but I received many useful comments from everyone and their “Likes” on my poster boosted me to work harder to get it again next year.

Except from many scientific benefits from this conference there are some non-scientific too, like beautiful venue and overnight discussion□ party which will help you making friends from different institute within SOKENDAI.

In the end I would like to show my gratitude to the organizing committee of “Life Science Retreat” for this advent and I am looking forward to participate again.

小島本葉さん（D3, 極域科学専攻）



こんにちは。極域科学専攻D3の小島です。この度は2013年度生命科学リトリートにおいて「いいね賞」をいただき、大変ありがとうございました。

私は現在、南極海、特に海氷が張る海にすむ動物プランクトンの分布について研究しています。研究手法は、船から採ったサンプルを顕微鏡でみて、形態に基づき分類し、分布を明らかにすることです。そしてなぜそのような分布様式になったのかを環境要因より考察する方法をとっています。極限環境において、海の生き物がどのような生き様を送っているのか調べていくことは、私にとっては心ときめき興味のつきない世界です。

実は、私は2年前にも生命科学リトリートに参加させていただいたことがあります。その際生命科学リトリートは、分子生物学的、生化学的、生態学的な知識、技術に基づいた研究を行っている多くの学生が集まり、お互いの持っている情報を交換する絶好の場であると実感しました。また、生命科学リトリートは、IRCに向けて共同研究者をみつける場でもあると理解しています。つまり、生命科学リトリートには、学際的な交流を育み、学際的視点から自らの研究を深めることのできる機会があると考えています。その中で私の視野を広げ、研究の今後の発展へとつなぐことができればと期待しています。効果はおそらく今すぐに目に見える形としてアウトプットされなくとも、将来的に必ず生きてくると思います。今回様々な専門家の方とお話することができ、とても刺激を受けました。さらに賞までいただき、大きな励みになりました。

まだ道の途中ではありますが、今後は専門分野を深く掘り下げていくとともに、多角的な視点で地球という大きな生命をみていきたいという思いを強くしています。委員の方々には大変お世話になり、ありがとうございました。みなさんにまたお会いできますことを、心より楽しみにしております。ありがとうございました。

丸尾文乃さん（D2, 極域科学専攻）





極域科学専攻D2の丸尾です。

今回は「いいね賞」を受賞できて、本当にうれしいです。普段から意見を伺いたかった分野の方々とお話しする機会に恵まれただけでも幸せなのですが、いいね賞まで頂けて幸せが何倍にも大きくなりました。いいねをしてくださった方、意見を下さった方、このような機会を用意してくださった先生方、実行委員の方、本当にありがとうございました。

私は「生育環境に応じた蘚苔類の繁殖戦略のダイナミズムの解明」というテーマで研究を行っています。具体的には、蘚苔類（コケ）の生育地ごとの有性生殖の状況を調べています。極地研には遺伝学や生理学を専門にしている研究者は少なく、常々そのような分野の研究者からの意見を伺いたいと思っていました。今回のポスター発表の際に基生研や生理研、遺伝研の研究者の方から意見を頂けて、今後の研究に大きな進展が生まれそうです。

PR↓ ※学生が応募できる学融合推進センターの助成金です



## 生命科学リトリート



公募型教育事業「生命科学リトリート」学生委員長の養老瑛美子さんにインタビュー  
インタビュアー：塚原直樹（学融合推進センター）

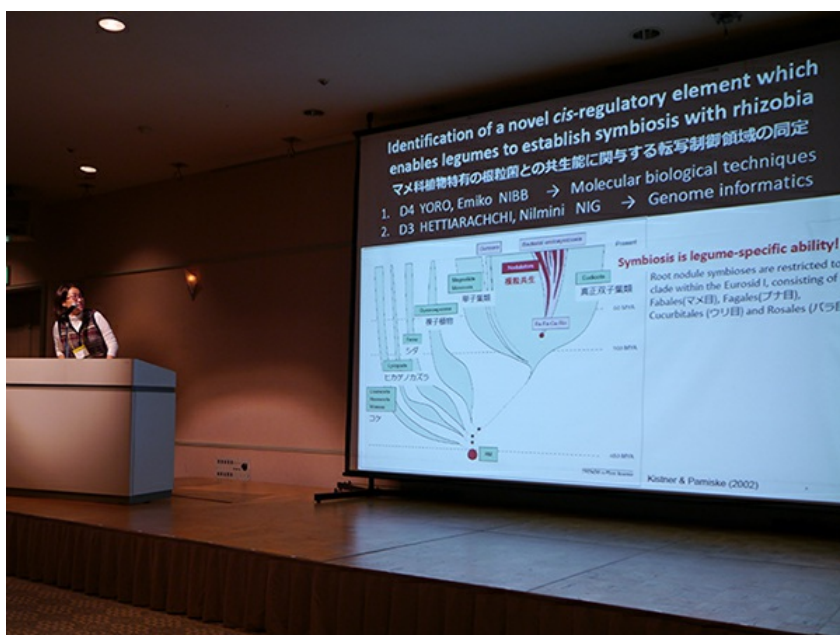
生命科学リトリート初日、全ての学生がポスター発表を終え、一人目の招待講演者、佐藤先生のエキサイティングな講演（昆虫サイボーグに関するご発表）の直後のフリーディスカッションタイム。足早に温泉に向かう人もいれば、ドリンクを片手に熱い議論を交わしている人もいます。そんな中、会場の隅でインタビューをさせていただきました。

--- 生命科学リトリートとはどういう企画でしょうか？

「遺伝研、基生研、生理研、先導研の生命科学系の4専攻の学生が集まって、それぞれの研究の発表を通じて、交流を行う企画です。生命科学合同セミナーという名前でスタートし、今回で10年目になります。学生セミナー以外で専攻外の友達に会う数少ない機会のひとつです。私は4回目の参加で、毎年発表しているので、他の参加者がどんな研究をしているのかもわかってきて、毎年楽しんでいます。」

--- ここでの交流はどんなことにつながっていますか？

「去年のリトリートで知り合った遺伝研の学生のNilminiさんとIRCグラント（専攻を超えた学生の共同研究を支援するグラント。詳しくはこちら→<http://ibep.ims.ac.jp/headline/2013/000194.html>）に応募し、実際に採択され、共同研究がスタートしました。Nilminiさんの研究は植物の遺伝的なシミュレーションに関する理論系の研究ですが、その発表を聞いた時、実験系の私の研究とコラボすれば面白いのでは、と思ったのがきっかけです。リトリートが出会いの場になりました。」



※写真はIRCグラントの成果発表の様子

--- 企画して苦労した点はどんなところでしょうか？

「研究をやりながらのオーガナイズは大変でした。4月に5人の委員が決まりましたが、事務作業は特に大変でした。Abstractを締切に出してくれないとか、誰もメールを見てくれていないとか、直前で多くのキャンセルが入ったりとか……。でも、すごく良い経験ができたと思っています。もし研究者にならないとしても、社会に出て、どんな職場でも役に立つスキルですから。講演者にメールを出すのも勉強になりましたし、英語でプログラムを作ったり、留学生にアナウンスすることで、英語の力もついたと思います。」

--- 企画者になったのは勉強のためですか？

「正直なところ、学生の話し合いで、川口先生（養老さんの指導教官）が今回のリトリート委員長だし、養老さんがやったら、という流れで、実はあまり乗り気ではなかったです（笑）。でも、だんだん委員のみんなも乗ってきて、いいね賞の企画を思いついたり、魅力的な講演者を選んだり、後半は盛り上がってきて、団結力もできました。」

--- 招待講演者も学生委員で選んだのですか？

「全専攻の学生に講演者の希望をとったのですが、2人くらいしか返事がなかったです。結局、今回の3人の先生は基生研のメンバーで選びました。指導教員や助教の先生方からお勧めの研究者を教えてもらって、7人くらいの候補者をリストアップして、最後は委員の投票で決めました。一人はアフリカから呼ぼうとしたんですが、金銭的な理由で難しかったですね。でも、海外から呼んだ（シンガポールの佐藤先生のこと）のは、今回が初めてなんです。」

--- 今年力を入れたところは？

「いいね賞と佐藤先生を海外から呼んだことですね。それと、アドバイザー制度（助教の先生が決まった学生のポスター発表に一定時間張り付いてアドバイスする制度）です。去年は聴衆がいないポスター発表があって、学生が寂しくしていたことが反省点として挙げられていたので、それを避けるためにアドバイザー制度を作りました。また、国際発表で恥をかく前に、英語を使う練習の場、というのが、リトリートの趣旨でもありますので、助教の先生がいれば、みんな英語を使うんじゃないかなと思いました。また、フリーだと専攻内でまわってしまうことが多いので、専攻外の人ともコミュニケーションをとってほしいと思い、このような制度を設けました。」

--- 来年以降の委員へのアドバイスは？

「自分が楽しむこと、やりたいことを盛り込むことが大事だと思います。あと、委員の数は多すぎても会議とか大変ですが、ある程度は多い方がいいと思います。負担が集中してしまうと楽しめなくなってしまうので。ただ、今年はD4だけでやってしまったことが反省点です。リトリートの委員は4専攻で回すので、1年生とかも入れておいた方が後々楽だと思います。専攻によって、事務手続きなどのやり方が違うので。」

--- まだ参加したことがない学生や先生へメッセージはありますか？

「4専攻以外の人にもどんどん参加してほしいです。今回、極地研から2人が参加してくれました。この2人は生命系の研究をしていて、委員の知り合いで、直接声をかけたのですが、そうでないとなかなか来にくいとは思いますが、ぜひ参加してほしいです。」

--- 今後リトリートでやってほしい企画はありますか？

「スタイルはもっと自由でいいと思います。総研大学生セミナーみたいにグループで話すような、でも、自分の研究につながるような。その場でコラボレーションを考えてみるとかいいですね。招待講演者をたくさん呼んで、グループ内で話すとか。そうすると準備はもっと大変になるかもしれないですけど（笑）。」

私は今回初めて生命科学リトリートに参加しましたが、教員にとっても刺激的かつ有意義なイベントでした。会場に到着するまでは、これほどの規模のイベントだとは正直思っておらず、養老さんをはじめ、委員のみなさんのご苦労がうかがえました。しかしながら、大変盛会となったのも、委員のみなさんが楽しんで、積極的に企画したからではないかと思います。

「日本人はフリーディスカッションになると、身内でかたまってしまいがちです。私は分野外の人にしか思いつかないポイントもあると思うので、このような機会ではもっと積極的に分野外の人とディスカッションをしてほしいです。」と語る養老さん。学生ながら、IRCグラントを獲得して、実際に共同研究を行った行動力は素晴らしいと、素直に感心します。

養老さんが言うように、生命科学だけでなく、全学的に研究交流ができるイベントがあったら、とても面白い企画になるな、と思いつつ、インタビューを終えました。



PR↓

※学生が応募できる学融合推進センターの助成金です



## 生命科学リトリート

### Life Science Retreat 2014 (11th)

Date : Oct 16 (Thu) - 17 (Fri), 2014  
Venue: Yamaha Resort Tsumagoi (Shizuoka)  
Main organizers: NIG

[Final report PDFs of the retreat \(in Japanese\)](#)



[CPIS NEWS No.18](#)



### Committee

#### NIG (Organizer)

Academics: 中村保一（主担当）, 有田正規（副担当）, 神沼英里  
Students: 中村真心, 山本一徳, 宇塚明洋, 中沢信吾（大会長）, 福田胡桃

#### NIPS

Academics: 定藤規弘  
Students: 青木直哉, 山本真理子

#### NIBB

Academics: 川口正代司, 椎名伸之, 成瀬清  
Students: 栄雄大, 野波裕太, 長谷川亮太

#### ESB

Academics: 五條堀淳  
Students: 伊藤真利子, 岩崎理紗, 西山久美子

### Program

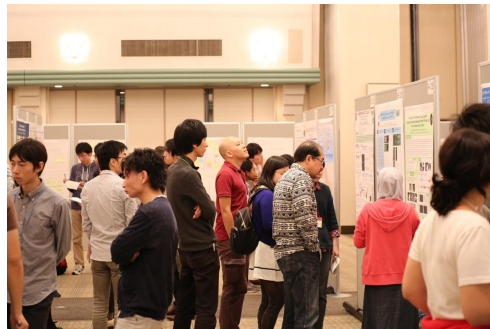
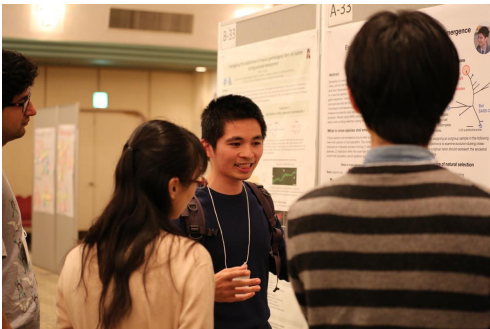
#### Oct 16

12:00 Reception, poster setup  
13:00 Opening remark (Prof. Hasebe)  
13:10 Workshop  
14:40 Coffee break  
14:50 Short talk A  
15:30 Poster A (1st grade students)  
16:20 Coffee break  
16:30 Short talk B  
17:10 Coffee break  
17:20 Short talk C  
18:00 Dinner  
19:30 Poster B  
20:20 Poster C  
21:10 Free discussion

#### Oct 17

7:00 Breakfast/ Check out  
9:00 Invited lecture 1 (Prof. Kondo)  
10:00 Coffee break  
10:10 Invited lecture 2 (Dr. Horikawa)  
11:10 Group photo  
11:30 Lunch... WS feedback  
12:30 Free time  
14:30 Closing remark (Prof. Nakamura)

## Photos



PR↓

※学生が応募できる学融合推進センターの助成金です







## 生命科学リトリート

### Life Science Retreat 2015 (12th)

Date: 25th-26th January, 2016  
Location: YAMAHA Resort TSUMAGOI, Kakegawa, Shizuoka  
Main organizers: NIPS

### Committee

#### NIPS (Organizer)

Academics: Mikio Furuse  
Students: Rupali Gupta, Kota Tokuoka (2 General Chairs)  
Li Jiayi, Koichiro Haruwaka, Masahiro Wakabayashi

#### NIBB

Academics: Masayoshi Kawaguchi, Nobuyuki Shiina, Kiyoshi Naruse  
Students: Tomoaki Ito, Fumiko Usami

#### NIG

Academics: Masanori Arita  
Students: Wataru Tanaka, Akshari Gupta

#### ESB

Academics: Jun Gojobori  
Students: Nami Arakawa, Tokiho Akiyama, Yuki Kuch

### Program

#### 25th Jan.

12:00 Registration/Poster setup

13:00 Opening ceremony

13:30 Invited talk: Dr. Saeko Yanaka (Assist. Prof, Instit. Mol. Sci.)

"The analysis of structural dynamics using NMR for the understanding of the protein functions and for designing drugs"

14:35 Coffee break

14:45 Short talk 1

15:25 Poster session A

16:10 Coffee break

16:20 Short talk 2

17:00 Poster session B

17:50 Check in Hotel North Wing  
Dinner Buffet Terrace

19:20 Short talk 3

20:00 Poster session C

20:50 Free discussion

22:00 Happy hour (Hotel North Wing 3519, 3520)

#### 26th Jan.

7:00 Breakfast/ Check out

9:00 Invited talk: Dr. Shin-ichi Furuya (Assoc. Prof, Sophia U) "Neuromusic: niche or unique?"

10:00 Coffee break

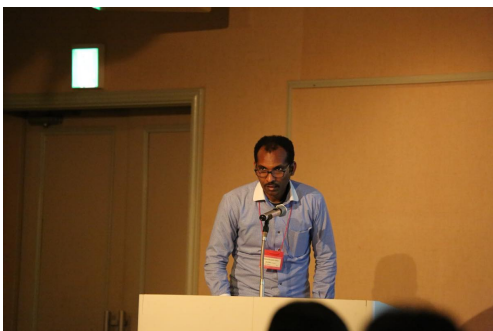
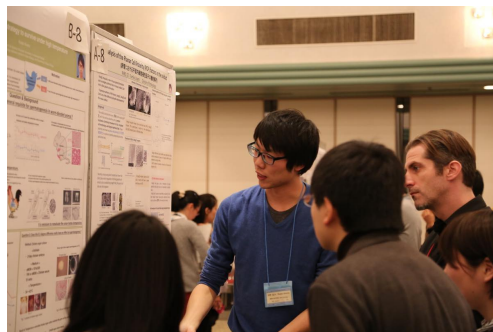
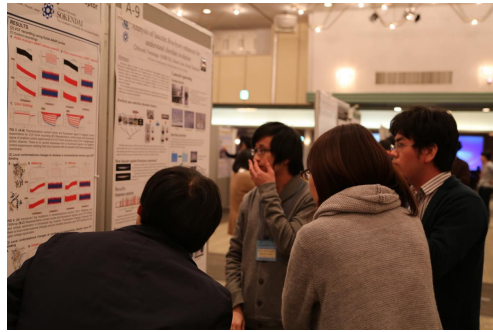
10:10 Workshop

12:30 Group photo  
Free discussion/ Poster removal

14:30 Closing ceremony

14:50 Departures

### Photos





PR↓

※学生が応募できる学融合推進センターの助成金です





## 総研大文化フォーラム

### 総研大文化フォーラム2016 異文化へ旅する、異分野を旅するー文化科学からの招待状ー

#### 日程・会場

○日程：平成28年12月10日（土）～11日（日）  
○会場：大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国際日本文化研究センター  
〒610-1192 京都市西京区御陵大枝山町3丁目2番地

#### 開催趣旨

文化科学研究科が開催してきた学術交流フォーラムは、総研大全学事業の一環となる「**総研大文化フォーラム**」として再出発します。新生フォーラムは、文化科学研究科のみならず、総研大全体において文化科学研究に関心を持つ学生・教員が一堂に集まり、学際的な学術交流を行うことを目的とします。そして、文化科学研究科が編集する学術誌『総研大文化科学研究』と共に、総研大における文化科学研究の学風の確立と発信を目指していきます。

その第一歩となる総研大文化フォーラム2016のテーマは、「異文化へ旅する、異分野を旅するー文化科学からの招待状ー」です。文化科学研究と一口に言っても、その研究分野は多岐に亘ります。しかし「私」とは異なる文化を理解しようとする知的好奇心は、文化科学研究全体で共通するものがあるでしょう。また、総研大には、専門を異にする多くの研究者が在籍していますが、「異文化」と向き合いつつ、「異分野」に出会うことも目指したいと思います。そこで本フォーラムは、皆様の知的好奇心を大いに刺激する旅となることを目標に、京都に立地する国際日本文化研究センターにおいて開催致します。研究科を問わず、多くの方々の参加をお待ちしています。

文化科学研究科長 小島 道裕  
国際日本研究専攻長（フォーラム事業担当） 伊東 貴之  
平成28年度学生企画委員長 春藤 猷一

#### プログラム

1日目 12月10日（土） 13:00～19:30

13:00～13:30 受付  
13:30～13:45 開会式  
13:45～15:15 講演会「遊牧世界からのメッセージ」松原正毅 坂の上の雲ミュージアム館長  
15:15～15:30 休憩  
15:30～17:00 ポスター発表  
15:30～16:00 研究紹介  
16:00～16:30 Aグループ発表  
16:30～17:00 Bグループ発表  
17:00～17:30 移動・休憩  
17:30～19:30 懇親会

2日目 12月11日（日） 9:15～16:00

9:15～9:30 受付  
9:30～11:30 口頭発表  
9:30～9:35 プログラム説明  
9:35～10:00 鈴木昂太 日本歴史研究専攻学生  
10:05～10:30 八木風輝 比較文化学専攻学生  
10:35～11:00 查斯查干 地域文化学専攻学生  
11:05～11:30 福島登志夫 物理科学研究科天文科学専攻教授  
11:35～11:45 閉会式  
11:55～16:00 京都フィールドワーク

#### ポスター発表

##### Aグループ

ボルネオ島ドゥスン社会における動植物の認知とその利用について  
西山文愛 比較文化学専攻 学生

細菌学者・志賀潔の異邦／異分野への旅  
松田利彦 国際日本研究専攻 教授

夏目漱石の『方丈記』英訳  
ー明治日本における異文化交流とハイブリディティの一例  
GOURANGA CHARAN PRADHAN（ゴウランガ チャラン ブラダン）

国際日本研究専攻 学生  
「色付」ー小判を金色に変える技法  
齋藤 努 日本歴史研究専攻 教授

指と耳で700年前の古写本『源氏物語』を読み書きする  
ー視覚障害者と文化を共有するために  
伊藤鉄也 日本文学研究専攻 教授

科学への関心が低い層を対象としたWeb サイト「研究者時計」の作成・公開結果 楽しく科学者を紹介する試みについて  
板東隆宏 物理科学研究科核融合科学専攻 学生

タンパク質の形から解明する遺伝子発現メカニズム  
相沢恭平 高エネルギー加速器科学研究科物質構造科学専攻 学生

相互行為としての通訳活動ー手話通訳を例に  
菊地浩平 学融合推進センター 助教

レンケイのためのプレゼンテーション  
広海 健 国立遺伝学研究所 リサーチ・アドミニストレーター室長

Bグループ 山鹿素行思想における『孟子』文献についての考察  
ー朱子学信奉期を中心に  
張 暁明 国際日本研究専攻 研究生

三聖図・三酸図における三教思想  
宋 琦 国際日本研究専攻 学生

太平洋問題調査会の日本研究  
南 直子 国際日本研究専攻 学生

洛中洛外図屏風の系譜と発注者ー「歴博甲本」の作り方  
小島道裕 日本歴史研究専攻 教授

肖像と画像言説の相関性について  
ー浮世絵の大家・西川如信の画論・画業と現代的意義 3題  
相田 満 日本文学研究専攻 准教授

エネルギー開拓史と核融合研究の展望  
松永信之介 物理科学研究科核融合科学専攻 学生

南極湖沼生態系の構造と成立史  
伊村 智 複合科学研究科極域科学専攻 教授

カラス肉の市場性と受容性  
塚原直樹 学融合推進センター 助教

越境する「うつわ」としてのブラジル行き移民船  
稲賀繁美 国際日本研究専攻 教授  
根川幸男 国際日本文化研究センター 共同研究員

## 口頭発表

広島県備北地方における「太夫」の活動  
ー神社の「神職」と地の「太夫」  
鈴木昂太 日本歴史研究専攻 学生

マイノリティを歌うマジョリティ  
ーモンゴル系民族によるカザフ音楽演奏  
八木風輝 比較文化学専攻 学生

「トルグド東帰」に関する歴史記憶のありかたについて  
ーホボクサイル・トルグドを中心に  
査斯査干（チャスチャガン） 地域文化学専攻 学生

天文学と文化科学の一接点：宇宙人存在問題  
福島登志夫 物理科学研究科天文科学専攻 教授

## 講演会の説明

### 遊牧世界からのメッセージ

遊牧は、農耕とならぶ人類のふるい生活様式のひとつである。遊牧も農耕も、長期間にわたる狩猟採集生活のなかではぐくまれた知識の集積にもとづいて展開された暮らしの手段であった。遊牧では、群居性をもつ畜群を群れとして管理し、そこから産出する乳や毛、皮、肉などを生活の基盤としながら、移動性に富んだ暮らしを営む。遊牧や農耕は、言語運用能力をぬきにしてその成立をかんがえることはできない。言語運用能力にもとづいた知識の集積があって、はじめて遊牧や農耕の起源が可能になったといえる。言語運用能力がいつ人類にそなわったのかについては、不明な部分がおおい。一部の研究者のなかでは、約20万年まえの現生人類の誕生と言語運用にかかわる遺伝子FOXP2の発現がほぼ同時期であったとされる。最近、現生人類の遺伝子FOXP2からつくられた蛋白質は、類人猿や他の哺乳類の同等の蛋白質と、ふたつのアミノ酸が異なることが発見されている。遊牧がどのような過程をへて成立してゆくかを、考古学的手法によって解明するのは不可能といってよいだろう。もともと遊牧は、考古学的な検証の対象になりうる痕跡をほとんどのこさない生活様式だからである。ひとつの場所に長期間とどまって遺跡を形成することがないし、特別な道具類を遺物としてのごすことがない。遊牧民と暮らしをともにして、もっとも感動をおぼえるのは移動のあとにみごとに生活の痕跡をのこさないことである。従来、遊牧の起源を動物の家畜化とかさねあわせて議論されることがおおい。これは、かならずしも妥当なこととはいえないだろう。動物の家畜化が、遊牧の起源とそのまま直接的にむすびついているわけではないからだ。動物の家畜化の一次的資料としてもちいられるのは、西アジアの初期農耕遺跡から発掘される種々の骨である。これは、初期農耕民のなかに導入された動物の家畜化が反映された資料といえるだろう。遊牧の起源は、ヒツジやヤギの野生種の群れと共生しながら狩猟するながい経験をおして蓄積された知識にもとづいたものだ。このなかから、搾乳や去勢などの技術がうみだされる。遊牧は、あきらかに農耕とは異なる系譜のなかで成立した生活様式である。

松原正毅 まつばら まさたけ  
坂の上の雲ミュージアム館長  
国立民族学博物館名誉教授、総合研究大学院大学名誉教授  
専門：遊牧社会論、社会人類学  
主な業績  
・『カザフ遊牧民の移動 アルタイ山脈からトルコへ 1934-1954』（平凡社、2011年12月）  
・『遊牧の世界ートルコ系遊牧民ユルックの民族

## フィールドワーク

「物語の生まれる風景」（宇治）  
荒木 浩 国際日本研究専攻 教授

「忘れられた中世山寺の跡を歩く」（山寺）  
榎本 渉 国際日本研究専攻 准教授

「洛中洛外図屏風「歴博甲本」左隻の世界を訪ねる」（上京）  
小島道裕 日本歴史研究専攻 教授

## 総研大文化フォーラム2016 企画・運営

<平成28年度 学生企画委員> 委員長 春藤 献一 （国際日本研究専攻）

副委員長 今城 未知 (日本歴史研究専攻)  
 八木 風輝 (地域文化学専攻)  
 阮 立 (比較文化学専攻)  
 田村 美由紀 (国際日本研究専攻)  
 単 荷君 (国際日本研究専攻)  
 小野 光絵 (日本文学研究専攻)

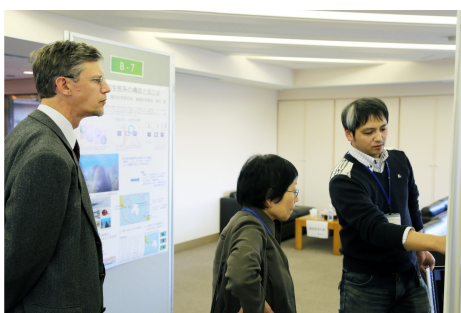
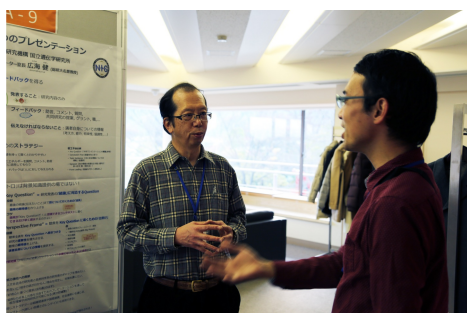
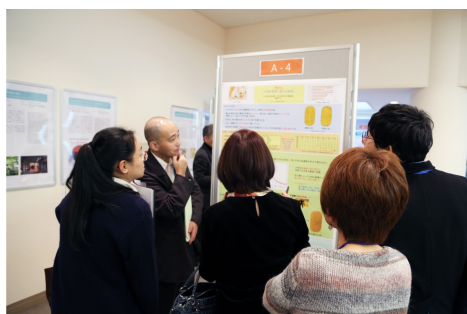
＜文化科学研究科長・専攻長＞ 小島 道裕 教授 (研究科長)

横山 廣子 教授 (地域文化学専攻長)  
 平井 京之介 教授 (比較文化学専攻長)  
 フォーラム担当 伊東 貴之 教授 (国際日本研究専攻長)  
 坂本 稔 教授 (日本歴史研究専攻長)  
 仁科 エミ 教授 (メディア社会文化専攻長)  
 山下 則子 教授 (日本文学研究専攻長)

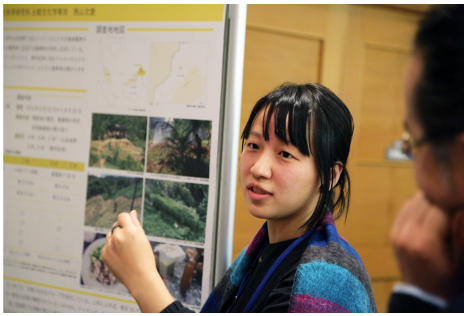
＜フォーラム教育業務担当＞ 光平 有希 国際日本文化研究センター プロジェクト研究員

＜学融合推進センター＞ 七田 麻美子 特任准教授

## 当日の会場写真











## 総研大文化フォーラム2016 感想

### 文化科学研究科長 小島 道裕

伊東専攻長をはじめとする国際日本研究専攻／日文研の教職員各位、そして学生企画委員のみなさんの熱心なご準備と運営のおかげで、とても充実したフォーラムになりました。文化科学研究科のみならず、他の研究科（実質全研究科）や学外から多くの参加があったのもうれしいことでした。口頭発表については少し分野が偏ったので、できれば各専攻の院生による発表があるとよかったです。

### 国際日本研究センター副所長 稲賀繁美

松原先生のご講演は貴重でした。遊牧生活が財産や土地の所有という観念から自由な社会原理であり、そのうえで移動が集団間で摩擦を起こさない工夫。松原先生はそうした価値観に、地球の将来を救う可能性を見いだそうと訴えておられました。

フォーラムに関していえば、予期せぬ出来事や予定どおりゆかぬ進行について、おらかな態度で接して良いのではないのでしょうか？現在の行き過ぎた管理社会を増幅するような傾向が若い院生のあいだで広がるのは危険かもしれません。むしろ予期せぬ事態が出来たおりに、セミナー参加者が互いにもてる知恵をもちよってそれを解決する体験のほうが大切だと思います。発表も、学会発表の予行演習とは違う、それぞれのメッセージを伝える工夫が大切かと思いました。専門分野によって学会のお作法はずいぶん異なり、一方で勧められる事が、他方では禁じられているケースすらあります。そのような複数の価値観のあいだを遊牧する体験も貴重でしょう。

### 学融合推進センター長 鎌田 進

コテコテの物理系研究者人生の果てに、縁あって学融合推進センターに身を置き、今回の総研大文化フォーラムに参加する機会を得ました。理系から参加される旧知の方も多く、疎外感を覚えることなく、講演やポスター発表を楽しみました。総研大文化フォーラムは、幅広い分野の人々が集い語る魅力に溢れた場という印象を受けました。

京都フィールドワーク「物語の生まれる風景」（講師 荒木浩先生）で、宇治を訪問。用意された資料から、「さむしるに衣片敷き今宵もや、我を待つらむ宇治の橋姫」など、様々な文献・文学作品で、意匠を変え繰り返される橋姫イメージを知りました。言葉を介し、時間・空間を超えた相互作用によって発展・進化する想念・観念・理念・認識・魂の存在を身近に感じ、人類進化に言語などのコミュニケーションツールが果たした役割に想いを馳せています。

### 文化科学研究科 国際日本研究専攻 春藤 献一（学生企画委員長）

開催趣旨にも少し盛り込みましたが、今年のフォーラムの個人的な目標は、楽しいフォーラムを開催することでした。この目標は、みなさんのお力添えで達成することができたと思っています。これからのフォーラムも、楽しく研究を語り合える空間であって欲しいと願います。フォーラムに関わっていただいた

なさん、ありがとうございました。

#### 文化科学研究科 日本歴史研究専攻 今城 未知（学生企画委員会副委員長）

今回は委員として企画から参加し、貴重な経験をさせていただきました。当日は、様々な分野の講演・発表を聞くことができ「異分野を知る」ことができました。また、京都フィールドワークでは、観光では感じることができない京都の魅力を感じることができた他、実地を歩くことの大切さを実感しました。ありがとうございました。

#### 文化科学研究科 比較文化学専攻 八木 風輝（学生企画委員）

今回の講演を快諾いただき、遊牧の根源的な性質を通して世界を思考していくことをお話になった総合研究大学院大学名誉教授の松原正毅先生。フォーラムの運営に際して、国立歴史民俗博物館の小島道裕先生と国際日本文化研究センターの伊東貴之先生を筆頭に、七田麻美子先生、菊地浩平先生(以上総研大)、松原先生を紹介いただいた島村一平先生(滋賀県立大学)、総研大事務の皆様と学生企画委員の皆様に厚く御礼申し上げます。

#### 文化科学研究科 比較文化学専攻 阮 立（学生企画委員）

フォーラムの二日間、個々の分野だけで見えなかった異分野の旅。そして、テーマの芽生えからフォーラムの開催まで、皆様の知恵と汗で綴るフォーラムのあり方を模索する旅。企画委員として、外国人留学生として、今回のフォーラムに参加したことで、素晴らしい「旅」を経験できました。また、フォーラムを運営するにあたって、何かと力不足な私を助けていただいた委員の皆様や先生方に感謝申し上げます。

#### 文化科学研究科 国際日本研究専攻 単 荷君（学生企画委員）

企画委員の一員として、今回の総研大文化フォーラムの企画から実施するまでの各段階に参加することができることは、外国人留学生の私にとっては、大変貴重な体験でした。また、「京都フィールドワーク」という新しい試みは、本に書かれる知識や理論などを自分の身で体験し、自分の目で確かめる機会を与えてくれました。これからのフォーラムにおいて、このような新しい試みが行われることを期待しています。最後は、フォーラムでご迷惑をかけた皆さま、協力して頂いた皆さまに、感謝を申し上げます。

#### 文化科学研究科 国際日本研究専攻 田村 美由紀（学生企画委員）

「異文化へ旅する、異分野を旅するー文化科学からの招待状ー」というテーマにふさわしく、文化科学研究という窓を通して様々な学問領域の面白さと魅力に触れることのできた刺激的な二日間でした。委員としてこのフォーラムに関われたことに感謝しています。

#### 文化科学研究科 日本文学研究専攻 小野 光絵（学生企画委員）

学生企画委員をつとめる上で院生同士の交流が出来た点、そして当日、分野の異なる院生の発表を聞くことが出来た点がとても有意義でした。同期の院生も活躍していて、自分も在学中にこの場所で発表してみたいという、いい意味でのライバル心を刺激された参加者が、私の他にもたくさんいたのではないかと感じました。

#### 物理科学研究科 核融合科学専攻 池本 憲弘

昨年度に引き続き、2年連続の参加となりました。今年度は昨年度よりもさらに発表分野が広がり、理系の参加者としても大変有意義なフォーラムでした。特に、松原先生の講演は研究者としてではなく、一人の人間としての生き方、考え方を改めて見直す良い機会となりました。来年度もぜひ参加したいと考えています。

#### 文化科学研究科 日本歴史研究専攻 鈴木 昂太

今回のフォーラムは、基盤機関が所在する「京都」という立地を存分に生かしたフォーラムであった。一流の講師とまわるフィールドワークにより、京都という町が持つ魅力と歴史を深く知ることができ、京都産にこだわった懇親会の料理と日本酒は、素晴らしいものだった。また、異分野の方々と交歓し、幅広い教養を積むことができたと感じている。

#### 高エネルギー加速器科学研究科 物質構造科学専攻 相沢 恭平

今回の文化フォーラムは「異文化へ旅する、異分野を旅するー文化科学からの招待状ー」をテーマに開催されたこともあり、理科系の人でも十分に理解できる内容でした。しかしそれだけでなく、こちらから疑問を投げ込んでしまうような工夫も多くあり、文科系研究の魅力に引き込まれてしまいました。

文化フォーラムに参加して感じたのは、文化系研究と理科系研究では「分かったことの価値観」が異なるということでした。理科系では普遍的な発見ほど重要とされるのが一般的ですが、文科系では特異的な発見ほど研究の対象として興味深いものになるようです。今回のフォーラムでは異なる価値観の発見とともに、文科系研究の面白さも味わうことができました。

#### 文化科学研究科 国際日本研究専攻 ゴウランガ・チャラン・プラダーン

今回のフォーラムで行われた「1分で研究紹介」は良かった。特に、発表者にとって自信がつくような機会にもなると思った。また、研究と直接に関わらない人からでも好奇心を引き起こせるフィルター・ワークとしても良かったと思う。ぜひ、今後もこのような新鮮なアイデアをプログラムのなかに入れてほしい。



## 日本文化指導コース 初級日本語講座 10, 13 October 2008

平成20年度日本文化指導コースおよび初級日本語講座



江戸東京博物館にて

<日時>2008年(平成20年)10月10日(金)、10月13日(月)  
<会場>国立天文台 (NAOJ)、浅草および江戸東京博物館  
<参加人数>31名 (日本文化指導コース 22名、日本語講座 9名)

平成20年度後学期の新入生を対象として、日本文化プログラムが入学式と併せて行われました。この活動は、日本の文化を紹介し、日本に対する新入生の理解を深めることを目的としたものです。

国立天文台 (NAOJ) の見学では、宇宙の観測・探求において、日本が先進的な役割を果たしている国のひとつであることを目の当たりにしました。NAOJでは、極めて高性能な設備を国内外に設置しています。NAOJに所属する研究者の方々から惑星系や深宇宙についての講演を聞き、宇宙の探求や宇宙空間での現象に関する研究に取り組まれており、社会に向けて成果を発信されていることを知りました。NAOJは、人類のための科学および技術の発展という要求を受け、それに応えようとする日本のひとつの象徴といえます。4次元デジタル宇宙シアター (ドームシアター) の見学は、まさに忘れられない体験でした! なかには眠そうな学生もいましたが、太陽系や美しい天の川銀河、広大な宇宙を見つめ、そして私たち人類の居場所を知るといことはすばらしい経験でした。この宇宙でいかに自分が小さな存在であるか、ということに気付かされるでしょう。



4次元デジタル宇宙シアターと深宇宙について (国立天文台) と日本文化講義 (浅草)

江戸東京博物館の見学は、新入生、とりわけ初めて日本を訪れた学生にとって、日本を知る絶好のチャンスとなりました。江戸東京博物館では、徳川将軍家や大名の壮大な屋敷から先進的な電気・自動車製品まで、日本の歴史を広範囲にわたって紹介しています。そこでは、日本が懸命に国造りを進めてきた歴史が模型で説明されています。日本は長い歴史を経て、今日では先進工業国をリードする地位を築き上げてきました。だからこそ、日本の皆さんは、勤勉、規律的、几帳面な面と共に、伝統的な価値観を持っているのだといえます。日本の皆さんに挨拶するときは、握手やハグではなくお辞儀を心掛けましょう!



体験しよう! 肥桶 (こえおけ)



江戸城と町割り



武家屋敷のミニ模型

日常的な学生生活のなかで役に立つ日本語を新入生が学ぶ場として、日本語講座が開催されました。この講義のスタイルはとてもユニークで、講師が直接学生一人ひとりに発声させる形式で授業が行われました。日本語の文字の正しい書き方を教わるなど、すばらしい内容でした。日本語講座は引き続きeラーニング形式でも行われ、学生は作文を提出し、試験を受けることになります。日本語を学ぶ良い機会となるでしょう。



日本語講座授業風景



また、日本語講座の合間には浅草周辺をちょっとした夜の散歩に出かけてその趣を満喫しました。浅草寺の見学や和食料理店での注文などは、新入生にとってすばらしい体験となりました。なかには、和食がとても気に入って、翌日も同じ料理店に向かう学生もいました!新しい友人との理解も深まり、国を越えて(学生セミナーのパンフレットにもあるように)「みんなは一人のために、一人はみんなのために!」という気持ちを持つことができました。

がんばっていきましょう!

(物質構造科学専攻 Teguh Panca Putra)



平成20年度日本語講座参加学生と教員

#### スケジュール

#### 10月10日(金) Friday, October 10, 2008

- 後期学生セミナー終了後 正面玄関集合し出発(チャーターバス)  
 13:20 - Gather at the Entrance of Soken-dai Main Campus after the Student Seminar  
 Departure from Hayama campus (by chartered bus)  
 葉山出発(13:30)→横横・逗子IC→首都高速線→国立天文台着(15:30)  
 13:30 - Soken-dai Hayama Campus (13:30)→Yoko-Yoko Highway・Zushi IC→Tokyo Metropolitan Highway (take a recess for a restroom break)→National Astronomical Observatory of Japan (15:30)  
 15:40 - 15:50 国立天文台訪問  
 開講式 Opening address 挨拶(櫻井隆副台長)  
 国立天文台 講義と施設見学(4次元デジタル宇宙シアター)  
 15:50 - 18:00 講義1 惑星系について(田村元秀准教授) 質疑応答  
 講義2 深宇宙について(児玉忠恭准教授) 質疑応答  
 Lectures and Tour of National Astronomical Observatory of Japan (4 dimensional Digital Universe DOME THEATER)  
 18:00 - 19:00 国立天文台発(18:00)→浅草ビスタ着(19:00)チェックイン  
 National Astronomical Observatory of Japan (18:00)→Asakusa Vista Hotel (19:00)  
 19:10 - 夕食 意見交換会 Dinner and discussion session

#### 10月11日(土) Saturday, October 11, 2008

- 07:30 - 08:30 朝食 Breakfast  
 ※日本文化指導コースのみ受講者→チェックアウト  
 Check-out (Except the participants who will attend the Japanese Language Classes)  
 10:00 - 11:30 日本文化講義 および 江戸東京博物館見学  
 日本文化講義(浅草ビスタホテル会議室)  
 Lecture on Japanese Culture (Conference room, Asakusa Vista Hotel)  
 浅草ビスタホテル発→江戸東京博物館着(12:00)(貸切バス)  
 11:45 - 12:00 Departure from the Asakusa Vista Hotel→Edo-Tokyo Museum (12:00)  
 12:00 - 13:30 昼食(各自) Lunch (Buy your own food)  
 13:30 - 15:30 江戸東京博物館見学 Tour of Edo-Tokyo Museum  
 15:30 - 15:40 閉講式 Closing of Japanese Culture Course  
 江戸東京博物館発→浅草ビスタホテル→東京駅(貸切バス)  
 15:40 - Departure from the Edo-Tokyo Museum→Asakusa Vista Hotel→Tokyo Station  
 16:30 - 日本語能力試験後 日本語講座開講式  
 Opening address of Japanese language classes and Orientation  
 夕食(各自) 浅草散歩 Free time

#### 10月12日(日) Sunday, October 12, 2008

- 07:30 - 08:30 朝食 Breakfast  
 09:00 - 12:00 日本語授業 Lesson01 (日本語の音声・アクセント・0～10・etc.)  
 12:00 - 13:30 昼食 Lunch time  
 13:30 - 16:30 日本語授業 Lesson02 (人について = 挨拶・自己紹介・友人紹介)  
 夕食(各自) 浅草散歩 Free time

#### 10月13日(月) Monday, October 13, 2008

- 07:30 - 09:00 朝食 Breakfast チェックアウト  
 09:00 - 12:00 日本語授業 Lesson03 (場所について = 名詞文のQ&A・所在地etc.)  
 12:00 - 13:30 昼食 Lunch time  
 13:30 - 16:30 日本語授業 Lesson04 (物について = 「こ・そ・あ」所有 etc.)  
 16:30 - 16:40 日本語講座閉講式 Closing of Japanese language classes  
 ホテル発→(浅草ビスタホテル)→東京駅 解散 End

## 日本文化紹介コース



学生セミナー 7 October 2013



学生セミナー 11 October 2012



学生セミナー 13 October 2011



学生セミナー 7 October 2010



日本文化紹介コース 9 October 2009



日本文化紹介コース 10 October 2008



学生セミナー 11 October 2007



学生セミナー 12 October 2006



## 日本文化指導コース 初級日本語講座 9-12 October 2009

平成21年度日本文化指導コースおよび初級日本語講座

＜日時＞2009年(平成21年)10月9日(金)～10月12日(月)

＜会場＞国立民族学博物館・日本民家集落博物館（大阪）

＜参加人数＞日本文化指導コース 25名、日本語講座12名、教職員9名



太陽の塔 万博記念公園

日本文化指導コースと日本語講座は、2009年度後学期入学式と学生セミナーに引き続いて開催されました。新入生、特に外国籍学生たちは、大阪で2つの博物館を訪問して、日本史と日本文化を紹介してもらう機会に恵まれました。また、それは様々な国から来た参加学生にとって、友情を育む絶好の機会にもなりました。

国立民族学博物館では、日本で最も名の知れた先住民のアイヌ民族の生活様式について講義を受けました。釣りや狩猟の道具の展示品は、アイヌの人々が長い歴史の間に独自の文化を形成していったことを、示すものでした。彼らは諸島に住んでいましたが、そのために隔離されていたという訳ではありません。例えば、アムール川流域から伝わったローブは、おそらく村長が着ていたと思われるものですが、元は清王朝の宮廷の官服でした。明らかに、アイヌの人々と隣国との交易による技術や文化交流は、両国の厳しい関係の時代でさえ、一度も止むことがなかったと思えます。また、他の印象的な展示品は、音楽部門の展示にあった楽器です。簡単な、しかし、美しい構造で、人工の細工物の大部分は銅板で作られていました。銅版を軽く槌で叩くと、珍しい音調のきれいな音色を奏でます。これらの展示品から、諸民族の素晴らしい伝統、創造、また日本人の勤勉さがよく解りました。



国立民族学博物館・常設展示（万博記念公園内）

日本民家集落博物館への訪問は、新入生、特に初めて日本を訪問した人々にとって、日本の伝統的な民家文化を知るために、さらに良い機会になりました。この博物館には、昔ながらの12の古い農家がありました。江戸時代(17-19世紀)に作られたこれらの家屋は、日本各地の田舎から運ばれてきて、野外緑地に再建されました。建物内部は当時の原型をとどめたまま、家具や生活備品が復元されていました。この野外博物館を歩き回っていると、見学者は自然と和合するという確かな体験をすることができました。



日本民家集落博物館（服部緑地公園内）

日本語講座は、今まで日本語の学習経験がない外国籍学生が、日本語習得に興味を持てるように開催されました。このクラスでは、発音の基礎と日本語表記である平仮名、カタカナの書き方を勉強しました。講師は学生をひとりずつ指導してくれました。授業終了後、日本語学習用のCDと、毎日のインターネット学習用のチェックカードを受け取った学生たちは、今後役に立つこの教材と親切な指導に感謝しました。

学生たちは、スケジュールの合間の自由時間を使って、たくさんの楽しい経験をしました。葉山の美しい海の景色は多くの学生を魅了しました。買物に行って、写真を取って、大阪で美しい夜景を楽しんでいました。期間中、総研大は昼食と夕食を(けしてケチという訳ではなく)用意してくれませんでした、そのお陰で、外国籍学生は、直接に日本人とコンタクトする機会に恵まれました。お互いのやりとりを最大限に活かして、日本語講座で教えてもらったヒントを実際に試してみる機会になりました。日本語を使おうとする熱意があれば、コミュニケーションすることができます。要するに、すべての人間は兄弟です。また同時に、これらの集団活動を通じて、新入生の間には素晴らしい国際的な友情が芽生え、深めてゆくことができました。

(原文：核融合科学専攻 ミン・ティンフン)

(写真提供：遺伝学専攻 ティム・ジナム)



平成 21年度日本文化指導コース参加学生と教職員

# スケジュール 【日本文化指導コース・日本語講座】

## 10月10日 (土)

09:10 -	ホテル阪急エキスポパーク2階「いちよう」前に集合 国立民族学博物館 正面玄関集合	
10:00 - 12:00	【日本文化紹介コース】オリエンテーション ⇒常設展示場の見学 (東アジア展示「アイヌの文化」及び「日本の文化」コーナーを中心に) 講義:近藤雅樹教授10:00~11:00 施設見学担当者:3名 通訳:1名)	
12:00 - 13:00	昼食 各自	
13:25 -	ホテル阪急エキスポパーク2階 「いちよう」(講義室) 集合	国立民族学博物館正面玄関集合 【日本文化紹介コース】(在学生等) 企画展「...点天展...」 講義: 廣瀬浩二郎准教授 13:30~14:00 案内: 3名
13:30 - 14:00	日本語オリエンテーション	特別展「自然のこえ命のかたち-カナダ先住民の生みだす美」 講義: 岸上伸啓教授 14:15~15:00 施設見学担当者: 3名 通訳: 1名
14:00 - 19:00	日本語講座 (ホテル阪急エキスポパーク 2階「いちよう」)	17:00~ 夕食等 (各自)
19:00 -	夕食 (各自)	

## 10月11日 (日)

08:30 -	ホテル阪急エキスポパーク2階「いちよう」前に集合→北側玄関へ。	
09:00 - 09:30	バス出発 (財) 日本民家集落博物館へ (-9:30着)	
09:30 - 11:20	(財) 日本民家集落博物館の見学 (所在地、大阪府豊中市服部緑地1-2) 講義: 近藤雅樹教授 施設見学担当者: 3名 通訳: 1名	
11:30 - 12:00	バス出発昼食会場へ (12:00着)	
12:00 - 12:50	昼食 (各自)	
13:30 - 19:00	バス出発ホテル阪急エキスポパーク (13:20着) →新大阪駅 (14:00着) 日本語講座 ホテル阪急エキスポパーク 2階「いちよう」	日本文化指導コース参加者 解散 各自基盤機関へ
19:00 -	夕食 (各自)	

## 10月12日 (月) 祝日

08:50 -	日本語講座
09:00 - 12:00	ホテル阪急エキスポパーク 2階「いちよう」
12:00 - 12:45	昼食
12:45 - 14:45	日本語講座 ホテル阪急エキスポパーク 2階「いちよう」
14:50 -	ホテル阪急エキスポパーク 正面玄関 バスで新大阪駅へ移動 (各自基盤へ)

## 研究者入門

参加者が主体となって学んでいく集中講義です。テーマは、研究者としての自立、キャリアパス、ライフワークバランスと多岐に渡ります。講義では、先生や先輩の経験を踏まえ、研究上の問題点と解決策について具体的に学びます。またワークショップでは、参加者同士で主体的に学んでいきます。本授業は研究活動を行っていこうと考えている学生の入門編として組み立てられています。これから研究者として生きていこうと考えている皆さん、ぜひ奮ってご参加ください。



研究者入門 13 July 2013

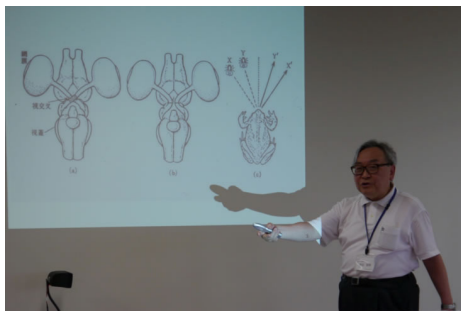


## 研究者入門 13-15 July 2013

参加者が主体となって学んでいく3日間の集中講義です。テーマは、研究者としての自立、キャリアパス、ライフワークバランス。イベントも盛りだくさんのセミナーでした。



今回のセミナーのガイダンス。



研究者のキャリアを振り返る-研究者年表-というタイトルで堀田凱樹総研大名誉教授にお話してもらいました。情報と遺伝学をつないで来られた先生のご経験は研究者のキャリアを考える上でも、とても重要でした。



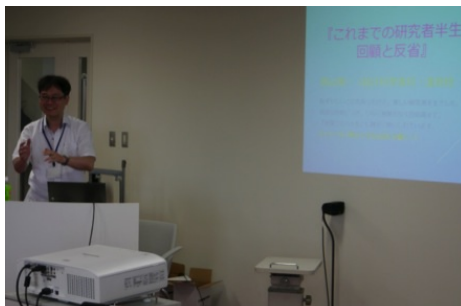
プレゼンはおしゃれ。相手に合せて「研究目的」をアピールするにはどうしたら良いかを考えました。



ワークライフバランス、老後のことも考えなければなりません。



さすがに総研大修士生！ひとりひとりの話が濃すぎます。



ちょっと年上からのアドバイスということで、統計科学専攻の西山陽一先生から、研究半生を語っていただきました。山あり谷あり。とても参考になりました。



自分の研究への「こだわり」をみつけるゴミ箱ワークショップ。



偶然、ポストを得たとしたら、どうするかに答えるワークショップ。

## 大学院教育研究会

大学院教育研究会は大学教育の質的な向上などを目的としたFaculty Development (FD) の一環として行われている研究会です。総研大教職員、学生だけでなく、他大学の教員、学生のみなさんの参加をお待ちしております。

### 過去の大学院教育研究会



大学院教育研究会 24 October 2017



大学院教育研究会 23 March 2017



大学院教育研究会 08 December 2016



大学院教育研究会 15 December 2014



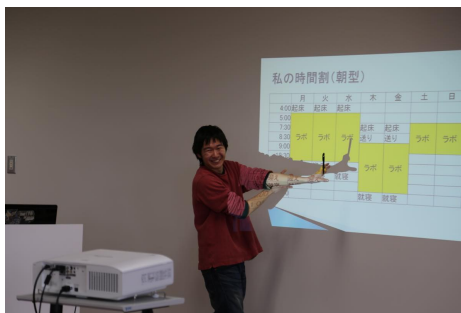
大学院教育研究会 3 March 2014

## 大学院教育研究会 3 March 2014

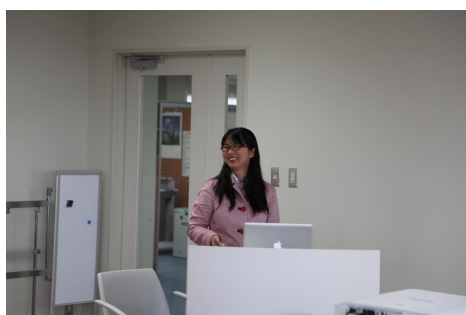
葉山キャンパスにて第10回大学院教育研究会「研究と生活の調和を目指して～ワタクシ的なことと研究のこと～」が開催されました。



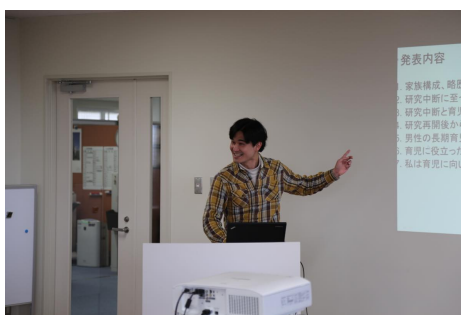
学生、教員含め15名程度の方が参加してくれました。



夫婦で学生の篠塚さん。子育てと研究をどのように両立しているか、実際の時間の使い方などプライベートなことまでお話をいただきました。



育児をしながら働くのは岡崎では普通とおっしゃる倉田さん。岡崎三機関には機構内託児施設があります。



男性で学振RPDの伊藤さん。育児で研究を中断し、復帰した経験をお話をいただきました。



## 大学院教育研究会 15 December 2014

### 第11回 実践的大学院教育研究会

博士のその後を考える～世界の事情、日本の事情～

日時：12月15日（月）13時～17時

会場：フクラシア品川（高輪口）

〒108-0074 東京都港区高輪3-25-33 長田ビル6階

アクセス <http://www.fukuracia-shinagawa2.jp/access/Window>

（JR〔品川〕高輪口駅から徒歩4分・京浜急行〔品川〕駅から徒歩4分）

#### [プログラム]

- ・ 13:00-13:10 開会挨拶 （総合研究大学院大学 理事 永山 國 昭）
- ・ 13:10-14:00 「今、企業や社会が求める理系博士人材について」  
株式会社アカリク 執行役員 長 井 裕 樹
- ・ 14:00-15:00 「ドイツにおけるキャリア支援」  
独立行政法人 大学評価・学位授与機構長 野 上 智 行
- ・ 15:00-15:10 休憩
- ・ 15:10-15:30 「キャリア支援に関する学会の取り組み～日本分子生物学会を事例に～」  
総合研究大学院大学 遺伝学専攻 教授 小 林 武 彦
- ・ 15:30-16:10 「アジアにおける日本人博士のキャリア形成～シンガポールを事例に～」  
総合研究大学院大学 学融合推進センター 助教 奥 本 素 子
- ・ 16:10-16:50 「パネルディスカッション～大学院におけるキャリア支援～」
- ・ 16:50-17:00 閉会挨拶 （学融合推進センター長 平 田 光 司）



大学院におけるキャリアパス支援についての重要性を語る永山理事



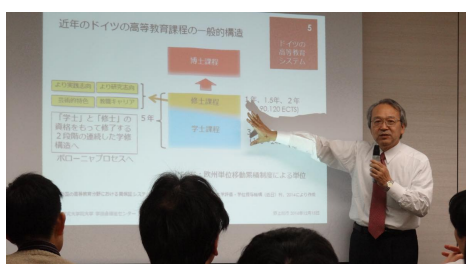
企業が求める博士人材について講演するアカリクの長井氏



積極的に講演に参加する聴衆



質問も飛び交う



ドイツ、ベルギーの博士過程におけるキャリア



学協会のキャリア支援について紹介する遺伝研

支援教育について語る学位授与機構の野上機構長の小林先生



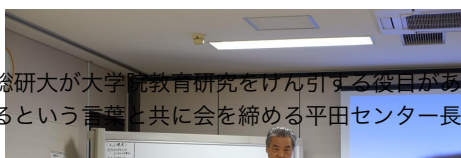
シンガポールのポストドク事情について報告する  
学融合推進センターの奥本助教



会場と共にパネルディスカッションを行う



活発に議論が交わされる様子



総研大が大学院教育研究をけん引する役目がある  
という言葉と共に会を締める平田センター長

## 大学院教育研究会 8 December 2016

### 第1回大学院教育研究会「大学院教育の課題と可能性」

～大学院教育は何ができるのか～

平成28年12月8日（木）に、一橋講堂において平成28年度大学院教育研究会が行われました。

第1部では東京大学・桜美林大学名誉教授の寺崎昌男先生に「大学院教育の課題と可能性」の題で講演をしていただきました。第2部では「大学院教育は何ができるのか」の題でパネルディスカッションを行い、総研大の先生からの事例報告をしていただき、ディスカッションを行いました。

#### 【大学院教育の課題と可能性】

第1部の寺崎先生のご講演では、近代の大学院教育の理念や制度的な背景について、また海外の大学院教育の紹介、現在の大学院教育がかかえる問題点などをお話いただきました。

1886年（明治19）年に日本に大学院制度が入ってきたものの、当時は大学院で論文を出して学位をとることは一般的ではなく、また、大学院は学部の付属機関にすぎなかった。それが戦後、占領軍の指導によって、アメリカ型の大学院が入ってきた。そこでは、大学院は学位の取得コースであり、また大学院は学部の付属機関ではなく、独立したスクールであると明確に位置づけられていた。しかし、この段階でも、博士の学位の水準は「独創的研究によって新領域を開拓」し、「研究を指導する能力を有する者」と非常に高く設定されており、3年で到達できるものではなかった。それが1974年の「大学院設置基準」で、博士課程を「自立した研究能力」と「豊かな学識」を養うものとして設定し直した。以降は、「教養ある専門人」をつくるために、課程性や総合性が重視されている。ただ、学部からの独立や総合性は、予算の問題や、事務系の負担などから、必ずしも実現されていない。

以上のようなお話をご自身の体験を交えながら大変わかりやすく説明してくださいました。

また、海外の大学院指導マニュアルについても紹介がありました。そこでは、指導のシーケンスへの対応の仕方や、面談と論文評価の重視性などが書かれているとのことでした。

その他、任期制が導入され、テニユアにつくのが非常に難しくなっている現在、無指導を放置しておくべきではないこと。また、博士号の氾濫が研究水準の低下をもたらすといわれるが、実際にはそうっていない。むしろどんどん出すようになれば、研究水準が上がる側面もあるなどのお話もされました。

#### 【大学院教育は何ができるのか】

第2部のパネルディスカッションでは、総研大から3人の先生が登壇し、大学院教育についての取り組みをそれぞれ紹介していただきました。

#### 【「大統合自然史（仮称）」について】

最初に、学融合推進センターの鎌田進先生から、全学教養科目「大統合自然史（仮称）」の授業開発についてのお話がありました。宇宙の誕生から現在までに起こったすべての事象を宇宙・地球・生命・人類の4つの切り口から扱うもので、自立した研究者として自らの研究の学問的および社会的位置づけを俯瞰する総合教育プログラムとして紹介がなされました。そして、夏に行われた試行授業「宇宙・地球編」の実際の様子についても報告していただきました。

#### 【フィールドにおける大学院教育】

次に、極域科学専攻の伊村智先生から、フィールドでの大学院教育の事例を報告していただきました。フィールド調査の仕方を具体的に教えるというより、現場に行ってデータをとることをとにかく重視するという、フィールドに即した研究という原則を教えているというお話をされました。しかし、一方では、先輩のやり方を見て学ぶのが慣例であり、大学院教育としての指導方法が確立されていないという問題点についても触れられました。

#### 【「生命科学プログレス」について】

最後に基礎生物学専攻の川口正代司先生から、ラボでの大学院教育の事例について、特に生命科学研究科で進めている「生命科学プログレス」というプログラムについて報告していただきました。このプログラムでは、1人の学生に対し、主任指導教員1名、指導教員1名、プログレス担当教員が2～3名、実験指導補助1名がつくことになっている。特にプログレス担当教員には所属する研究室以外の教員がつくことになっており、分野を超えた広い視点からのアドバイスが得られるなどの利点があり、成果をあげているというお話でした。

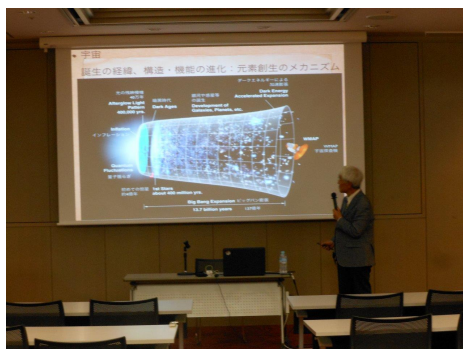
#### 【ディスカッション】

その後、フロアからの質問に答えるかたちで、ディスカッションが行われました。そこでは、今の自然科学は科研費のように計画があって、それをどうやって実行するかというやり方が主流となっているので、伊村先生のお話にあるような、はじめに現場を知り、そこから持ち帰ったデータをもとに次の計画を立てるというやり方は不利ではないかという質問がありました。伊村先生からは不利な点があるのは確か。しかし、最初から計画を立てていくやり方の場合、想定したものしか見えてこない。研究が小さくまとまってしまうのではないかとのお答えでした。また、総研大の先生による報告は理系の場合だったが、人文科学系の大学院教育は今どうなっているのかという質問がありました。これは寺崎先生から、今の学生には史料に「惑溺する」ということが経験が少なくなっている。また、学会に出ることがない学生もいるということで、学会で発表することの重要性についてもお話くださいました。最後に論文の探し方、書き方についてどのように指導されているか、という質問があり、川口先生から、特に論文の探し方を意識して指導したことはないとの回答。伊村先生も論文の書き方を積極的に指導したことはないが、アメリカの学部を出た学生が、論理的な文章の書き方がきちんとできていて、日本の大学の学生とレベルの差を感じたというお話をされました。寺崎先生はそれについて、カルチャーの違いが背景にあるのではないかと、以前アメリカ人の研究者



から日本人の発表は、ずっと"But","However","Although"と言っていて何が言いたいかわからない。自分たちはそうは言わない。  
 "And","So","Because",と話すのだというエピソードを紹介され、論理的な文章を書く訓練の必要性について議論がありました。

以上のように、大学院教育の歴史的背景、また現状の取り組みと問題点を共有することのできた、大変有意義な研究会でした。







## 大学院教育研究会 24 October 2017

平成29年度 大学院教育研究会

開催日時：平成29年10月24日（火）13:30-17:00

開催場所：一橋講堂2階 中会議室3・4  
（東京都千代田区一ツ橋2-1-2 学術総合センター2階）

### 【概要】

平成29年10月24日（火）に、一橋講堂において、平成29年度・大学院教育研究会が行われました。本研究会では、専門分野を超えた教育をテーマとして、講演と総研大における教育プログラムの開発・実践報告が行われました。また、専門分野を超えた教育に向けた課題についての議論も行われました。

### 【開会挨拶】

最初に嶋田先生から、開会挨拶があり、研究者になる学生には、専門性の追求と分野を超えた学びの両立が重要であることや、分野を超えた教育をする上での課題について情報交換することの必要性について言及されました。

### 【講演】

放送大の加藤先生から「社会文化的学習観と徒弟的教育の復権」という題で基調講演がありました。学習とは知識を獲得する過程であるとする認知主義的学習観に対して、学習を社会的なものと捉える社会文化的学習観についての紹介がありました。社会文化的学習観では、学習を全人格的にコミュニティに参加し、アイデンティティを獲得していく過程と捉えていることや、複数のコミュニティに属することで得られる越境的学びについての説明がありました。最後に、「技を盗め」というような態度は不适当であり、「背中を見せ」つつ、うまく学習の援助をすることが必要であるとの指摘がありました。

続いて、日本学術振興会の小平先生から「ドイツの教育・研究について」という題で特別公演がありました。ドイツの地政学的特徴と、ドイツの研究・教育環境の関係を中心としたお話がありました。日本のような海に囲まれた島国とは違って、ヨーロッパの国々は互いに地続きであることから、海外へ飛び出すことへの抵抗が少ないこと、さらには、研究組織を移るモビリティが非常に重要視されていることが説明されました。また、ドイツでは大学院生が研究グループのリーダーとなるための教育を受ける機会に恵まれており、学生が自主的に異なる研究機関を結ぶような研究を遂行できる環境にあることなどが紹介されました。日本とドイツの教育・研究制度について比べつつ、互いの良いところは見習っていききたいとお話でした。

### 【開発・実践報告】

日本歴史研究専攻の小島先生から「学術資料マネジメント教育プログラム」について報告がありました。プログラムの構成の全体像を説明されたのち、一例として、博物館コミュニケーション論についての紹介がありました。展示の方法として、観客と同じ位置に立ち、歴史像を作るお手伝いをするという理念のもと、観客に応じたワークシートを作成するという授業が行われていることが紹介されました。文系・理系を問わず、さまざまな専門の学生が参加することについて、文系の素養を理系に身につけてもらうに留まらず、互いに新たな視点の発見につながり、自分の学問について相対化するきっかけになったのではとの指摘がありました。一方で、他分野の学生への対応について、検討の余地があることが課題として挙げられました。

次に、生理学専攻の富永先生から「脳科学専攻間融合プログラム」について報告がありました。統計科学・情報学専攻との連携・協力関係や、受講生が幅広い専攻から参加していることについて説明がありました。特に、e-learningのコースである、一步一步学ぶ脳科学IIについて詳しく説明があり、一つの項目が大きな絵とその説明で構成されていること、時間と場所に拘束されずに受講可能であるため、研究で忙しい院生でも自分のペースで受講可能であることが紹介されました。

最後に、素粒子原子核専攻の田中先生から「センシング・コントロール・アナリシスを軸とした科学と技術の進化・分野融合をめざしたプラットフォーム構築統合教育プログラム」について報告がありました。加速器研究のコミュニティでは、研究者が研究のアクティビティを維持しつつ教育を行うことについて、早くから関心があったことを、アメリカ・ヨーロッパ・日本の例を比較しながら説明され、日本は他国よりも早く、このような活動を始めていたと指摘されました。学習から研究までシームレスに繋げるため、導入は座学、続いて身につけるための実践に向けた講義・演習、最終的にオン・ザ・ジョブ・トレーニングという流れで教育していることが紹介されました。また、若手の会によって、異分野の研究者の間で水平にノウハウが伝わっていることにも言及がありました。

### 【ディスカッション】

発表者を中心として、教育活動における越境について議論が行われました。小平先生からは、異分野・異文化から刺激を受けるのが基本であるというドイツの伝統的価値観について説明があり、モビリティに対して強迫観念のようなものすら感じるとの指摘がありました。小島先生からは、日本では研究室の学生に対する囲い込みが強く、越境を良しとしない環境にあるのではとの指摘があり、総研大は大学共同利用機関を専攻とした組織なので、逆に越境を促すよう各基盤機関がオープンになる必要があると訴えられました。田中先生からは、実験で重要なのは失敗についての情報であり、若手の会が失敗について情報交換する良い機会となっていると紹介されました。

### 【まとめ】

最後に本郷先生から、閉会挨拶があり、大学院教育において、越境が鍵であること、各プログラムの経緯について情報交換することの有効性について指摘されました。

大学院教育における越境の重要性を再認識するだけでなく、実際に、少なくない学生が、総研大のプログラムを通して越境する学びをしていることが確認されました。一方で、異分野の学生に対応することの難しさや、越境した学びを行う学生の少なさなど、将来の課題を把



握ることになった研究会でした。







## 大学院教育研究会 23 March 2017

### 第2回大学院教育研究会「大学院における授業」

#### 【概要】

平成29年3月23日（木）に、一橋講堂において平成28年度第2回大学院教育研究会が行われました。今回は「大学院における授業」というテーマで、研究の蓄積が少ない大学院教育における授業のあり方について、ワークショップ形式で議論がなされました。

#### 【話題提供「大学院における「授業論」】

はじめに学融合推進センターの七田麻美子先生から、「大学院における「授業論」」と題して話題提供がありました。最新の教育学の成果に基づいて、授業論をわかりやすく解説していただきました。

まず、授業の歴史的な背景から説き起こされ、一斉授業という形式が比較的新しい教育形式であること、授業を考える上で、現在は学習者中心主義が主流となっていること、経験主義と系統主義の違い、現在では、認知心理学の発達とともに、学習者の経験を拡張してゆく経験主義が主流となっていることなどの説明がありました。

また授業の構成要素として、教育目標、教材・教具、教授行為・学習形態、教育評価の4点をあげられ説明がありました。教育目標はその授業によって何ができるようになるか、何が身につくか。教材はその授業で何を学ぶか。ただし、教育目標と教材を混同している場合が多く、シラバス作成にあたってはその点も注意が必要であるということでした。

最後に、教育評価についても説明していただきました。教育評価は、学習目標にどれだけ近づいたかによって判断するべきということ。また、学生それぞれの学習の結果に対応するため、評価方法が多様化していることもお話がありました。テストやレポート以外に、学習者の活動を評価するパフォーマンス評価、到達点が教授者の意図と違ってしまった場合の学習効果を評価するためのゴールフリー評価。またそれと類似の試みとして、学習者がどういう授業を受けて、どういう評価を受けたかを教員のコメントもあわせて詳細に記録し、そこから総合的に学習活動を評価してゆくポートフォリオという試みも紹介していただきました。

#### 【ワークショップ1「大学院のシラバスとは」】

今回の研究会では、参加者のみなさんに授業シラバスを準備してもらうという事前課題が出されていました。ワークショップでは、七田先生の話題提供を受けて、準備してきたシラバスの中身を検討していくかたちで議論が行われました。そこでは、概要と目標の区別が明確になっていなかった、さまざまな専攻の学生を想定した授業だったので、ゴールフリー評価を知っていればそれを反映させればよかった等の意見が出ました。また、前任者のシラバスを参考にして書いたため、自分の研究内容がシラバスに反映されず、やや魅力に乏しいものになってしまったという意見もありました。学生の参加者からは、論文のアブストラクトのような書き方をしているシラバスが印象に残ったという意見もあり、どのようなシラバスが魅力的に見えるかという議論にもなりました。その他、大学院の場合、論文指導のシラバスはどうすべきかという問題もとりあげられました。

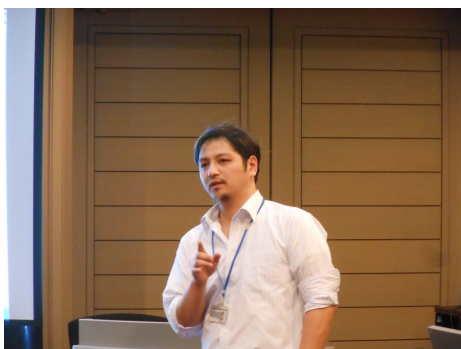
#### 【ワークショップ2「授業案を作ってみよう」】

また、授業案のあり方についても議論がなされました。特に問題としてとりあげられたのが、15回の授業を実施していく過程でシラバスの計画との間にズレがでてくる。このズレをどのようにコントロールするのかということでした。七田先生からはこれに対して最新の研究成果から学生が今全体の中のどの部分を学習しているか認知させる方法について紹介がありました。

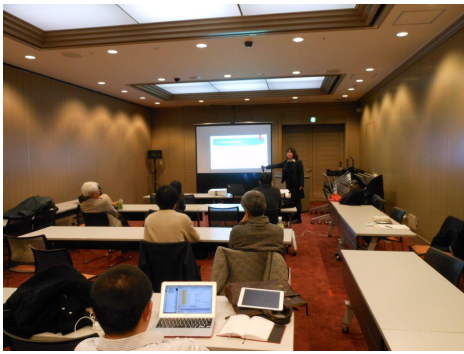
#### 【まとめ】

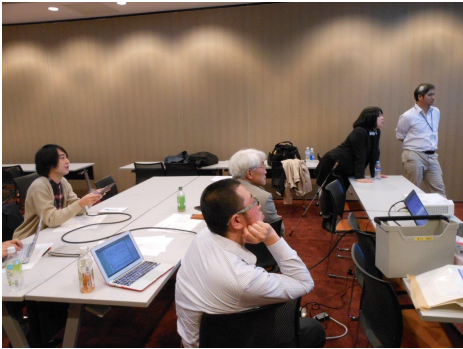
最後に行った全体討議では、大学院での講義は人数が少なく、また内容も学部比べて高度になってくるので、学部の講義とはまた違ったものになってくるのではないかと。大学院の場合はシラバスの質が低いから教育の質が低いということにはならないのではないか。また、シラバスを見て、面白い授業をやっていることがわかれば、大学の広報活動にも利用できるのではないかと。シラバスから、授業と授業の関係、全体の教育の中でのその授業の位置づけがわかるとさらによくなるのではないかと等、さまざまなコメントが寄せられました。

このように大学院教育における授業のあり方について、またシラバスの重要性について貴重な意見交換を行うことができた有意義な研究会でした。









## 国際シンポジウム



国際シンポジウム 3 February 2014



## 2013年度 国際シンポジウム

2014年2月3日(月)- 4日(火)に総研大葉山キャンパスで総研大国際シンポジウム「Modern Human Diversity on Genes and Culture- with special reference to Asia and Oceania -」が開催されました。

遺伝学専攻の斎藤成也先生を委員長として、人間社会における「多様性」をキーワードとして、主として遺伝子と文化の面から、現生人類の地球上への拡散につれてそれぞれの多様性がどのようなパターンで変化していったのかを明らかにすることを目的に企画されました。



考古学、言語学、遺伝学、文化交流の観点などさまざまな角度からヒトの移動とヒトの多様性についての研究成果が発表されました。『人間社会における「多様性」』というキーワードは同じでも研究分野は様々です。通常の学会ではなかなか同時に議論することができない研究者が一堂に会した本シンポジウムでは質疑応答も活発に行われました。



本シンポジウムは総研大が目指す学融合研究プロジェクトの成果の一つでもあります。同じ目標に向かって研究を進める時、自然と分野の境界は交わり、大きな成果をもたらすということを実感できたシンポジウムでした。

## 学術交流会

本学術交流会は、総研大教職員・在学生・修了生・名誉教授等から構成されるコミュニティメンバーと各専攻基盤機関のさらなる連携を目指す学術交流ネットワーク（All-Sokendai Academic Network, Soken-Anet）の強化に向けて、開催中に実施する学術講演会や学術交流フォーラム等の企画を通じて、総研大サイエンスフロンティアについて理解を深め、総研大における学術交流の推進を図ることを目的に開催します。



学術交流会 23-24 March 2015



学術交流会 19-20 March 2014



学術交流会 27 September 2013



学術交流会 23 March 2010



学術交流会 23 March 2009

## 学術交流会 23 March 2009

第3回総研大学術交流会開催（葉山キャンパス） [2009年3月]

<日時>2009年(平成21年)3月23日(月)

<会場>総研大葉山キャンパス・湘南国際村センター

<参加人数>60名：招聘講演者、総研大過年度修了生、在学生(3月修了生含む)、総研大教員

<主な行事>

- ・講演会 「総研大修了後の研究歴・現在の研究について」
- ・分科会（レクチャー&ディスカッション）「みんなで語ろう、研究者のキャリアパス！～欧米およびアジアで働く～」
- ・ポスタープレゼンテーション（在学生、学位取得者及び修了生による各自の研究内容）



平成17年度に行われた国際シンポジウム「アジア地域における学術文化交流ネットワーク」において、課題として提示された「国際的学術ネットワークの形成」を目指して開催されている学術交流会も今年で3回目を迎えました。

学術交流会では、各研究科から推薦された国際的に活躍する修了生が招聘され、研究成果の発表や議論が行われ、招聘者・教員・修了生・他専攻の学生間での様々な交流がありました。

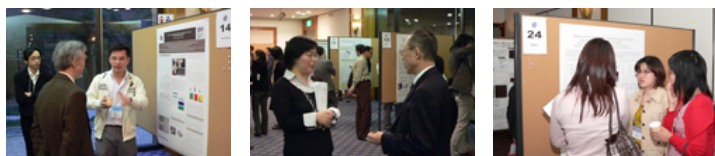
最初の学長挨拶の後、講演が行われました。竹丸先生はアメリカで研究室を構え、国籍の異なるポスドクや学生の指導を行なっています。講演では「Building a Successful Scientific Career」というタイトルの講演でポスドクやファカルティなどのアカデミックポストへの申請の仕方やアメリカのシステムについて、自身の経歴とともに紹介されました。また、どうしたらサイエンスにおいて成功を収められるかアクティビティを高く保つかなど最新の研究結果を含めとても面白く話されました。その話に学生たちの研究生活へのモチベーションがさらに上がったようです。

元外務省在ニュージーランド日本大使館 専門調査員の森本さんは「Hard time sometimes becomes a good time」というタイトルで話しましたが、博士課程で行った研究を活かすとともに、一般的なコースに嵌まらずに自分で研究の道を切り開いていく様子を、学生たちは心を強く動かしていました。



「みんなで語ろう、研究者のキャリアパス！～欧米およびアジアで働く～」として2つの分科会が行われ、それぞれ苦労した点やその国で働くことの面白さを紹介してくれました。分科会の4人の講演者に共通していたのは、強い好奇心を活かすことと与えられた状況を楽しむということでした。

1人の講演者はコミュニケーションスキルを学びたいために外国での研究生活を選びました。最初のうちは同じ英語でも出身国によって発音が異なるので、意思疎通が難しかったとのこと。それでも金曜日の夕食パーティに必ず参加するうちに、発音にも慣れ、今ではその研究所にいる多くのポスドクと研究面でも生活面でも気軽に話し合うことができるようになったそうです。もう一人の講演者は、国が違ってもYesの意味も違い、約束通りに研究が進まずがっかりすることも多いそうです。けれども恐れずにtryすることが大切で、だからこそ面白い研究や研究材料に巡り合うことができるのだと話してくれました。参加者たちはそれぞれの貴重な体験を大きく頷きながら聞いていました。



翌日学位を取得する学生が多く参加したポスター発表はとても充実していました。博士を取得に向けて行った研究はポスターにびっしり書き込まれており、奇数と偶数に分かれて行った正味2時間半のディスカッションタイムは短すぎたと不満も出るほど。このポスター発表のセッションには葉山にいるポスドクにも参加してもらったので、さらに盛り上がり、あちこちで熱く議論が続いていました。

その後の意見交換会では、これまでの研究生活やこれからのポストについて話は尽きず、笑い声や歓声が上がっていました。終始リラックスムードの中で、教員の方々が総研大から旅立つ学生に励ましの言葉をかけていました。

参加者に行ったアンケートでは、いずれのセッションも「大変参考になった」という意見が多く寄せられました。しかし、さらに専門的な研究についてもっと議論したいので、ポスターセッションを充実させてほしいという意見もありました。次年度の学術交流会からはベストポスター賞の表彰が企画されています。これにより参加者が増えてくれれば、要望に答えることができるのではないかと考えています。また、「今後協力して研究や事業のプロジェクトを行いましょう」といった相談をしている参加者もいて、ここで芽生えた繋がりが発展してくことを期待させてくれました。



時間	プログラム	
12:40-13:40	受付	
13:40-14:00	開会式 挨拶 高畑尚之 学長 司会 平田光司 学長補佐	
14:00-14:40	講演1 : Building a Successful Scientific Career 竹丸憲一 Assistant Professor, Takemaru Lab, SUNY at Stony Brook, Dept. of Pharmacology 遺伝学専攻1997年修了	
14:40-15:20	講演2 : Hard time sometimes becomes a good time 森本利恵 元 外務省在ニュージーランド日本大使館 専門調査員 地域文化学専攻 2006年修了	
15:20-15:30	休憩 (コーヒーブレイク)	
	分科会 (レクチャー&ディスカッション) "Let's talk! Career path: Working in Europe, USA or Asia"	
	グループA【欧米の研究環境】	グループB【アジア地域の研究環境】
	講演A-1 : What differs in the research environment between Japan and Europe: a personal view Leonard M.G.Chavas, Ph.D. Research Associate, The Univ. of Manchester 物質構造専攻2005年修了	講演B-1 : Postdoc-life in Taiwan 高橋智子 博士後研究員 台湾中央研究院天文及天文物理研究所 天文科学専攻2007年修了
15:30-17:00	講演A-2 : Research environment in the U.S. Kin Foon Kevin Wong, Ph.D. Research Fellow, Dept of Anesthesia and Critical Care, Massachusetts General Hospital, Harvard Medical School 統計科学専攻2006年修了	講演B-2 : Say! The latest situation of the lives as the researchers in China 米澤隆弘 講師, Fudan University (復旦大学) School of Life Science(生命科学学院) 生命体科学専攻2007年修了
17:00-17:30	参加者 チェックイン (宿泊室)	
17:30-18:50	ポスター発表 司会 岩瀬峰代 全学事業推進室 室長 奇数番号 : 17:30-18:10 偶数番号 : 18:10-18:50	
18:50-19:00	移動 (10分)	
19:00-21:00	意見交換会 (夕食) 司会 岩瀬峰代、米澤隆弘、鈴木留美子 挨拶 野村雅一 副学長 2008年度 学位取得者 一言スピーチ 祝辞 (田村義保 統計科学専攻教授、金子修 核融合科学専攻教授)	



(全学事業推進室 岩瀬峰代)

## 学術交流会 23 March 2010

第4回総研大学術交流会開催（葉山キャンパス）[2010年3月]

<日時>2010年(平成22年) 3月23日(火)

<会場>総研大葉山キャンパス・湘南国際村センター

<参加人数>60名：招聘講演者、総研大過年度修了生、在学生(3月修了生含む)、総研大教員

<主な行事>

- ・講演会“What is the style of professional research?”  
“Where is the next step?”  
“Identification of the phyB-protein complexes using proteomics approach”
- ・ワークショップ“The Road to be Researchers”
- ・ポスタープレゼンテーション（在学生、学位取得者及び修了生による各自の研究内容）

学位取得者を中心とした在校生と修了生との交流を目的とした総研大学術交流会も今年で4回目となりました。

今回の招聘した修了生には「プロフェッショナルの研究スタイルとは」というテーマで研究を遂行する上で大切なものについて後輩にアドバイスをお願いしました。

研究者にとって重要な能力は、岩井さんは「デスアドバンテージをアドバンテージに変えること」、Zhihong Wangは「集中力の大切さ」について話し、二藤さんは「極意があったら自分自身が知りたいが、海外での研究生活を楽しむことが必要」ということをお話してくれました。



また、今回は「研究者への道」としてワークショップを行い、研究者として進むに当たり、困難な状況が生じた場合どのように対応するかについて参加者同士が議論を行いました。いろいろな分野、そして学年も様々な学生が集まったこともあり、意見をまとめ、教員役の担当者に評価してもらうという作業に難航していました。しかし、他の学生や教員の考えを聞く良い機会になったようでした。

夕方からのポスターセッションでは、翌日学位取得する学生の研究や招聘された修了生の研究が発表され、熱心な議論が交わされました。

その後の懇談会では、翌日学位取得する学生が「総研大に入って他の研究室との交流が多く、研究も学生生活も楽しめた」、「実験をしていたら、翌日になっていた」という学位取得までの思い出や今後はポスドクとしてあるいは企業に就職してさらに発展したいと語ってくれました。

今回の学術交流会は在校生を含む参加した全員にとって「研究を続けていくために大切なこと」を考える場となりました。

（文責 学融合推進センター 講師 岩瀬峰代）

時間	プログラム	場所
12:40-13:40	受付 開会式	SVC 1階ロビー
13:40-14:00	挨拶 高畑尚之学長（予定） 講演1：What is the style of professional research? チュラーロンコーン大学文学部 東洋言語学科日本語講座 岩井 茂樹（国際日本研究専攻2004年度修了）	SVC 国際会議場
14:00-14:25	講演2：Where is the next step? 自然科学研究機構 分子科学研究所 Zhihong Wang（構造分子科学専攻2003年度修了） 講演3: Identification of the phyB-protein complexes using proteomics approach The Salk Institute for Biological Studies	SVC B1 国際会議場
14:25-14:50	二藤 和昌（基礎生物学専攻2002年度修了） 休憩（コーヒーブレイク） ワークショップ The Road to be Researchers	SVC
14:50-15:15		SVC
15:15-15:30		SVC
15:30-17:00	<b>S U G G O R O K U</b> コメンテーター 1. National Center for Theoretical Sciences Physics Division 瀬名波栄問（素粒子原子核専攻2005年度修了） 2. Khon Kaen University Department of Electrical Eng. RUANG CHAIJATUPON Nararat（情報学専攻2009年度修了） 3. 福井大学医学部 伊藤 慎治（光科学専攻2006年度修了）	SVC B1 国際会議場
17:00-17:30	参加者 チェックイン（宿泊室） ポスター発表	SVC
17:30-19:00	奇数番号：17:30-18:15 偶数番号：18:15-19:00 アンケート記入 意見交換会（夕食） 挨拶 野村雅一副学長（予定） 平成21年度学位授与者 一言スピーチ	SVC B1 国際会議場隣ホワイエ
19:00-19:10		
19:10-21:00		SVC B1 国際会議場

## 学術交流会 19-20 March 2014

### 総研大春季学位記授与式等及び学術交流会開催

葉山キャンパスにて春期学位記授与式および学術交流会が開催されました。



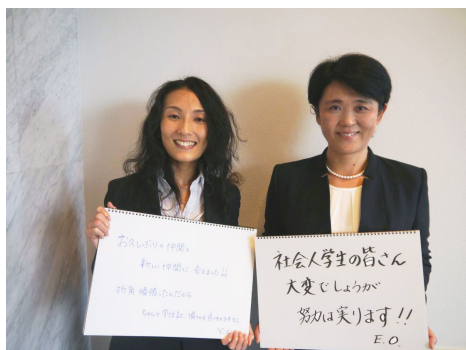
↑ クリック！

「顔の見える学位記授与式」と題して、修了生の夢や後輩へのメッセージを紹介する企画です。



修了生は、課程博士24名、論文博士3名、修士課程1名でした。

恩師とともに学位記を持って記念撮影。



仲間とともに卒業の喜びを分かち合います。



## 学術交流会 19-20 March 2014

### 総研大春季学位記授与式等及び学術交流会開催

葉山キャンパスにて春期学位記授与式および学術交流会が開催されました。

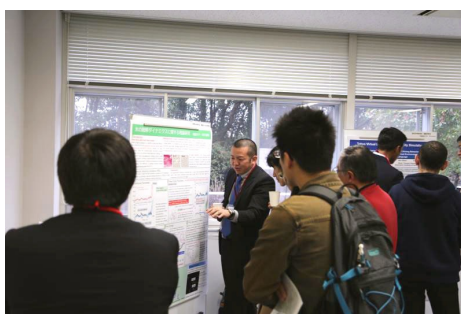


↑ クリック！

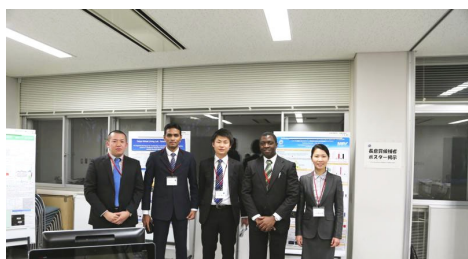
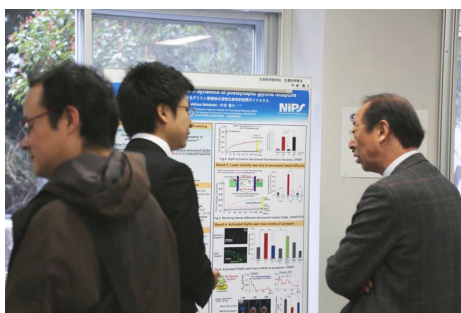
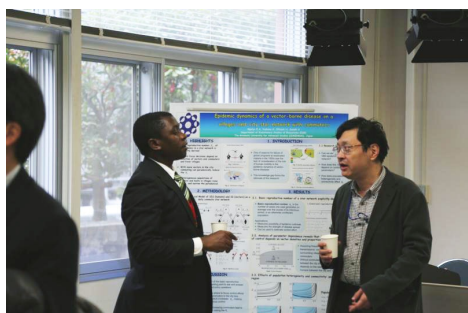
「顔の見える学位記授与式」と題して、修了生の夢や後輩へのメッセージを紹介する企画です。



学術交流会エキシビションの様子。



長倉賞候補者によるポスター発表。





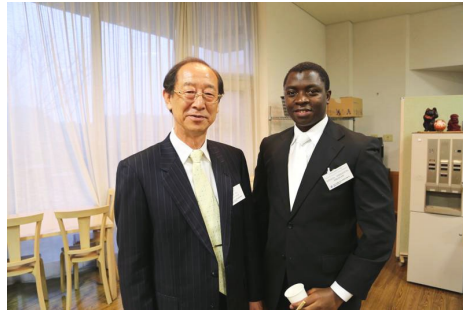
長倉賞受賞候補者 5 人。



修了生による座談会「総研大を語ろう」



懇親会。



学長との記念撮影。



お世話になった先生と。



## 学術交流会 23-24 March 2015

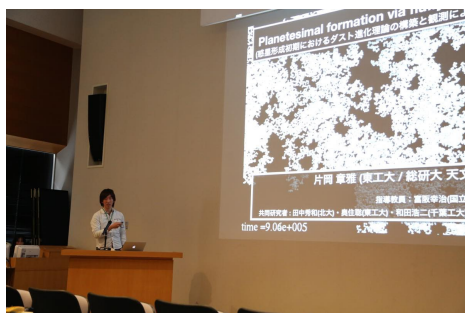
### 総研大春季学位記授与式等及び学術交流会開催

葉山キャンパスにて春期学位記授与式および学術交流会が開催されました。

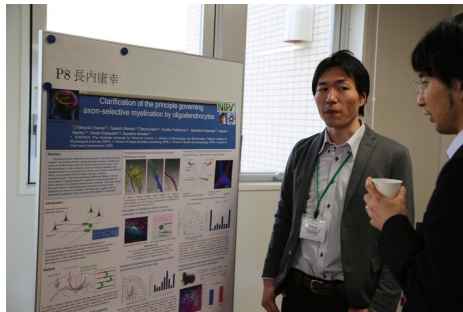
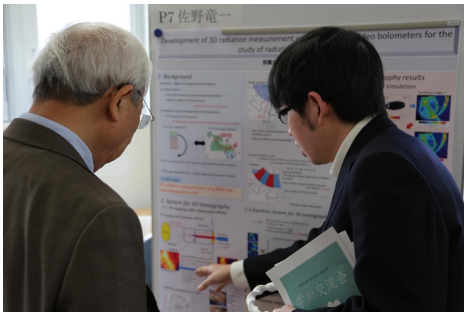
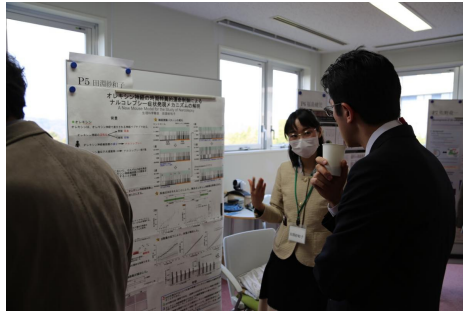
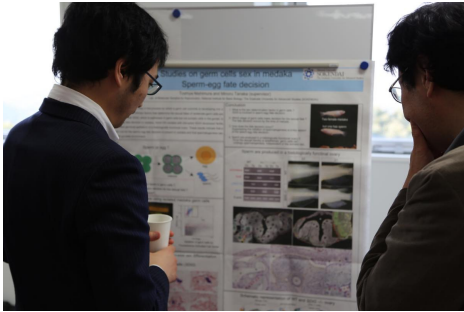
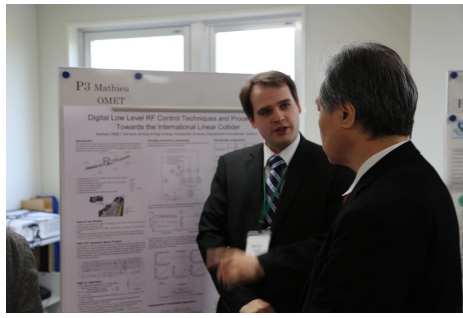
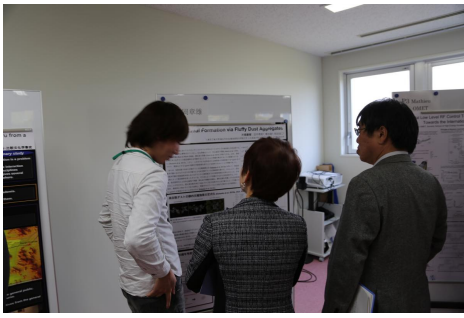


↑ クリック！

「顔の見える学位記授与式」と題して、修了生の夢や後輩へのメッセージを紹介する企画です。









## JSPSサマープログラム

日本学術振興会が主催するJSPSサマープログラムに総研大も協力しております。  
本プログラムの詳細は日本学術振興会の[webサイト](#)をご覧ください。



JSPSサマープログラム 8 August 2013



## JSPSサマープログラム 20 August 2013

JSPSサマー・プログラムで、アメリカ・イギリス・フランス・ドイツ・カナダ5ヶ国から来日した113名の若手研究者（フェロー）は全国各地の受入機関での2ヶ月間の研究活動を終え、8月20日にホテルグランドパレス（東京）でこのプログラムの最後となる報告会に集まりました。



自分の研究成果と日本で体験したことについて多くの写真を用いて報告してくれました。



ただ日本を観光として訪れたのでは決して得られない本物の経験をこの短期間で得ることができたことがとても良い経験だったという意見も寄せられました。

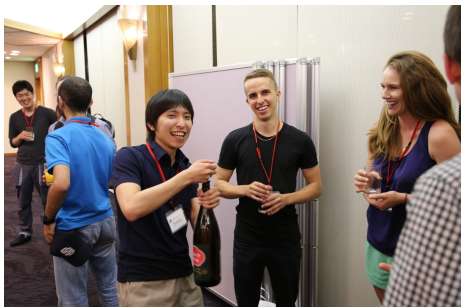


修了証授与式後は、日本学術振興会や海外協力機関からも多くの関係者、日本側受入研究者、6月のオリエンテーションで講演者の方々も参加いただき、日本滞在の締め括りにふさわしい盛大な送別会になりました。

## JSPSサマープログラム 11 June 2014

JSPSサマー・プログラムはJSPSが行う外国人特別研究員事業です。夏期の2ヶ月間、日本の受け入れ研究機関にて研究の機会を提供するプログラムになっております。そのプログラムの初めとして、JSPSと総研大が日本の文化等について、湘南国際村センターにてオリエンテーションを行います。

JSPSサマープログラムについて、詳しくは[こちらのページ](#)をご参照ください。



初日のレセプションにて。海外のフェローと交流する総研大生（左）、フェロー達は梅酒が気に入った様子（右）。



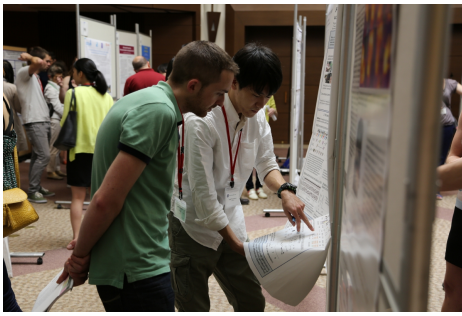
二日目、学融合推進センター特任教授の桑島先生によるタンパク質フォールディングに関するレクチャー（左）、フェローに混じり総研大生も受講（右）。



国文研のJohn BREEN先生による伊勢神宮に関するレクチャー（左）、日本の文化に興味津々のフェロー達（右）。



二日目の夜は日本の文化に触れる。着物姿で習字を学ぶフェロー（左）、お茶をたてるフェロー（右）。



三日目はポスター発表。フェローに自分の研究を説明する総研大生（左）、フェローの発表を聞く総研大生（右）。



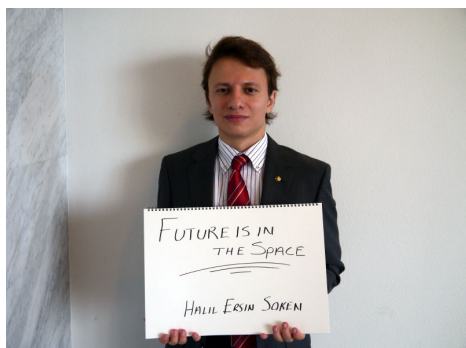
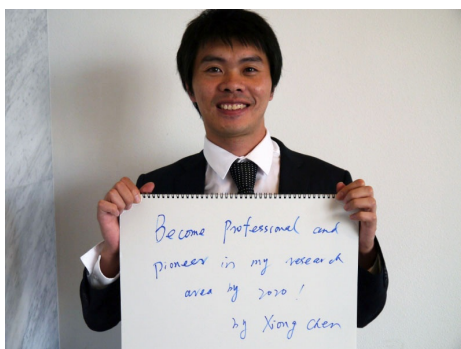
## 顔の見える学位記授与式

「顔の見える学位記授与式」と題して、修了生の夢や後輩へのメッセージを紹介する企画です。

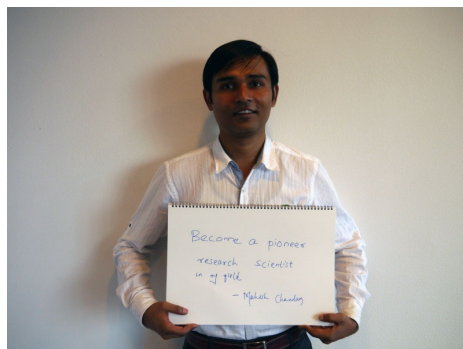
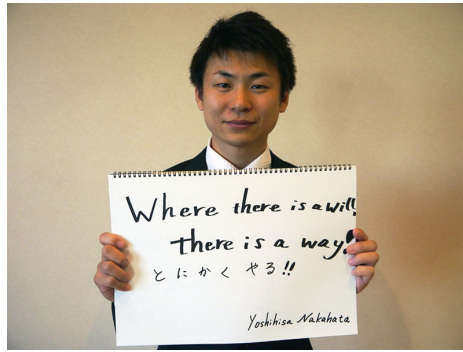
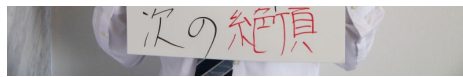


## 顔の見える学位記授与式

「顔の見える学位記授与式」と題して、修了生の夢や後輩へのメッセージを紹介する企画です。



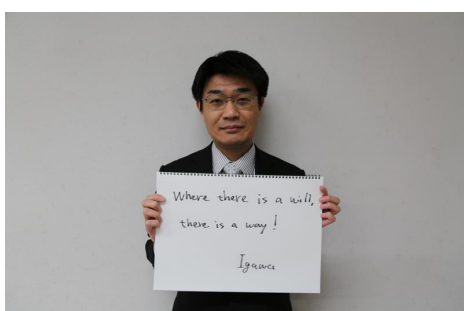
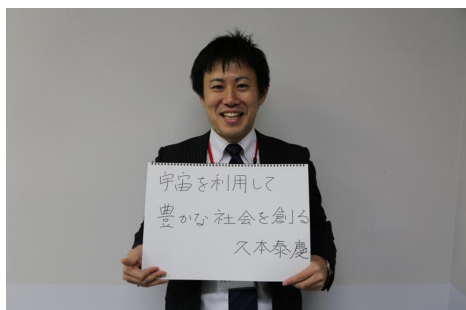
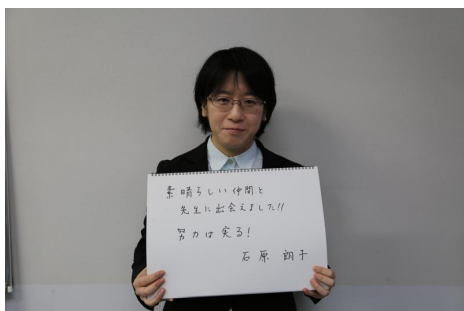
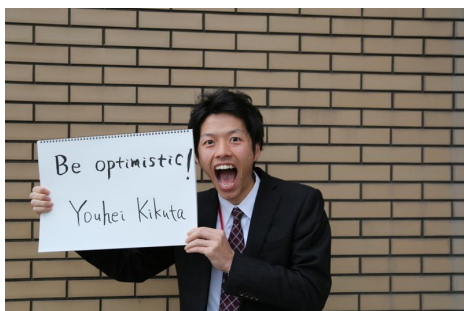


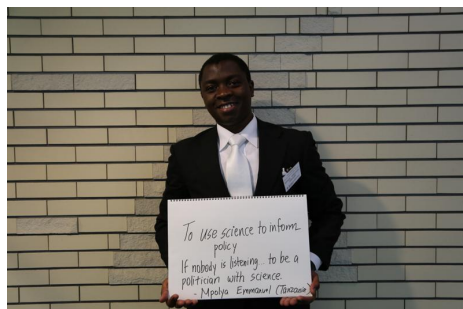
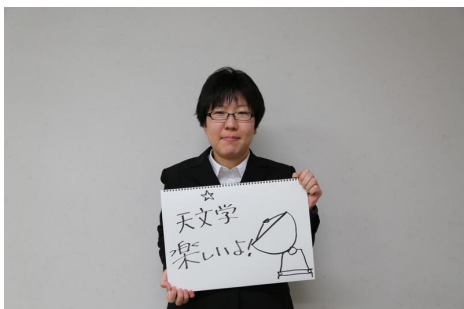
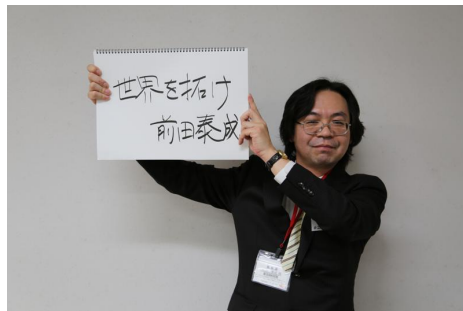
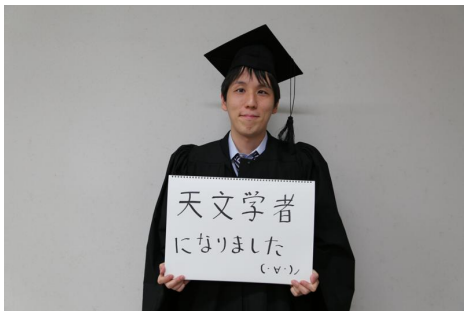
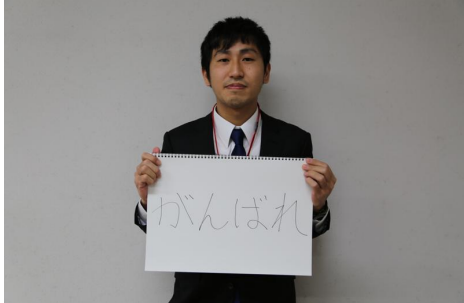
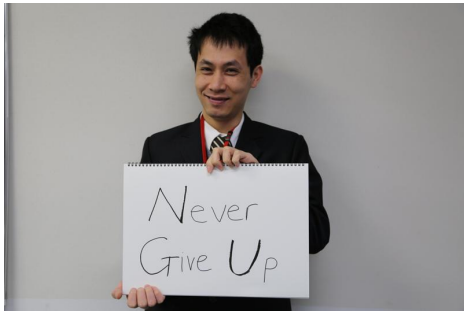




## 顔の見える学位記授与式

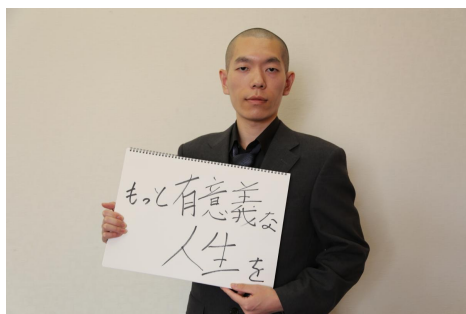
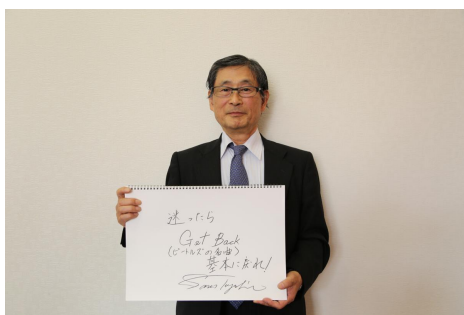
「顔の見える学位記授与式」と題して、修了生の夢や後輩へのメッセージを紹介する企画です。



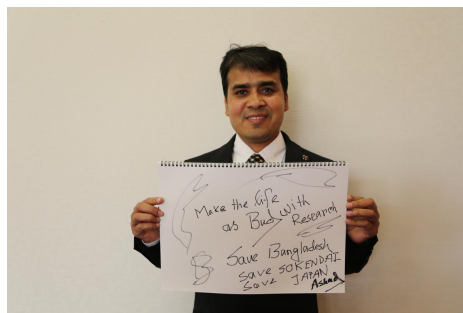
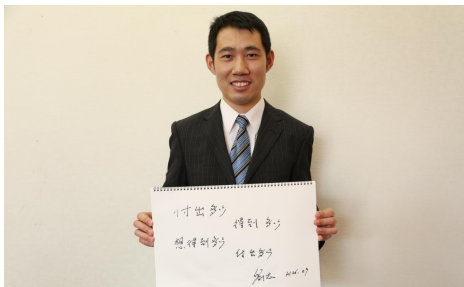
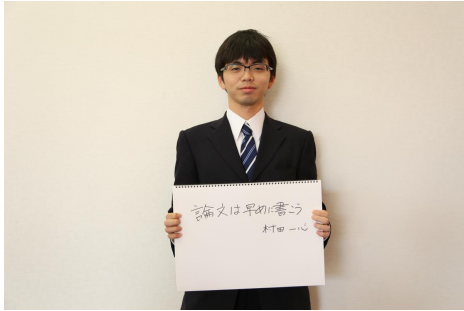
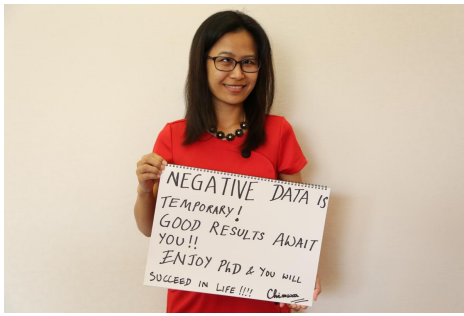


## 顔の見える学位記授与式

「顔の見える学位記授与式」と題して、修了生の夢や後輩へのメッセージを紹介する企画です。



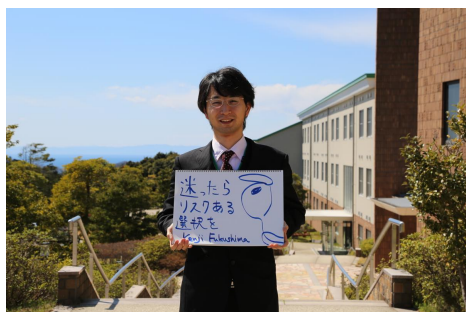
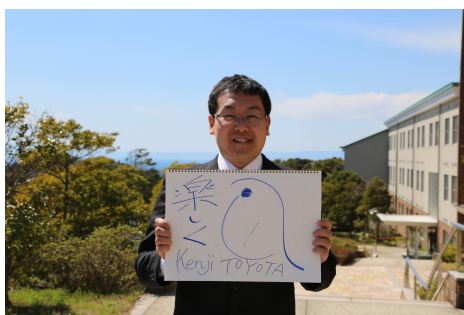
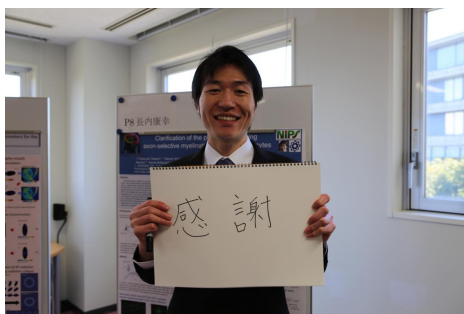
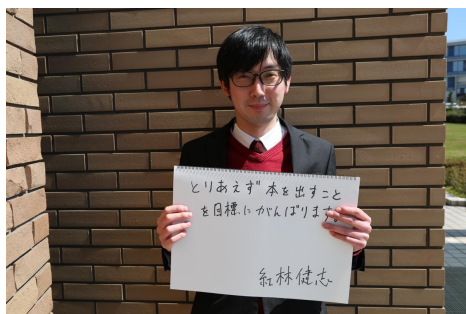






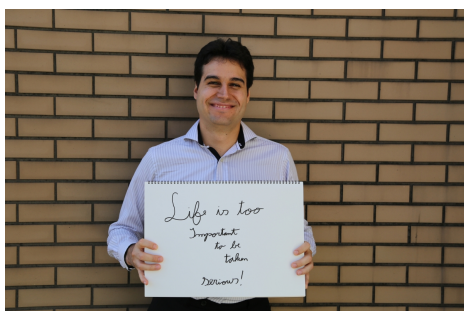
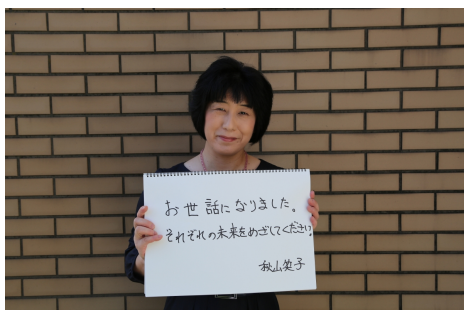
## 顔の見える学位記授与式

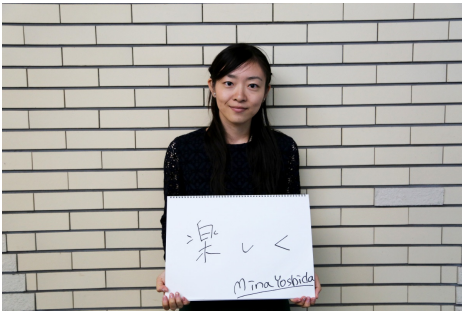
「顔の見える学位記授与式」と題して、修了生の夢や後輩へのメッセージを紹介する企画です。







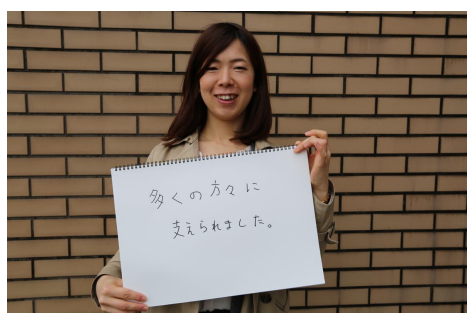
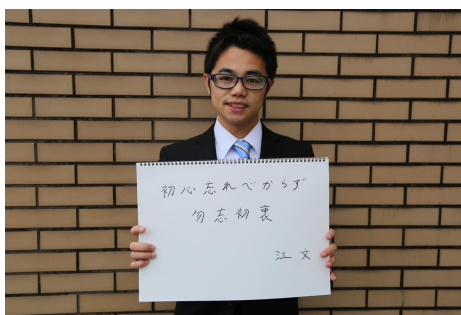


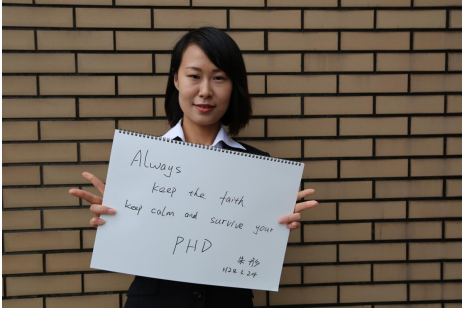




## 顔の見える学位記授与式

「顔の見える学位記授与式」と題して、修了生の夢や後輩へのメッセージを紹介する企画です。





## 学生企画事業 the Student-Initiated Programs



平成28年度の募集を開始しました。5/31締め切り

学融合推進センターでは総研大の教育研究理念に基づき、広い視野を持ち、実践的な問題解決能力を持つ研究者を育成するため、本学学生が主体となり研究科の枠を越えて企画実施する交流事業や、研究会、勉強会等のプロジェクトについて提案を募集します。

公募要領はこちら 

申請書及び報告書はこちら  

【Call for applications】 FY 2016 Call for Proposals for the Student-Initiated Programs The Center for the Promotion of Integrated Sciences **Deadline: May 31st, 2016**

The Center for the Promotion of Integrated Sciences (CPIS), under the SOKENDAI's education and research philosophy, invites proposals for the student-initiated programs that include interdisciplinary exchanges (of multiple schools/departments to plan and implement a program), research seminars, study workshops, and others. Through the student-initiated programs, we aim at training our students to gain a broad vision and to acquire practical problem-solving skills.

Guidance for proposal 2016 

FY 2016 Application Form & Final Report for FY 2016  

学生企画事業PR動画 日本語版

Student-initiated Programs (English)



学生が応募できる公募です。  
 交流イベントなど面白い企画をどしどしご提案ください！  
 こんなことがやりたいけど、具体的にどうしたら良いかわからないなど、事前にセンター教員にご相談くださればアドバイスもできます。

## 過去の学生企画の様子

### 研究活動の『これから』を考えるー全国のURA重点大学における研究支援システムの現状調査

#### SOKENDAI Student Conference 2014



The concept of the “SOKENDAI Student Conference 2014” student-initiated interdisciplinary educational program is to improve communication and foster collaboration of students, as well as researchers, across different areas of research in SOKENDAI. The program includes conducting interviews with students and researchers from different departments and research institutes. Proceedings will be recorded and will be published online in order to help everyone familiarize with the different institutes and departments of SOKENDAI.

These activities will be carried as part of the Graduate University for Advanced Studies’ student-initiated interdisciplinary educational program.

#### 「奈良のシカ」環境学習セミナー2014





本セミナーは、「奈良のシカ」の保護活動の現場、町づくりの実践現場、鹿垣の遺構現場、食害の現場など、人とシカとの共生に関わるさまざまな現場に着目しながら、都市における人と野生動物との共生について、ともに学び考え、共有・発信することを目的としています。

## 総研大ワークショップ



### 過去の学生企画の一覧

年度	プログラム名	専攻	申請代表者
平成19年度	総研大ワークショップ	宇宙科学専攻	三浦 政司
平成20年度	最先端科学と社会を結合するサイエンス・コミュニケーションの手法に関する研究?分離融合的アプローチ	宇宙科学専攻	稲見 華恵
平成20年度	総研大ワークショップ	日本歴史研究専攻	伊達 元成
平成21年度	大学院生のライフデザインを考える	比較文化学専攻	玉山 ともよ
平成21年度	岡崎08勉強会	構造分子科学専攻	塚原 侑平
平成21年度	Quarterly Student Magazine	加速器科学専攻	Abhay Deshpande
平成21年度	SOKENDAI Cultural & Educational Outreach Programme(SCOPE)	情報学専攻	奥野 敬丞
平成21年度	総研大ワークショップ	物質構造科学専攻	宮崎 正範
平成22年度	公開シンポジウム「現代中国における雲南少数民族芸能の現状と未来（仮）」と研究交流の実施	地域文化学専攻	伊藤 悟
平成22年度	総研大ワークショップ	宇宙科学専攻	久本 泰慶
平成22年度	総研大学際ネット	生理学専攻	上條 真弘
平成22年度	混合社会調査法を用いた科学研究機関における経営行動科学研究	生命共生体進化学専攻	加藤 直子
平成23年度	Sokendai-PUCO Interbnational Symposium of Public Archaeology	地域文化学専攻	Sausedo Segami Daniel Dante
平成23年度	科学と社会に関する研究討論会	生命共生体進化学専攻	中島 正貴
平成24年度	GakuSa y Net 大学院生交流会	極域科学専攻	小島 本葉
平成24年度	研究に関する情報の保護と利活用を考える会	遺伝学専攻	高橋 明大
平成26年度	産学・地域連携による交流型環境教育プロジェクト:「奈良のシカ」の保護活動から学ぶ都市における人と動物との共生	地域文化学専攻	東城 義則
平成26年度	Sokendai Student Conference 2014	情報学専攻	Osamunia Mohamed
平成27年度	研究活動の『これから』を考えるー全国のURA重点大学における研究支援システムの現状調査	生理学専攻	菊地原 沙織

## 学生企画交流掲示板

学生企画交流掲示板とは、専攻を超えた学生を中心とした交流の促進を目的とした企画です。[学生企画事業](#)のプロジェクトのアイデアはあるものの、他の専攻の学生を知らないためにチームを作れない場合など、この掲示板をご活用ください。こんな面白い交流企画を考えている、他専攻の学生と勉強会をしたい、〇〇専攻の学生を紹介して欲しい、とにかく飲み会をしたいなど、まずは、担当の塚原（tsukahara\_naoki[at]soken.ac.jp）までご連絡ください。

### 現在の募集

募集番号	募集開始日	探している人物	構想中のプロジェクト	募集者の専攻	募集者氏名
1 NEW	h28.4.15	研究助成金獲得の申請に興味がある学生 異分野の研究者と話をしたい学生	研究助成金獲得を目指した異分野の学生が集う勉強会	生命共生体進化学専攻	清古 貴



### 掲示板の利用方法（募集したい方）

募集を行いたい場合、以下の情報を担当の塚原（tsukahara\_naoki[at]soken.ac.jp）までお送りください。

- 1) 所属
- 2) 氏名
- 3) 連絡先（公開しません）
- 4) 募集者の情報がわかるwebサイトのURL
- 5) どんな人物を探しているか
- 6) 交流プロジェクトの構想（公開するかどうかは任意です。非公開のままでの募集も可能です。）

※ 募集期間は最長3ヶ月とします。延長する場合は再度申請していただきます。

### 掲示板の利用方法（興味を持たれた方、情報をお持ちの方）

各募集に興味を持たれた方は、以下の情報を担当の塚原（tsukahara\_naoki[at]soken.ac.jp）までお送りください。募集者と仲介をさせていただきます。

- 1) 所属
- 2) 氏名
- 3) 連絡先
- 4) 該当する募集の番号
- 5) コメント



## 学生企画事業 公募概要



**平成27年4月30日締め切り**

**過去の学生企画についてはこちら**

**公募要領をご確認の上、申請書と予算執行計画を提出してください。**

平成27年度 学生企画事業申請書 

the Application form 

平成27年度 学生企画事業予算執行計画 

平成27年度 公募要領 (pdfファイル) 

the Application guidelines (pdf file) 

### 公募概要

総研大の教育研究理念に基づき、広い視野を持ち、実践的な問題解決能力を持つ研究者を育成するため、本学学生が主体となって研究科の枠を越えて企画実施する交流事業や、研究会、勉強会等のプロジェクト について提案を募集します。

申請された事業の採択選定に際し、より良いプロジェクトとなるよう、当センターで条件を付す事があります。また、申請事業の計画及び実施においては、当センターの事業担当教員が支援します。

### 支援対象となる事業の例

- 特定の研究分野・テーマに偏らず全専攻の学生に共通したテーマを題材とする研究会
- 他大学との交流事業
- サイエンスカフェなどの社会連携事業
- IT を用いた総研大ネットワーク形成事業
- 学生間交流ネットワーク形成を目的とする交流会

### 申請書類の提出期日および提出先

**平成27年4月30日（木）迄必着。**

申請書（様式1）および予算執行計画（別紙1）を申請代表者が所属する各専攻長の確認を経て、総務 課学融合推進事務室学融合推進センター事務係宛に提出してください。

（Mail to: zengaku-edu@ml.soken.ac.jp）

### 申請額の上限

1 件当たりの申請額の上限は 200 万円以内。

### 申請資格等

本事業に提案することができる申請代表者は、本学の学生（平成27 年4 月1 日時点で在学中の者） とします。申請時点において休学中の学生及び平成27 年4 月以降に休学を予定する学生は、学生企画事業の申請代表者・事業担当者になることができません。

なお、1 人の者が複数の申請事業の代表者となることはできません。

### 申請に当たっての留意事項

①研究科を跨ぐ複数の専攻に所属する学生により構成される実施体制となっていること。なお、実施体制における各専攻に事業担当者（学生）をおくこと。

②申請代表者が所属する専攻から、1名以上の顧問教員が加わっていること。

顧問教員は、当該申請事業の趣旨について賛同し、配分される予算の執行や、購入物品の適切な管理等について責任を負うものとし、代表者は、必ず顧問教員の承諾を得て、申請書を提出してください。

③申請代表者以外の別の専攻に所属する事業担当者へ予算配分（基盤送金）をする場合は、その専攻にも顧問教員（副顧問）を置くこと。（申請書への記入は不要）

④申請代表者および事業担当者全員が申請時に指導教員の承諾を得ること

⑤申請様式において、本学が推進する以下のキーワードより申請事業の内容に該当すると思われる項目を選択すること。（複数選択可）

異分野連繋・社会連携・国際連携・学生間ネットワーク形成・世代間連携

⑥1つの事業を複数に分割して申請することは認めません。実施を行おうとする事業単位・目的に応じて申請してください。

⑦事業計画の大部分が特定の学生個人の研究活動に資する内容のものについては、本事業の支援対象外とします。

⑧本事業の企画するイベント等への参加は広く学内の学生に呼びかけるとともに、必要に応じて教員、学外の研究者等が参加することが可能です。申請時に参加者を全員確定しておく必要はありませんが、報告書には参加者の所属、氏名等を報告していただきます（様式2参照）。

## 経費の使途

### ①申請可能な経費

本事業計画に必要な以下の経費について、事業計画の実施期間（最長平成27年3月末日まで）における所要経費を申請して下さい。ただし、各年度の予算配分額は、本経費の当該年度の予算総額の範囲内で、事業計画の内容、計上経費の適切性を総合的に勘案し、年度ごとに決定します。（予算を基盤専攻において指向する場合には、専攻が属する機構等の規則に従ってください。）

【謝金等】本事業を遂行するにあたり必要な研究支援・専門的知識の提供等、協力を得た人に対する報酬等謝金、講師への賃金等。

【旅費】本事業を遂行するにあたり必要な旅費（国内旅費、外国旅費、学生移動経費、外国人招聘旅費等）。

【物件費】本事業を遂行するために必要な備品費、消耗品費、図書費。

【役務費】本事業を遂行するにあたり必要な印刷費、会場借料、その他業者への委託費等。

### ②申請できない経費

慰労会・懇親会等に係る飲食費（酒類は一切認めません）、建物・設備等の改修・修繕費、学生個人への学資金の援助、什器・PC（タブレット端末含む）の購入等、本事業の遂行と直接の関連が無い使途に使用することはできません。

※なお、PC・サーバ類等の備品購入が、提案事業の根幹を成す場合には、申請時点において事業遂行のため必要とする理由を明示する場合、購入が認められることがあります。詳細については、担当部署までお問い合わせください。

## 採択予算の配分について

採択された事業については、原則として顧問・副顧問教員が所属する専攻へ予算を配分（所属する機構法人等に送金）し、機構法人等の会計規程に基づき予算を執行してください。

なお、全学的な参加募集を行い実施するイベント企画など、申請時点で参加学生を特定することが困難な場合は、配分予算額の一部をセンターに留保し、センターの担当教員が予算管理や参加学生への交通費支給手続きなど執行の支援を行うことができます。

## 採否の決定

提出された申請書類の書面審査及び必要に応じヒアリング審査を実施の上、採択の可否、予算申請額の査定を行い、学融合推進センター運営委員会の議を経て決定します。

ヒアリング審査は、平成27年3月中に都内会場での実施を予定しております。審査日程、会場については、別途申請代表者へご案内いたします。

ヒアリング審査は、当研究事業の採否・予算配分額査定 of 重要なファクターとなることから、原則として申請代表者に出席いただくこととなりますので、予め承知おきください。

※申請代表者の学生が、既に予定されているご自身の研究活動や授業等により当日の参加対応ができない場合は、説明対応可能な事業分担者の代理出席を調整してください。

## 事業報告及び会計報告

採択事業については、平成28年1～2月に、葉山キャンパスで予定する実施報告会において公開による活動報告を行うことを義務づけます。また、事業終了後、1ヶ月以内に事業報告書を提出することとなります。

平成26年度に採択された学生企画事業を継続して申請する場合は、申請時に実施年度の事業実施報告書を提出する必要があります。事業実施報告書は、申請計画に基づき進捗・達成の状況を具体的に記載し、目標達成の度合いを参加人数等の客観的な数値に基づく評価を行ってください。事業終了後、予算執行額が確定次第、収支報告書を提出していただきます。

## 公表

当該事業の終了時に事業内容・事業実施報告書等を学融合推進センターウェブサイト等で公開する予定です。予めご了承願います。

## 本事業についての問い合わせ先

○各種公募事業の企画内容について  
学融合推進センター 学融合教育事業担当教員 本郷一美准教授  
E-mail : zengaku-edu@ml.soken.ac.jp

○各種申請書・報告書等、書類の提出先について  
総務課学融合推進事務室学融合推進センター事務係  
TEL : 046-858-1657、1629  
E-mail : zengaku-edu@ml.soken.ac.jp

## 平成26年度 採択一覧

申請事業区分	プログラム名称	専攻	申請代表者	事業予算額	報告書
学生企画による 教育研究プロジェクト	産学・地域連携による交流型環境教育プロジェクト:「奈良のシカ」の保護活動から学ぶ都市における人と動物との共生	地域文化学専攻	東城 義則	691,000	
学生企画による 教育研究プロジェクト	Sokendai Student Conference 2014	情報学専攻	Osamunia Mohamed	682,000	

## 平成27年2月28日締め切り

公募要領をご確認の上、申請書と予算執行計画を提出してください。

平成27年度 公募要領 

平成27年度 学生企画事業申請書 

平成27年度 学生企画事業予算執行計画 

過去の学生企画についてはこちら



## 学生企画会議 7 February 2015

学融合推進センターでは本学学生の広い視野涵養を目指し、来年度より学生の全学的な学際交流活動を支援する学生企画事業の改革を行っております。来年度の学生企画に興味がある学生と共に、来年度の学生企画に関する様々なアイデアの創出を目指し総研大学生企画会議を開催します。これまで学融合推進センターの事業にかかわってきた学生のみならず、参加希望する学生を全学より広く募集いたします

### 学生企画会議の詳細

日時：平成27年2月7日(土)～2月8日(日)  
(2月7日15時30分集合・2月8日昼解散予定)

場所：岡崎コンフェレンスセンター 中会議室  
(〒444-0864 愛知県岡崎市明大寺町伝馬8-1)  
(協力：機能分子科学専攻中村敏和 准教授)

予定：2月7日(土)

15：30-20：00 企画会議①

- ・「学生企画事業の改革について」 (15：30-16：30)  
学融合推進センター 平田光司 教授
- ・「学際研究としてのサイエンス・コミュニケーション」 (16：30-17：30)  
機能分子科学専攻中村敏和 准教授
- 休憩 (17：30～18：00)
- ・「都市型野生動物の保護活動を基盤とした環境教育事業 —人文科学から展望する内発的な文理融合—」 (18：00-19：00)  
地域文化化学専攻 東城義則
- ・「学生により意見交換会」 (19：00-20：30)  
＊意見交換会は夕食を兼ねたバンケットになります。その費用は自費負担です。

2月8日(日)

10：00-12：00 企画会議②

- ・「全学の学生による研究交流会、総研大ワークショップ」 (10：00-11：00)  
学融合推進センター 奥本素子 助教
- ・「来年度の学生企画に向けて」 (11：00-12：00)  
司会 学融合推進センター 奥本素子 助教

### 会議の様子

[ブログ記事もご覧ください。](#)

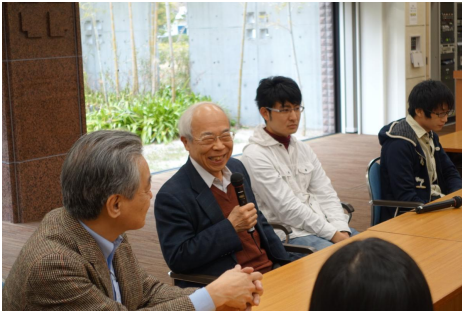


岡崎コンフェレンスセンターにて



参加者による自己紹介





学長も激励に訪れてくださいました

東城さんによる過去の企画事業の紹介



## お知らせ

- 2015年9月29日 総研大URAカフェを11月14日（土）に[東京八重洲会議室](#)にて開催します。
- 2015年7月6日 大阪大 大型教育研究プロジェクト支援室 訪問
- 2015年7月3日 RA協議会参加者募集開始
- 2015年6月15日 信州大 URA室 訪問（[学融合のひと・こと（ブログ）](#)にて活動報告中）
- 2015年5月26日 金沢大 先端科学・イノベーション推進機構 訪問（[学融合のひと・こと（ブログ）](#)にて活動報告中）





## 総研大 URA 研究会とは

総合研究大学院大学（以下、総研大）が実施する、学生企画事業のプロジェクトチームです。総研大の現役の大学院生が立案、実施しています。

博士号取得者が、これからはどのような役割を担って、ひとひとの役に立ていけるのか。

この問いが、私たちの出発点です。

そこで私たちは、博士号取得者のキャリアのひとつとして、University Research Administrator（以下 URA）という研究活動をサポートする専門職に注目しています。

このプロジェクトでは、総研大学融合推進センターの支援のもと、URA を視野に入れたキャリアプランニング事業をおこないます。

このプロジェクトでは、以下の活動をおこないます。

1. URA の職務に求められる専門性やスキルについて  
学生自身の手で調べ、正しく現状を理解する
2. 研究者の道を進む学生も、他のキャリアを考えている学生も一緒に、自分達の世代が今後取り組んでいく課題を整理する

この活動を通して、各基盤機関での研究活動では得ることができない、分野を超えた人たちと知り合う機会を得ることもできます。これまでの自分がいた枠を超えて、新しい仲間と出会い、一緒に今後のキャリアを考えてみませんか？

代表者 総合研究大学院大学 生命科学研究科 菊地原沙織

## URA とは

- ・研究者同士の連携
- ・研究費の獲得
- ・プロジェクトのマネジメント
- ・産学官金連携
- ・研究活動のアウトリーチ

などの幅広い場面で、研究者の研究活動をサポートする専門職で、近年、多くの大学や研究機関が導入を進めています。

深く専門を理解し、広い視野を持って問題解決できる博士人材が、その能力を研究活動のために積極的に役立てていくキャリアのひとつでもある URA に、私たちは注目しています。



## 研究のマネジメント

研究費の獲得

産学官金の連携

倫理面・安全面の説明

参考資料 文部科学省 HP 科学技術・学術  
[http://www.mext.go.jp/a\\_003.htm](http://www.mext.go.jp/a_003.htm)

公開イベント



## 総研大 URA カフェ

### 参加者募集中！



研究活動は、これからどう変わっていくの？

参加者同士でぜひ意見交換！

現職の URA と対話。

将来の参考になる話が聞けるかも。

URA ってどんな仕事をしているの？

調査の成果を発表します。

2015 年 11 月 14 日（土） 東京八重洲会議室

13:00-17:30 ※終了後、懇親会を予定

参加登録方法は、[こちら](#)

## 総研大 URA カフェの参加登録

氏名、所属、電話番号、メールアドレスを  
ご明記の上、下記宛先までメールでご連絡ください。

総研大 URA 研究会（代表）  
2015.std.project@gmail.com





ご質問・ご連絡は [こちら](#) まで

総研大 URA 研究会（代表）

2015.std.project@gmail.com



## 総合研究大学院大学



国立大学法人

総合研究大学院大学

THE GRADUATE UNIVERSITY FOR ADVANCED STUDIES [SOKENDAI]

## 総合研究大学院大学 学融合推進センター



総合研究大学院大学

学融合推進センター CPIS

The Center for the Promotion of Integrated Sciences



総合研究大学院大学 学融合推進センター  
基盤整備事業（WEB サイト）報告書  
第 2 卷

---

発行日：2018/03/31

発行：総合研究大学院大学 学融合推進センター  
〒240-1093 神奈川県三浦郡葉山町（湘南国際村）